

### 3 小学校・中学校・高等学校における学習

#### (1) 指導計画例の見方

B 書くこと〔小学校中学年〕

当該領域の目標

ゴシック体は、本単元で選択した内容

##### 【目標】

相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように、段落相互の関係などに注意して文章を書く能力を身に付けさせるとともに、工夫をしながら書こうとする態度を育てる。

##### 【指導事項】

ウ 書こうとするものの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。

指導事項を1～2項目選択する。場合によっては、指導事項の中を更に分割することもある。つまり、選択する際、指導事項にある全ての能力を扱う必要はなく、一部のみを扱うことも考えられる。その場合、年間の中で全ての指導事項を扱うよう留意する。

##### 【言語活動例】

イ 疑問に思ったことを調べて、報告する文章を書いたり、学級新聞などに表したりすること。

指導事項の指導に適した言語活動例を選択する。

身に付けさせたい力に即した児童生徒の言語能力の実態を明確にする。既習事項のうち、○身に付けてきた力と、◆課題が見られる力を記入する。

##### 【「書くこと」における児童の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

- 時間的な順序、事柄の順序にしたがって文章を書く。
- 書こうとする事柄の中心を決め、文章の内容の焦点を絞って
- ◆ひとまとまりの内容ごとに段落を構成するとともに…。

①〈国語への関心・意欲・態度〉  
②〈領域の指導事項〉③〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〉の3点セットで設定。  
〈関心・意欲・態度〉←【目標等】  
〈指導事項〉←【領域の指導事項】  
〈伝統的な…〉←【伝統的な…】

##### 【身に付けさせたい力】

- ①相手や目的に応じ…〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②書こうとするものの…〈「書くこと」(ウ)〉
- ③句読点を適切に打…  
〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(エ)〉

##### 【言語活動例】疑問に思ったことを調べて、…表すこと。〈イ〉

##### 【単元名】学級新聞を作ろう～中心を明確にして書く～

##### 【教材名・教材の特長】「学級新聞を作ろう」(教育出版 4年上)

- ・新聞記事としての特徴を理解し、文章の構成や使う語句…。
- ・取り上げる記事の内容を選択したり見出しを工夫したり…。
- ・中心となる内容を明確にし、段落相互を関係付けながら書く上で

前半には言語活動を、後半の「～」以降には身に付けさせたい力を記している。

教材の持つ特長を【身に付けさせたい力】に照らし合わせて記載する。

##### 【言語活動】

学校生活において関心を持った出来事を、学級新聞に表す。〈イ〉

単元目標と評価規準を設定する。ここには単元目標のみを示す。

身に付けさせたい力や教材に合わせて、言語活動例を具体化する。

##### 【単元目標】

- ①関心を持った出来事…書こうとする。〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②書こうとする内容の中心を明確にし、…書く。〈「書くこと」イ〉
- ③句読点を適切に打ち、…書く。〈伝統的な言語文化と国語の特質

身に付けさせたい力、教材の特長、言語活動を踏まえて、具体化する。

※【身に付けさせたい力】【単元目標】【Cと評価した児童生徒…】の①②③は連動している。

※単元目標の文末表現は、上記ゴシック体のように表記する。

「資料等の利用を図る学習活動」、「読書活動の充実」及び「他教科との連携」は、「発展的な学習の内容」を指している。※p. 6(3)を参照

【授業の具体例】

資料等の利用を図る学習活動

時	評価規準	評価方法	学習活動
1	<p>第1時については、目標はあるが、評価を行わない場合もある。</p>	<p>全員の児童生徒の学習の様子を評価するための評価方法。</p>	<p>学校生活での様々な出来事を振り返り、家庭や地域に伝える新聞を書くことを理解する</p> <p>「記事の書き方」と効果を、モデル新聞から見出す</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>導入の工夫を図り、教材への興味・関心を持たせる。</li> <li>身に付けさせたい力を理解させ、学習の目的や見通しを持たせる。</li> <li>言語活動の見通しを持たせる。</li> </ul>
2 3 4 5 6 7	<p>②書こうとする内容の中心を明確にし、事実が伝わるよう理由や事例を挙げながら書いている。</p> <p>〈「書く能力」ウ〉</p> <p>③句読点を適切に打ち、また、段落の始めについては行を改めて書いている。</p> <p>〈言語についての知識・理解・技能イ(エ)〉</p>	<p>ワークシート</p> <p>構想メモ</p>	<p>グループで新聞づくりの計画を立て、記事を書く見通しを持つ</p> <p>構成を考え、吟味する</p> <p>記事の下書きをする</p> <p>学習過程において、言語活動を通して目標に設定した言語能力を育むことができるよう、意図的な展開を組む。</p>
8 9 10 11	<p>①関心を持った出来事が伝わるように、構成等を工夫しながら新聞記事を書こうとしている。</p> <p>〈国語への関心・意欲・態度〉</p> <p>どの時間にどの目標項目を指導し、評価をするか、見通しを持った評価計画を立てる。</p>	<p>原稿</p> <p>評価カード</p>	<p>下書きを推敲する</p> <p>新聞を仕上げる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>考えたことを、表現・表出する活動を設定する。</li> <li>考えたことを交流する場や機会を設定する。</li> </ul> <p>視点に沿って説明し合い、作品を評価し合う</p> <p>自らの言語活動を振り返り、以後の学習等につなげる。</p>

【Cと評価した児童への手立ての例（上記の評価規準の順）】

- ②伝えたい内容に合わせて収集した情報等を…〈ウ〉
- ③主語や並列する語の後に読点を打つなど…〈イ(エ)〉
- ①家族が知りたいこと、…〈国語への関心・意欲・態度〉

【授業の具体例】の評価規準の順に、「手立ての例」を示している。

【評価規準】に照らし合わせ、Cと評価した児童生徒への手立てを記す。「学習内容の系統」を参考にし、つまりいている箇所を確認し、手立てを講じる。

(2) 「A話すこと・聞くこと」

A話すこと・聞くこと [小学校低学年]

【目標】

相手に応じ、身近なことなどについて、事柄の順序を考えながら話す能力、大事なことを落とさないように聞く能力、話題に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに、進んで話したり聞いたりしようとする態度を育てる。

【指導事項】

- ア 身近なことや経験したことなどから話題を決め、必要な事柄を思い出すこと。
- イ 相手に応じて、話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話すこと。
- ウ 姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりした発音で話すこと。
- エ 大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くこと。
- オ 互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合うこと。

【言語活動例】

- ア 事物の説明や経験の報告をしたり、それらを聞いて感想を述べたりすること。
- イ 尋ねたり応答したり、グループで話し合っって考えを一つにまとめたりすること。
- ウ 場面に合わせてあいさつをしたり、必要なことについて身近な人と連絡を合ったりすること。
- エ 知らせたいことなどについて身近な人に紹介したり、それを聞いたりすること。

【「話すこと・聞くこと」における児童の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

- 与えられた中から話題を選ぶ。
- 事柄を順序に沿って聞き取る。
- ◆経験したことの中から自分で話題を決め、その時の様子や気持ちなどを思い出す。
- ◆大事なことを落とさないように相手の話を聞き取る。

【身に付けさせたい力】

- ①身近なことなどについて、大事なことを落とさないように聞く能力を身に付けさせるとともに、進んで話したり聞いたりしようとする態度を育てる。 〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②身近なことや経験したことなどから話題を決め、必要な事柄を思い出すこと。 〈「話すこと・聞くこと」ア〉
- ③大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くこと。 〈「話すこと・聞くこと」エ〉
- ④言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ア)〉

【言語活動例】 事物の説明や経験の報告をしたり、それらを聞いて感想を述べたりすること。 〈ア〉

【単元名】 おてつだいを紹介しよう～経験したことを想起する・大事なことを落とさないように聞く～

【教材名・教材の特長】 「おてつだいを して いるよ」 (学校図書 2年上)

- ・身近なことや経験したことを話題とするため興味・関心が高まりやすい。
- ・「おてつだい」していることをどのように伝えたらよいのか、例が示されていて分かりやすく、必要な事柄を想起する手掛かりともなる。
- ・1「準備をしよう」、2「紹介をしよう」、3「感想を伝えよう」の構成になっていて、既習内容を活用しながら聞く力を身に付けることができる。

【言語活動】

手伝いをしたことについて友達に紹介したり、それを聞いたりする。 〈ア〉

【単元目標】

- ①「おてつだい」の様子や伝えたい気持ちを話したり、その話を聞いたりしようとする。 〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②「おてつだい」の内容を決定し、その時の様子や気持ちを思い出す。 〈「話すこと・聞くこと」ア〉
- ③相手の話に関心を持ち、相手が伝えたい話の大事なことを落とさないようにしながら聞き、感想を述べる。 〈「話すこと・聞くこと」エ〉
- ④言葉には、経験したことを伝える働きがあることに気付く。 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ア)〉

【授業の具体例】

時	評価規準	評価方法	学習活動
1			<p>学習のめあて「自分のおてつだい」を紹介することと、最後に、友達に感想を伝えることを知る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな手伝いをしたのか、その時どんな気持ちになったのか、教師と友達との質問を交えたやりとりを見る中で、「必要な事柄の思い出し方」を理解する。</li> <li>・聞いている児童は、板書を参考に質問のやりとりをできる範囲でメモをする。</li> </ul>
2	②手伝いをした時の様子や気持ちを思い出している。 〈「話す・聞く能力」ア〉	ワークシート 交流場面	<p>ワークシート（教科書P.43）を利用して、「おてつだいたしたこと」と「どのような気持ち」を書き込み、紹介し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3人以上の友達と交流をする。</li> <li>・質問し合うことで、「必要な事項」（お手伝いの様子やその時の気持ち）を思い出す。</li> </ul>
3	④言葉には、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。 〈言語についての知識・理解・技能イ(7)〉	発表原稿 発表練習	<p>手伝いの内容を決定し、その時の様子や気持ちなどを思い出しながら話す順序の構成をし、ペアで発表練習をする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モデル作文（教科書P.44,45）を読んで、言葉には経験したことを伝える働きがあることに気づき、使われている言葉の工夫などを見付け出す。</li> <li>・順序を表す言葉や、五感を通して感じたことなど、例文の工夫点や効果的な面を自分の作文にも取り入れる。</li> <li>・手伝いの内容や流れ、その時の様子や気持ち、会話などを具体的に思い出し、付箋を利用して分けて書いておき、組み立てていく。</li> <li>・原稿を書き、ペアで発表練習をする。</li> <li>・「声の大きさ」「くぎるところ」「話すはやさ」「はっきりしたはつ音」など、声のものさしの確認をする。</li> </ul>
4	②「おてつだい」の内容を決定し、その時の様子や気持ちを思い出している。 〈「話す・聞く能力」ア〉		
5			
6	③相手の話に関心を持ち、相手が	発表	<p>友達の紹介を聞き、感想を伝える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表前に聞き取りカードを配り、書き込む内容を確認することで、話し手、聞き手の視点を持つ。</li> <li>・練習後、グループ内発表をする。</li> <li>・グループ内でペアを替えながら複数回行う。</li> <li>・聞き手は、カードを使って、「おてつだいのないよう」など、必要なことを聞き取る。本人も自己評価として記入する。</li> </ul>
7	伝えたい話の大事なことを落と	発表原稿	
8	さないようにしながら聞き、感想	聞き取りカード	
9	を述べている。 〈「話す・聞く能力」エ〉		
	①「おてつだい」の様子や伝えたい気持ちを話したり、その話を聞いたたりしようとしている。 〈国語への関心・意欲・態度〉		
		振り返りカード	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・話すはやさ ・声の大きさ ・おてつだいのようすを聞いて思ったこと、じぶんもしてみたいと思ったことなど</p> <p>とてもよい よい もうすこし</p> <p>とてもよい よい もうすこし</p> <p>とてもよい よい もうすこし</p> <p>メモ 〇〇のおてつだいをした 〇〇さんへ</p> </div> <p>・カードを使ってグループの中で聞き取った内容を確認し合う。 話題設定の仕方や話の聞き方について振り返る</p>

【Cと評価した児童への手立ての例（上記の評価規準の順）】

- ②手伝いの内容を、例文を参考に様子や気持ちとに分けながら思い出そう助言する。〈ア〉
- ④「この言葉を使うと様子が分かるね。」など、言葉の働きを意識させる声掛けをする。〈イ(7)〉
- ③「〇〇のおてつだいをした〇〇さんへ」だけでも書くよう助言する。〈エ〉
- ①原稿をしっかりと書かせることで発表への自信を持てるようにする。また、お手伝いの「内容」と「気持ち」の二つに分けて聞き、メモをすることを助言する。〈国語への関心・意欲・態度〉

## A 話すこと・聞くこと〔小学校中学年〕

### 【目標】

相手や目的に応じ、調べたことなどについて、筋道を立てて話す能力、話の中心に気を付けて聞く能力、進行に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに、工夫をしながら話したり聞いたりしようとする態度を育てる。

### 【指導事項】

- ア 関心のあることなどから話題を決め、必要な事柄について調べ、要点をメモすること。
- イ 相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すこと。
- ウ 相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すこと。
- エ 話の中心に気を付けて聞き、質問をしたり感想を述べたりすること。
- オ 互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合うこと。

### 【言語活動例】

- ア 出来事の説明や調査の報告をしたり、それらを聞いて意見を述べたりすること。
- イ 学級全体で話し合っただけで考えをまとめたり、意見を述べ合ったりすること。
- ウ 図表や絵、写真などから読み取ったことを基に話したり、聞いたりすること

### 【「話すこと・聞くこと」における児童の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

- 話す速さ、声の大きさなど、聞き手を意識しながら話す。
- 必要な事柄について調べ、要点をメモする。
- ◆話を組み立てたり、筋道を立てて話したりする。
- ◆話の中心を聞き取ったり、聞いた内容から自分の思いや考えを広げたりする。

### 【身に付けさせたい力】

- ①調べたことについて、筋道を立てて話す能力、話の中心に気を付けて聞く能力を身に付けさせるとともに、工夫をしながら話したり聞いたりしようとする態度を育てる。 〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②理由や事例などを挙げながら筋道を立てて話すこと。 〈「話すこと・聞くこと」イ〉
- ③話の中心に気を付けて聞き、質問をしたり感想を述べたりすること。 〈「話すこと・聞くこと」エ〉
- ④表現したり理解したりするために必要な語句を増すこと。

〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ウ)〉

【言語活動例】出来事の説明や調査の報告をしたり、それらを聞いて意見を述べたりすること。〈ア〉

【単元名】ポスターセッションで発表しよう～理由や事例などを挙げながら話す・話の中心に気を付けて聞く～

【教材名・教材の特長】「ポスターセッションで発表しよう」（教育出版 4年下）

- ・ポスターセッションを実際に取り入れることで、「相手に分かりやすく話す」「友達の発表に対して質問や感想などを考えながら聞く」など、「話すこと・聞くこと」の意識を高めることができる。
- ・社会科見学後のまとめ、発表に活用できる。

### 【言語活動】

社会見学「消防署」のポスターセッションをしたり、それらを聞いて意見を述べたりする。〈ア〉

### 【単元目標】

- ①調べたことを分かりやすく筋道を立てて話そうとしたり、発表者の伝えようとしていることを聞き取ろうとしたりする。 〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②ポスターを活用し、調べたことを、理由や事例を挙げながら相手に分かりやすく話す。 〈「話すこと・聞くこと」イ〉
- ③話の中心に気を付けて友達の発表を聞き、質問をしたり感想を述べたりする。 〈「話すこと・聞くこと」エ〉
- ④表現するために必要な語句を増やす。 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ウ)〉

時	評価規準	評価方法	学習活動
1 2			<p><b>ポスターセッションについて学び、学習の見通しを持つ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビデオを活用し、ポスターセッションとはどういうものかを知る。また、どんな時に使えるのか、今後の活用場面なども考える。</li> <li>・伝えたいことを中心に合わせて「理由や事例」を入れたり、図や表を使いながら説明したりすることの効果を理解する。</li> <li>・ポスターセッションの進め方を確認する。</li> <li>・「ポスターセッションを通して消防署の全体を知ることができる」ことを確認する。</li> </ul>
3 4 5 6 7	<p>②ポスターを活用し、調べたことを、理由や事例を挙げながら相手に分かりやすく話している。</p> <p>〈「話す・聞く能力」イ〉</p> <p>④表現するために必要な語句を増やしている。</p> <p>〈言語についての知識・理解・技能イ(ウ)〉</p>	<p>構想メモ 発表原稿 ポスター 発表練習</p>	<p><b>調べたことをグループで発表原稿・ポスターにまとめる</b></p> <p><b>集めた材料を整理する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会科で調べたことやインタビューしてきた内容などをグループで付箋に書き出す。<b>(社会科との連携)</b></li> <li>・書き出した付箋を整理し、発表する分担を決める。</li> </ul> <p><b>ワークシートを活用しながら構想メモを作る</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事例や理由を入れながら、付箋の整理をする。</li> <li>・ポスターにする際、伝えたい内容に合わせて図表やグラフを示す位置を決める。</li> <li>・伝えたいことを中心に捉えて見出しを考える。</li> </ul> <p><b>構想メモを交流する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・構想メモをグループ内で交流し、事例や理由が適切か、伝えたい内容と見出しが合っているかアドバイスし合う。</li> </ul> <p><b>構想メモを活用してポスターを作る</b></p> <p><b>構想メモを活用して発表原稿を作る</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が事前に作成した「消防署用語集」から言葉を選択する。</li> </ul> <p><b>グループ内で発表練習をする</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「発表のとき」「発表を聞くとき」の大事な点を確認する。</li> <li>・ポスターにある資料を使って説明する。</li> <li>・話の中心に即した質問を予想し合い、本番に備えて「問答集」を作る。</li> </ul>
8 9	<p>③話の中心に気を付けて友達の発表を聞き、質問をしたり感想を述べたりしている。</p> <p>〈「話す・聞く能力」エ〉</p>	<p>発表 ワークシート</p>	<p><b>ポスターセッションを行う</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聞き手は、話し手が伝えたいことの原因や事例を意識して聞き、ワークシートに聞き取ったことをメモし、意見感想などを記入する。また、声の大きさ、話す速度などをABCで評価する。</li> <li>・聞き手は、発表グループに対して感想を述べたり質問したりする。</li> <li>・質問されたグループは、それに答える。</li> </ul>
10	<p>①調べたことを分かりやすく筋道を立てて話そうとしていたり、発表者の伝えようとしていたりすることを聞き取ろうとしていたりしようとしている。</p> <p>〈国語への関心・意欲・態度〉</p>	<p>振り返りカード</p>	<p><b>ポスターセッションについて振り返る</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝えたい中心に気を付けて、理由や事例を意識しながら話したり聞いたりできたか。</li> </ul>

【Cと評価した児童への手立ての例（上記の評価規準の順）】

- ②自分の意見を持てるよう、グループの人の考えを参考にしながら、自分でも付箋に書いたものを利用して組立てを考えたり、図や表の説明の位置は適切かなどを考えたりするよう助言する。〈イ〉
- ④難しい言葉や用語は、辞書を活用して自分の言葉に直すよう助言する。〈イ(ウ)〉
- ③話の内容で分かったことや分からなかったこと、また話し方の感想を伝えてもよいことを助言する。〈エ〉
- ①自分たちのグループに伝えたいことがあるように、他のグループにも伝えたいことがあることを教え、発表だけでなく、聞く方にも関心を高めるよう投げ掛ける。〈国語への関心・意欲・態度〉

## A 話すこと・聞くこと〔小学校高学年〕

### 【目標】

目的や意図に応じ、考えたことや伝えたいことなどについて、的確に話す能力、相手の意図をつかみながら聞く能力、計画的に話し合う能力を身に付けさせるとともに、適切に話したり聞いたりしようとする態度を育てる。

### 【指導事項】

- ア 考えたことや伝えたいことなどから話題を集め、収集した知識や情報を関係付けること。  
イ 目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。  
ウ 共通語と方言との違いを理解し、また、必要に応じて共通語で話すこと。  
エ 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。  
オ 互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。

### 【言語活動例】

- ア 資料を提示しながら説明や報告をしたり、それらを聞いて助言や提案をしたりすること。  
イ 調べたことやまとめたことについて、討論などを行うこと。  
ウ 事物や人物を推薦したり、それを聞いたりすること。

### 【「話すこと・聞くこと」における児童の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

- 資料を用いて理由や事例を挙げながら話す。
- 話の中心を捉えてメモし、話題に沿って質問をしたり感想を述べたりする。
- ◆目的や相手に応じて構成や内容を工夫しながら話したり、話し手の意図を理解しながら聞いたりする。

### 【身に付けさせたい力】

- ①目的や意図に応じ、考えたことや伝えたいことなどについて、的確に話す能力、相手の意図をつかみながら聞く能力を身に付けさせるとともに、適切に話したり聞いたりしようとする態度を育てる。  
〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。  
〈「話すこと・聞くこと」イ〉
- ③話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。  
〈「話すこと・聞くこと」エ〉
- ④文章にはいろいろな構成があることについて理解すること。〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(キ)〉

### 【言語活動例】事物を推薦したり、それを聞いたりすること。〈ウ〉

### 【単元名】すいせんのスピーチをしよう～話の構成を工夫して話したり、意図を捉えながら聞いたりする～

### 【教材名・教材の特長】「すいせんのスピーチをしよう」(教育出版5年上)

- ・聞き手を意識しながら内容や構成を工夫し、話す能力を身に付ける上で適している。
- ・「友達の本の推薦を聞く」活動によって、聞くことへの興味・関心を持たせることができる。
- ・日常生活の様々な事柄を推薦する場面において、身に付けた能力を生かすことができる。

### 【言語活動】

読んで面白かった本を推薦したり、友達の推薦する本の説明を聞いたりする。〈ウ〉

### 【単元目標】

- ①友達に自分の好きな本を推薦したり、友達の推薦の意図を理解しながら説明を聞いたりしようとする。  
〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②聞き手を意識し、本の特徴や推薦する理由などが明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、適切な言葉遣いで話す。  
〈「話すこと・聞くこと」イ〉
- ③推薦の意図を捉えながら聞き、構成や内容について自分の意見や感想をまとめる。  
〈「話すこと・聞くこと」エ〉
- ④文章にはいろいろな構成があることについて理解する。〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(キ)〉

【授業の具体例】

時	評価規準	評価方法	学習活動
1 2			<p><b>本の推薦について興味を持ち、学習の見通しを持つ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・司書教諭による本の推薦を、原稿と見比べながら聞き、本を推薦することに興味を持つ。</li> <li>・複数の本の推薦（モデル原稿）を基に、推薦の意味、話の構成、言葉遣いなど、推薦の特徴を理解する。また、あらすじ、主題、印象的な表現、作品の魅力などが推薦理由となることを理解する。</li> <li>・聞き手や推薦する本によって、話の構成や内容、言葉遣いに違いがあることを理解する。</li> <li>・学習のめあて『「読んでみたい!」と思わせるような本の推薦をしよう』を持つ。</li> </ul>
3 4 5 6 7 8	<p>②聞き手を意識し、本の特徴や推薦する理由などが明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、適切な言葉遣いで話している。 〈「話す・聞く能力」イ〉</p> <p>④文章にはいろいろな構成があることについて理解している。 〈言語についての知識・理解・技能イ(キ)〉</p>	<p>構成メモ</p> <p>スピーチ原稿</p>	<p><b>推薦する本を決定し、推薦理由を明確にする</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級の友達の読書傾向について調べ、聞き手の本に対する興味・関心を意識する。</li> <li>・「読書カード」から1年間の読書生活を振り返り、推薦したい本を選択する。作品の魅力等、選んだ理由を再考する。</li> <li>・推薦する本の特徴を理解し、様々な視点から推薦理由を付箋に書く。</li> </ul> <p><b>推薦理由の構成を考える</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・効果的な内容や順序を考え、付箋を並び替える。</li> <li>・構成メモを基に、内容や構成について交流する。</li> <li>・構成を修正し、確定する。</li> </ul> <p><b>話し方の工夫を考え、原稿を書く</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スピーチの始め方、終わり方の工夫を理解する。</li> <li>・推薦するに当たって効果的な言葉遣いを理解し、教師が示した「効果的な言葉リスト」から適した言葉を選択する。</li> <li>・原稿を推敲し、修正する。</li> </ul>
9 10 11 12	<p>③推薦の意図を捉えながら聞き、構成や内容について自分の意見や感想をまとめている。 〈「話す・聞く能力」エ〉</p> <p>①友達に自分の好きな本を推薦したり、友達の推薦の意図を理解しながら説明を聞いたりしようとしている。〈国語への関心・意欲・態度〉</p>	<p>ワークシート</p> <p>評価カード</p> <p>振り返りカード</p>	<p><b>本の推薦を聞くポイントを理解する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話の内容や構成、言葉遣いについての推薦者の意図を捉え、意見をまとめた上で伝えることを理解する。</li> </ul> <p><b>グループで本を推薦し合い、評価し合う</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話の意図を理解し、「評価カード」に評価・意見を書く。             <ul style="list-style-type: none"> <li>①話の工夫について 内容や構成、言葉遣いを視点にして評価する。</li> <li>②話し方の工夫について 声の強弱や抑揚等の効果について評価する。</li> </ul> </li> </ul> <p><b>自分の話を振り返り、効果的な推薦の仕方をまとめる</b></p>

【Cと評価した児童への手立ての例（上記の評価規準の順）】

- ②順序を入れ替えた二つの構成メモを比較させ、効果的な構成を選択させる。〈イ〉
- ④本の紹介文と推薦文とを比較させ、目的によって構成や言葉遣い等が変わることを理解させる。〈イ(キ)〉
- ③評価の視点を示した評価カードに、◎△などの記号を付けさせた上で、意見を書かせる。〈エ〉
- ①本を一緒に読んだり読んでもらったりした経験を振り返らせる。読んだ本の中の面白かった場面などを対話によって思い出させ、推薦する意欲を持たせる。〈国語への関心・意欲・態度〉



## A 話すこと・聞くこと〔中学校第1学年〕

### 【目標】

目的や場面に応じ、日常生活にかかわることなどについて構成を工夫して話す能力、話し手の意図を考えながら聞く能力、話題や方向をとらえて話し合う能力を身に付けさせるとともに、話したり聞いたりして考えをまとめようとする態度を育てる。

### 【指導事項】

ア 日常生活の中から話題を決め、話したり話し合ったりするための材料を人との交流を通して集め整理すること。

イ 全体と部分、事実と意見との関係に注意して話を構成し、相手の反応を踏まえながら話すこと。

ウ 話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、相手に分かりやすい語句の選択、相手や場に応じた言葉遣いなどについての知識を生かして話すこと。

エ 必要に応じて質問しながら聞き取り、自分の考えとの共通点や相違点を整理すること。

オ 話合いの話題や方向をとらえて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりして、自分の考えをまとめること。

### 【言語活動例】

ア 日常生活の中の話題について報告や紹介をしたり、それらを聞いて質問や助言をしたりすること。

イ 日常生活の中の話題について対話や討論などを行うこと。

### 【「話すこと・聞くこと」における生徒の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

○声の大きさや速さ、間の取り方に注意して話す。

◆相手の反応を踏まえながら話したり、話し手の意図を考えながら聞き、自分の考えと比べたりする。

### 【身に付けさせたい力】

①目的や場面に応じ、日常生活にかかわることなどについて構成を工夫して話す能力、話し手の意図を考えながら聞く能力を身に付けさせるとともに、話したり聞いたりして考えをまとめようとする態度を育てる。  
〈国語への関心・意欲・態度〉

②全体と部分、事実と意見との関係に注意して話を構成し、相手の反応を踏まえながら話すこと。

〈「話すこと・聞くこと」イ〉

③必要に応じて質問しながら聞き、自分の考えとの共通点や相違点を整理すること。〈「話すこと・聞くこと」エ〉

④音声の働きや仕組みについて関心を持ち、理解を深めること。〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ア)〉

【言語活動例】日常生活の中の話題について討論を行うこと。〈イ〉

### 【単元名】ディベートをしよう～話合いの方法を学び、話し合って考えを深める～

#### 【教材名・教材の特長】「討論ゲームをしよう」〈ディベート〉(三省堂 1年)

・小学校で経験した「討論会」の学習を生かすことができる。

・少人数によるディベートのため、全員が話す立場、聞く立場、コーディネートする立場を経験することができる。

・日常生活に密着したテーマを選ぶことで実感を伴ったディベートにすることができる。また、話し合っ  
て得た考えを今後の生活に生かすことができる。

#### 【言語活動】

学校生活上困っていることについてディベートを行う。〈イ〉

### 【単元目標】

①学校生活上困っていることについて話し合い、今後の生活に生かせるように考えをまとめようとする。  
〈国語への関心・意欲・態度〉

②論点や根拠を明確にして、相手の反応を踏まえながら話す。

〈「話すこと・聞くこと」イ〉

③自分の立場と異なる相手の論点を的確に聞き取り、反論につなげる。

〈「話すこと・聞くこと」エ〉

④音声の働きや仕組みに注意し、ディベートの場面に適した音量や抑揚などで話す。

〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ア)〉

【授業の具体例】

時	評価規準	評価方法	学習活動
1	<p><b>ディベートの流れ</b></p> <p>1 最初の主張 2 相談 3 反論 4 相談 5 最後の主張 6 判定</p>		<p><b>ディベートの見通しを持つ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校で学習した討論会を思い出し、資料を参考にディベートの流れ、「話すとき」「聞くとき」「司会（フロア）のとき」にそれぞれ注意すること、自分とは異なる考え方に触れて意見を深めたことを確認する。</li> <li>・事前アンケート「学校生活で困っていること」からディベートのテーマを学級全体で三つ選ぶ。</li> <li>・3人1グループを作る。3グループが1集団となり、役割を交代しながらディベートを行うことを知る。</li> <li>・テーマについて、賛成・反対の立場を割り振る。自分の感情や価値観にとらわれず客観的な見方をすること、議論の仕方・説得の仕方を学習する場であること、ディベートを通して多面的なものの見方や考え方を身に付けることを確認する。</li> </ul>
2 3 4 5	<p>②論点や根拠を明確にして、相手の反応を踏まえながら話している。</p> <p>〈「話す・聞く能力」イ〉</p> <p>③自分の立場と異なる相手の論点を的確に聞き取り、反論につなげている。</p> <p>〈「話す・聞く能力」エ〉</p> <p>④音声の働きや仕組みに注意し、ディベートの場面に適した音量や抑揚などで話している。</p> <p>〈言語についての知識・理解・技能イ(7)〉</p>	<p>ワークシート</p> <p>評価シート (聞き取りメモ)</p> <p>評価シート (聞き取りメモ)</p>	<p><b>ディベートの準備をする</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主張は論点を整理し順序よく話すこと、誰もが納得できるような根拠を示すこと、接続語を効果的に用いるとよいことなどを確認する。</li> <li>・一つめのテーマについて各自立論を考えた後、グループで紹介し合う。グループとしての意見をまとめ、「最初の主張」にする。</li> <li>・相手の主張を予想し、それに対してどのような反論ができそうか、最後にどのようなことを主張するか考え、グループとしての意見をまとめる。</li> <li>・「最初の主張」「反論」「最後の主張」を役割分担する。</li> <li>・グループで話し合ったことを基に、説得力のある話の構成と話し方になるよう各自考える。その後、聞き合い助言し合う。</li> <li>・二つめのテーマについても同様に準備する。</li> </ul> <p><b>モデルディベートで評価の視点を理解する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「話すとき」「聞くとき」「司会（フロア）のとき」に注意すること（視点）と、議論の仕方を学ぶというディベートの目的を確認する。</li> <li>・代表の集団がディベートをする。それ以外の集団は、視点に沿って、話の構成や話し方に説得力はあるか、相手の論点を的確に聞き取り反論につなげているか、メモを取りながら評価シートに記入する。</li> <li>・モデルのよかったところや改善案について話し合い、自分たちのディベートに生かせる点は取り入れる。</li> </ul> <p><b>ディベートを行う</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集団ごとディベートを行う。最後に司会グループが判定をし、視点に沿って論評を述べる。ディベートを行ったグループは自己評価する。</li> <li>・他のテーマについても同様に行う。</li> </ul>
6	<p>①学校生活上困っていることについて話し合い、今後の生活に生かせるように考えをまとめようとしている。</p> <p>〈国語への関心・意欲・態度〉</p>	<p>振り返り用紙</p>	<p><b>ディベートのまとめをする</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三つのテーマについて立場を離れて自由に意見を述べ合う。</li> <li>・それぞれ相手の意見を踏まえて話すことについて、どんな点に気を付けるとよかったか話し合う。</li> <li>・テーマ及び話し合い方について、ディベートを通して自分の考えが変化したことに注意して振り返りを書く。</li> </ul>

【Cと評価した生徒への手立ての例（上記の評価規準の順）】

- ②思い付いたことを付箋に書き出させ、選択したり並び換えたりして効果的な主張になるように話す順序を考えさせる。〈イ〉
- ③モデルディベートについて、聞き取った内容を尋ねる。聞き取りが不足する場合は、具体的な内容を提示する。〈エ〉
- ④自分の述べる意見についてキーワードを決めさせ、そこを強調して話してみるよう助言する。〈イ(7)〉
- ①討論を通して新たに考えたことを尋ねる。また、誰の話し方・聞き方がよかったか尋ねる。〈国語への関心・意欲・態度〉

## A話すこと・聞くこと〔中学校第2学年〕

### 【目標】

目的や場面に応じ、社会生活にかかわることなどについて立場や考えの違いを踏まえて話す能力、考えを比べながら聞く能力、相手の立場を尊重して話し合う能力を身に付けさせるとともに、話したり聞いたりして考えを広げようとする態度を育てる。

### 【指導事項】

- ア 社会生活の中から話題を決め、話したり話し合ったりするための材料を多様な方法で集め整理すること。
- イ 異なる立場や考えを想定して自分の考えをまとめ、話の中心的な部分と付加的な部分などに注意し、論理的な構成や展開を考えて話すこと。
- ウ 目的や状況に応じて、資料や機器などを効果的に活用して話すこと。
- エ 話の論理的な構成や展開などに注意し、自分の考えと比較すること。
- オ 相手の立場や考えを尊重し、目的に沿って話し合い、互いの発言を検討して自分の考えを広げること。

### 【言語活動例】

- ア 調べて分かったことや考えたことなどに基づいて説明や発表をしたり、それらを聞いて意見を述べたりすること。
- イ 社会生活の中の話題について、司会や提案者などを立てて討論を行うこと。

### 【「話すこと・聞くこと」における生徒の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

- 話し合いの話題を捉えて的確に話す。
- 相手の発言を注意して聞いて、自分の考えをまとめる。
- ◆相手の立場や考えを尊重する。
- ◆互いの発言を検討して自分の考えを広げる。

### 【身に付けさせたい力】

- ①相手の立場を尊重して話し合う能力を身に付けさせるとともに、話したり聞いたりして考えを広げようとする態度を育てる。〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②相手の立場や考えを尊重し、目的に沿って話し合い、互いの発言を検討して自分の考えを広げること。〈「話すこと・聞くこと」オ〉
- ③相手や目的に応じて、話や文章の形態や展開の違いがあることを理解すること。〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(オ)〉

### 【言語活動例】社会生活の中の話題について、司会や提案者などを立てて討論を行うこと。〈イ〉

### 【単元名】パネルディスカッションをしよう～目的に沿って話し合い、自分の考えを広げる～

### 【教材名・教材の特長】「パネルディスカッションをしよう」（三省堂 光村図書 2年）

- ・相手の立場や考えを尊重し、目的に沿って話し合うことができる。
- ・自分と異なる考え方に触れる機会となる。

### 【言語活動】

テーマについてパネルディスカッションをする。〈イ〉

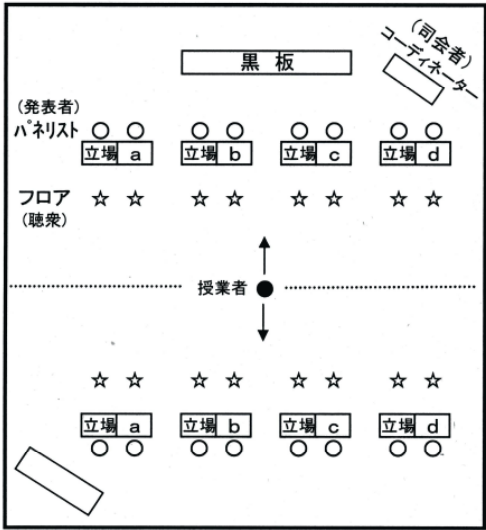
### 【単元目標】

- ①相手の立場や考えを尊重してパネルディスカッションをしようとする。〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②相手の考えを尊重し、テーマに沿ったパネルディスカッションをし、互いの発言を検討して自分の考えを広げる。〈「話すこと・聞くこと」オ〉
- ③異なる立場や考えの人に自分の意見が理解され、納得してもらえるよう述べ方や構成を工夫する。〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(オ)〉

### 【Cと評価した生徒への手立ての例（右記の評価規準の順）】

- ③自分の言いたいことを付箋に書かせ、言いやすい順番に並べるよう助言する。〈イ(オ)〉
- ②自分とは違う立場のグループの考えを聞き取るよう助言する。〈オ〉
- ①考え方には、様々なものがあることを教える。〈国語への関心・意欲・態度〉

時	評価規準	評価方法	学習活動
1 2	<p><b>パネルディスカッションの流れ</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 はじめの言葉(コーディネーター)</li> <li>2 パネリストの発表</li> <li>3 パネリストの相互の質問・意見交換</li> <li>4 フロアからの質問・意見</li> <li>5 パネリストからのまとめ</li> <li>6 終わりの言葉(コーディネーター)</li> </ol>		<p><b>パネルディスカッションについて学び、学習の見直しを持つ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビデオを活用し、パネルディスカッションとはどういうものかを知る。また、どんな時に使えるのか、今後の活用場面なども考える。</li> <li>・教科書でパネルディスカッションの進め方を確認する。司会や提案者などの役割については、小学校での既習内容であることから、復習として確認する。</li> <li>・パネルディスカッションをする目的や行う際の留意点等を確認する。             <ol style="list-style-type: none"> <li>①相手の立場や考えを尊重する。</li> <li>②同じ立場や違う立場の考えを聞いて、自分の考えを広めたり、考え直したりする。</li> </ol> </li> <li>・テーマと立場の例を参考に、自分たちのクラスで挑戦してみたいテーマと考えられる四つの立場(a～d)を想定し決定する。 例・海外の中学生に日本を紹介するとしたら、何を取り上げるのがよいか。(a 豊かな自然・b 進んだ技術・c 伝統的な文化・d 名所)             <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツをする目的とは何か。(a 心身を鍛える・b 相手に勝つ・c 楽しむ・d 自分の世界を広げる)</li> <li>・最も優れた飲料容器は何か。(a 缶・b 瓶・c 水筒・d ペットボトル)</li> <li>・地球温暖化の抑制のために最も力を入れるべきことは何か。(a 全車エコカー化・b 環境税の導入・c サマータイム導入・d ゴミの定量制限)</li> <li>・命を大切にすることを育てるためには、どんな体験学習をするのがよいか。(a 生物飼育・b 映画鑑賞・c 保育園訪問・d 救命救助講習)</li> </ul> </li> </ul>
3 4	<p>③異なる立場や考えの人に自分の意見が理解され、納得してもらえるよう述べ方や構成を工夫している。 (言語についての知識・理解・技能イ(ハ))</p>	発表原稿	<p><b>資料を集める</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・四つの立場が2グループずつになるように分ける。 例：32人学級の場合 4人×8グループ(4立場×2グループ)</li> <li>・決定した自分たちのグループの立場を支えてくれるような資料や情報を、新聞や書籍、雑誌、インターネットなどから集める。(個人学習→グループ集約→発表役割分担)</li> </ul> <p><b>発表内容を組み立てる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の意見を分かりやすく、短くまとめて示す。簡潔に示せるようポスターなどにキーワードや必要な情報(グラフや表など)を書く。発表の際、活用する。</li> <li>・根拠として提示する情報は、どこから入手したのか(情報源)を示し、自分の意見を支える内容であることを明らかにする。</li> <li>・異なる立場や考えの人に自分の意見が理解され、納得してもらえるよう、述べ方や構成を工夫する。</li> </ul> <p><b>役割を確認する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パネリスト(発表者)の内容を確認し順番を決める。同じ立場のグループ同士で、パネリストの発表内容や異なる立場や考えの人とどのように討論するか、相談する。</li> <li>・同じ立場のグループ同士で発表練習する。質問などの対策も考えておく。</li> <li>・コーディネーター(司会者)を選ぶ。</li> <li>・コーディネーター、パネリスト以外は、フロア(聴衆)として討論に参加する。</li> </ul>
5 6 7	<p>②相手の考えを尊重し、テーマに沿ったパネルディスカッションをし、互いの発言を検討して自分の考えを広げている。 (「話す・聞く能力」オ)</p> <p>①相手の立場や考えを尊重してパネルディスカッションをしようとしている。 (「国語への関心・意欲・態度」)</p>	発表 評価シート  振り返りカード	<p><b>パネルディスカッションを行う</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2箇所まで2回行い、全員がパネリスト、聴衆役を経験できるようにする。</li> <li>・話し合いの目的や留意点を確認する。</li> <li>・教科書にある「パネルディスカッションの流れ」に沿って、話し合いを進める。</li> <li>・パネリストの主張や根拠を自分の考えと比べながら検討し、自分の考えを広げ深めることを確認する。</li> <li>・評価用シートを活用し、メモを取っていくことを確認する。</li> </ul> <p><b>パネルディスカッションについて振り返る</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・項目① 相手の立場や考えを尊重しながらパネルディスカッションをすることができたか。 [A B C D]</li> <li>・項目② 同じ立場や違う立場の考えを聞いて、自分の考えの広がった点や変わった点などについて記入する。</li> </ul>



## A 話すこと・聞くこと [中学校第3学年]

### 【目標】

目的や場面に応じ、社会生活にかかわることなどについて相手や場に応じて話す能力、表現の工夫を評価して聞く能力、課題解決に向けて話し合う能力を身に付けさせるとともに、話したり聞いたりして考えを深めようとする態度を育てる。

### 【指導事項】

- ア 社会生活の中から話題を決め、自分の経験や知識を整理して考えをまとめ、語句や文を効果的に使い、資料などを活用して説得力のある話をする事。
- イ 場の状況や相手の様子に応じて話すとともに、敬語を適切に使うこと。
- ウ 聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分のものの見方や考え方を深めたり、表現に生かしたりすること。
- エ 話し合いが効果的に展開するように進行の仕方を工夫し、課題の解決に向けて互いの考えを生かし合うこと。

### 【言語活動例】

- ア 時間や場の条件に合わせてスピーチしたり、それを聞いて自分の表現の参考にしたりすること。
- イ 社会生活の中の話題について、相手を説得するために意見を述べ合うこと。

### 【「話すこと・聞くこと」における生徒の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

○相手の立場や考えを尊重し、互いの発言を検討して生かそうとする。

◆話し合いの進行の仕方を工夫し、互いの意見のよさと課題を区別しながら効果的な話し合いを行う。

### 【身に付けさせたい力】

- ①目的や場面に応じ、社会生活にかかわることなどについて、課題解決に向けて話し合う能力を身に付けさせるとともに、話したり聞いたりして考えを深めようとする態度を育てる。〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②話し合いが効果的に展開するように進行の仕方を工夫し、課題の解決に向けて互いの考えを生かし合うこと。 〈「話すこと・聞くこと」エ〉
- ③敬語を適切に使うこと。 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ア)〉

【言語活動例】社会生活の中の話題について、相手を説得するために意見を述べ合うこと。〈イ〉

### 【単元名】課題解決に向けて話し合おう～説得力のある意見を述べ合う～

【教材名・教材の特長】「意見を生かして話し合うには一説得力のある意見を述べ合うー」(教育出版 3年)

- ・話題設定において、「総合的な学習の時間」等との関連を図ることができる。
- ・説得する上で考えの根拠を明確にし、論理的な話の構成を考える上で適している。
- ・建設的な話し合いをするために、司会や参加者の役割を考える上で適している。

### 【言語活動】

自分たちにできるボランティアについて、相手を説得するために意見を述べ合う。〈イ〉

### 【単元目標】

- ①学級で取り組むボランティア活動について、聞き手を説得するために意見を述べ合い、考えを深めようとする。 〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②話し合いが効果的に展開するように進行の仕方を工夫し、課題の解決に向けて互いの意見を生かし合う。 〈「話すこと・聞くこと」エ〉
- ③敬語などの丁寧な言い方を理解し、場面に応じて使う。 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ア)〉

【授業の具体例】

時	評価規準	評価方法	学習活動
1			<p><b>話題を設定し、話し合うことへの見通しを持つ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「総合的な学習の時間」での福祉学習を想起させ、自分たちができることについて話し合う。(総合的な学習の時間との連携)</li> <li>・話題を決定し、話し合いの目的を明確にする。</li> </ul> <p>「今、私たちにできるボランティア」について、グループごとに取組を提案し、それを基にクラスで提案する内容を決めていくことを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書にある『「対話」とは何か(多田孝志)』を読み、話し合うことの意味や姿勢について理解する。</li> <li>・モデルとなる話し合いの様子を表した映像と文章を基に、「提案することの意味や特徴、効果的な司会の進行の仕方や互いの意見を生かす話し合いの仕方、結論の出し方、言葉遣い(敬語)について考える。</li> </ul>
2	②話し合いが効果的に展開するように進行の仕方を工夫し、課題の解決に向けて互いの意見を生かし合っている。	ワークシート	<p><b>提案内容を吟味し、話の順序や予想される質問等について考えるなど、提案に向けての準備をグループごとに行う</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・司会を中心に提案内容を吟味し、決定する。 例：市内の飲食店に、作成した点字メニューを置いてもらう。</li> <li>・提案理由として、「問題となっている事実」や「自分たちの提案内容の効果」等を明確にする。</li> <li>・提案するに当たっては、必要に応じて取材活動を行い、効果的な資料を作成する。</li> <li>・幾つかの質問や反対意見を想定し、回答を考える。</li> <li>・話の順序を決め、役割分担をする。</li> </ul> <p><b>話し合いをする(1回目)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・司会等の進行の仕方、話し合いの目的、話し合いの仕方や方向性、言葉遣い(敬語)について効果的な方法や適切な在り方等を確認する。</li> <li>・各グループが「進行」「提案」「話し合い出席者」「フロア(話し合いの仕方を評価)」の役を担当し、役割を交代しながら、繰り返して話し合いを進める。※5グループの場合は5回</li> <li>・質疑応答の中で、よいところを指摘し合ったり、意見の修正をしたりするなどして、提案内容に生かすようにする。</li> </ul> <p><b>話し合いを評価する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループの提案ごとに、フロアの評価を参考に、話し合いの仕方について視点に即した評価を行う。</li> <li>・評価を次に生かし、話し合いの仕方を向上させる。</li> </ul> <p><b>話し合いをする(2回目)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出された提案の中から、最も効果的な内容を一つ決定し、学年に提案する。</li> </ul> <p><b>自らの言語活動を振り返る</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・提案の仕方、話し合いの仕方について振り返り、効果的な話し合いの仕方についてまとめる。</li> </ul>
3			
4	③敬語などの丁寧な言い方を理解し、場面に応じて使っている。		
5	①学級で取り組むボランティア活動について、聞き手を説得するために意見を述べ合い、考えを深めようとしている。	聞き取りメモ 評価シート	
6			
7	〈国語への関心・意欲・態度〉	振り返りカード	

【Cと評価した生徒への手立ての例(上記の評価規準の順)】

- ②話し合いの手順や仕方を示し、それに従って話し合いを進行させる。(エ)
- ③互いの意見を理解したり尊重したりする上で、敬語を用いることの効果について考えさせる。(イ(ア))
- ①それぞれの提案内容のよさと課題を区別し、生かす方法を考えさせる。(国語への関心・意欲・態度)

## A 話すこと・聞くこと〔高等学校 国語総合〕

### 【目標（国語総合）】

国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

### 【指導事項】

ア 話題について様々な角度から検討して自分の考えをもち、根拠を明確にするなど論理の構成や展開を工夫して意見を述べること。

イ 目的や場に応じて、効果的に話したり的確に聞き取ったりすること。

ウ 課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重し、表現の仕方や進行の仕方などを工夫して話し合うこと。

エ 話したり聞いたり話し合ったりしたことの内容や表現の仕方について自己評価や相互評価を行い、自分の話し方や言葉遣いに役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。

### 【言語活動例】

ア 状況に応じた話題を選んでスピーチしたり、資料に基づいて説明したりすること。

イ 調査したことなどをまとめて報告や発表をしたり、内容や表現の仕方を吟味しながらそれらを聞いたりすること。

ウ 反論を想定して発言したり疑問点を質問したりしながら、課題に応じた話合いや討論などを行うこと。

### 【「話すこと・聞くこと」における生徒の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

○話題に対する自分の考えをまとめ、分かりやすく伝える。

○資料などを活用して説得力のある話をする。

◆論理の構成や展開を工夫して意見を述べる。

※すでに「読むこと」の単元において「水の東西」を学習しており、その際「比較文化」というテーマで並行読書を行っている。

### 【身に付けさせたい力】

①国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、言語感覚を磨く態度を育てる。〈国語への関心・意欲・態度〉

②話題について様々な角度から検討して自分の考えをもち、根拠を明確にするなど論理の構成や展開を工夫して自分の意見を述べること。〈「話すこと・聞くこと」ア〉

③文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにすること。〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(イ)〉

【言語活動例】状況に応じた話題を選んでスピーチをしたり、資料に基づいて説明したりすること。〈ア〉

### 【単元名】「東西文化比較」のスピーチをしよう～論理の構成や展開を工夫して自分の意見を述べる～

【教材名・教材の特長】（「水の東西」 山崎正和）

・「水の東西」において既習の構成や表現方法を参考にすることができる。

・並行読書等を通して得た知識や情報を活用することができる。

### 【言語活動】

「水の東西」を参考に、東洋と西洋の文化を対比させる事物を選び、資料に基づいて文化の特徴を説明する。〈ア〉

### 【単元目標】

①資料に基づいて東洋と西洋の文化の特徴を説明することを通して、表現の効果について適切に判断する能力を向上しようとする。〈国語への関心・意欲・態度〉

②与えられたテーマについて、様々な角度から検討して自分の考えをもち、根拠を明確にするなど論理の展開や構成を工夫して意見を述べる。〈「話すこと・聞くこと」ア〉

③文や文章の組立て、語句の意味、用法や表記の仕方を理解し、スピーチ原稿の作成に生かす。〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(イ)〉



時	評価規準	評価方法	学習活動
1			<p>「水の東西」を参考に「東西文化比較」のスピーチをするという目標を知り、材料を集める</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表グループ（4人程度）を構成する。</li> <li>・「水の東西」で学習した文化比較を参考に、水に代わる事物を各グループで一つ選び、西洋文化と東洋(日本)文化を比較したスピーチを行うことを知る。</li> <li>・中学校で行ったポスターセッションやスピーチを振り返り、効果的な表現方法を確認する。</li> <li>・グループで話し合い、対象とする事物、そこから考えられる東西の文化について検討する。その際、各自が並行読書してきた作品の内容を出し合い、検討の材料とする。また、事例を伝えるのに適切な表現方法を考える。</li> </ul>
2 3	<p>②与えられたテーマについて、様々な角度から検討して自分の考えを持ち、根拠を明確にするなど論理の展開や構成を工夫して意見を述べている。</p> <p>〈「話す・聞く能力」ア〉</p> <p>③文や文章の組立て、語句の意味、用法や表記の仕方を理解し、スピーチ原稿の作成に生かしている。</p> <p>〈言語についての知識・理解イ(イ)〉</p>	<p>構成メモ スピーチ原稿</p>	<p>スピーチ原稿を作成する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スピーチ原稿を作成する際に参考にするという視点で「水の東西」の構成や表現方法を確認する。</li> <li>・具体例を提示していたこと ・対比の特徴を簡潔に示していたこと</li> <li>・論拠を明確に挙げていたこと・写真が効果的に使われていたこと 等</li> <li>・確認した構成や表現方法から用いたい内容を選び、各自でグループのテーマに沿って構成メモを作成する。</li> <li>・構成メモにスピーチする内容を書き加えていく。その際、第1時に確認した効果的な表現方法を参考にする。また、「伝える」ということに視点を置き、文の組立てや語句の用法を吟味する。</li> <li>・各自が作成した構成メモを持ち寄り、「効果的に伝える」という視点で話し合い、グループの構成メモを作る。</li> <li>・構成メモを基にグループでスピーチ原稿を書く。その際、各自の分担を決め、全員が原稿を書くよう留意する。必要に応じてICT機器(プレゼンテーションソフト等)を活用してもよい。</li> <li>・各自が書いた原稿を合わせる。文末やつながりの言葉を整えて、グループのスピーチ原稿にする。</li> </ul>
4 5	<p>①資料に基づいて東洋と西洋の文化の特徴を説明することを通して、表現の効果について適切に判断する能力を向上しようとしている。</p> <p>〈国語への関心・意欲・態度〉</p>	<p>スピーチ 評価カード 振り返りカード</p>	<p>スピーチの練習をする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとにスピーチの練習をする。</li> <li>・2グループでペアを作り、互いのスピーチを聞き合い、疑問点について質問し合う。</li> <li>・質問に答えるという視点でスピーチ原稿の修正を行う。</li> </ul> <p>1グループごとにスピーチを行う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聞き手は評価カードに評価を記載する。</li> <li>・納得できる事例であったか ・分かりやすい構成であったか</li> <li>・論拠は明確であったか ・適切な表現方法であったか 等</li> <li>・他のグループのスピーチを聞いた後、自分たちのスピーチについて振り返り、内容をカードに記載する。</li> </ul>

【Cと評価した生徒への手立ての例(上記の評価規準の順)】

- ②「水の東西」のノートを振り返り、事例や特徴の対比を確認させる。〈ア〉
- ③書いた文章を声に出して読み合い、聞いた時に意味が通りにくい箇所や分かりにくい表現がないか確認させる。プレゼンテーションソフトやポスター等を用いる場合は、表記にも着目させる。〈イ(イ)〉
- ①スピーチに不安があるグループには、時間と場を設定し再度リハーサルを行わせる。〈国語への関心・意欲・態度〉



### (3) 「B書くこと」

#### B書くこと〔小学校低学年〕

##### 【目標】

経験したことや想像したことなどについて、順序を整理し、簡単な構成を考えて文や文章を書く能力を身に付けさせるとともに、進んで書こうとする態度を育てる。

##### 【指導事項】

- ア 経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めること。
- イ 自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。
- ウ 語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。
- エ 文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどに気付き、正すこと。
- オ 書いたものを読み合い、よいところを見付けて感想を伝え合うこと。

##### 【言語活動例】

- ア 想像したことなどを文章に書くこと。
- イ 経験したことを報告する文章や観察したことを記録する文章などを書くこと。
- ウ 身近な事物を簡単に説明する文章などを書くこと。
- エ 紹介したいことをメモにまとめたり、文章に書いたりすること。
- オ 伝えたいことを簡単な手紙に書くこと。

##### 【「書くこと」における児童の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

- 自分の経験したことや身の回りの出来事から、したことや見たことを文章に書く。
- 日頃から「思ったこと」「驚いたこと」等の作文の材料になりそうなことをメモに書いて集めている。
- ◆一つの題材に沿って状況が読み手によく伝わるように書く。

##### 【身に付けさせたい力】

- ①経験したことについて、順序を整理し、簡単な構成を考えて文や文章を書く能力を身に付けさせるとともに、進んで書こうとする態度を育てる。 (国語への関心・意欲・態度)
- ②文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文章を書くこと。 (「書くこと」ウ)
- ③長音、拗音、促音、撥音などの表記ができ、助詞の「は」、「へ」及び「を」を文の中で正しく使うこと。 (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(エ))

##### 【言語活動例】経験したことを報告する文章を書くこと。〈イ〉

##### 【単元名】「一年生の思い出アルバム」を作ろう～文と文とのつながりに気を付けて書く～

##### 【教材名・教材の特長】「いいこといっぱい、一年生」(光村図書 1年下)

- ・もうすぐ1年生が終わる時期であり、書く材料は比較的多くあるため、書きたいことを選びやすい。
- ・「うれしかったこと」「できるようになったこと」「新しく知ったこと」などを観点にすることによって、書くために必要な事柄を思い出することができる。

##### 【言語活動】

入学後に経験したことの中から心に残った出来事について、経験した事柄や感じたことなどを詳しく思い出して、人に伝える文章を書く。〈イ〉

##### 【単元目標】

- ①入学からこれまでの中で、うれしかったことや驚いたことについて、進んで報告する文章を書くこと。 (国語への関心・意欲・態度)
- ②自分の思い出が読み手に伝わるように、出来事とそれについて思ったこととのつながりを考えて文章を書く。 (「書くこと」ウ)
- ③長音、拗音、促音、撥音などを正しく表記するとともに、助詞の「は」、「へ」、「を」を文の中で正しく使う。 (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(エ))

【授業の具体例】

時	評価規準	評価方法	学習活動
1			<p>教材文を読み、1年生の思い出のアルバムを作ることに興味を持つ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでに学習してきたノートや作品等を用意し、思い出を発表し合う。</li> <li>・日頃集めておいた作文の材料メモを利用する。</li> </ul> <p>経験したことの中から伝えたいことを選び、思い出アルバムに入れたい事柄を題材カードに書く</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生になって経験したことの中で強く心に残ったことについて家の人に伝えることを知る。</li> </ul>
2			<p>選んだ題材について、見たこと、したこと、話したこと、そのとき感じたことなどを思い出して取材カードに書く</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取材カードは一文で書く。</li> <li>・必要に応じて周りの人にも取材する。</li> </ul>
3	②自分の思い出が読み手に	ワークシート	<p>文と文とのつながりについて考える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モデル作文について、各段落に「したこと」「他の人から言われたこと」「そのとき思ったこと」「出来事全体を通じて思ったこと」が書かれていることを読み取り、モデル作文の組立てを理解する。</li> </ul>
4	伝わるように、出来事とそ		
5	れについて思ったこととの		
6	つながりを考えて文章を書いている。 〈「書く能力」ウ〉	下書き原稿	<p>組立表を作る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取材カードから作文に書きたいものを選ぶ。</li> <li>・選んだ取材カードを書く順に並び替え、組立表に貼る。</li> </ul> <p>下書きを書く</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・組立表に沿って書く。</li> <li>・取材カードに一文で書かれていることに言葉を付け加えてよりよく状況が伝わるように書く。</li> </ul>
7	③長音、拗音、促音、撥音	書き直した	<p>清書をする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・下書きを読み直し、より分かりやすく伝えられるように書き加えたり、正しい表記に直したりする。</li> </ul>
8	などを正しく表記するとともに、助詞の「は」、「へ」、「を」を文の中で正しく使っている。 〈言語についての知識・理解・技能イ(エ)〉	下書き原稿	<p>書き直した下書きを基に、清書する</p>
9	①入学からこれまでの中	清書原稿	<p>清書した作品を読み合い、感想を話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感想カードに書いて、互いに交換する。</li> <li>・家の人にも読んでもらい、感想を書いてもらう。</li> </ul>
10	で、うれしかったことや驚いたことについて、進んで報告する文章を書こうとしている。 〈国語への関心・意欲・態度〉	下書き原稿等	

【Cと評価した児童への手立ての例（上記の評価規準の順）】

- ②取材カードの並び順どおりに一度書いてから付け足しができそうなことを考えさせ、付箋に書いて該当する箇所に貼らせる。〈ウ〉
- ③表記の誤りを指摘し、教科書などを参考にしながら正しい表記を理解させる。〈イ(エ)〉
- ①取材カード、組立表などを活用して思い出アルバムができたことを自覚させ、褒める。〈国語への関心・意欲・態度〉

## B書くこと〔小学校中学年〕

### 【目標】

相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように、段落相互の関係などに注意して文章を書く能力を身に付けさせるとともに、工夫をしながら書こうとする態度を育てる。

### 【指導事項】

- ア 関心のあることなどから書くことを決め、相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べること。  
イ 文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成すること。  
ウ 書こうとするものの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。  
エ 文章の敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。  
オ 文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること。  
カ 書いたものを発表し合い、書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合うこと。

### 【言語活動例】

- ア 身近なこと、想像したことなどを基に、詩をつくったり、物語を書いたりすること。  
イ 疑問に思ったことを調べて、報告する文章を書いたり、学級新聞などに表したりすること。  
ウ 収集した資料を効果的に使い、説明する文章などを書くこと。  
エ 目的に合わせて依頼状、案内状、礼状などの手紙を書くこと。

### 【「書くこと」における児童の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

- 時間的な順序、事柄の順序に従って、文章を書く。
- 書こうとする事柄の中心を明確にして、文章を書く。
- ◆段落相互の関係を意識しながら、目的に応じて中心となる内容の具体的な事例を挙げて説明する。

### 【身に付けさせたい力】

- ①相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように、文章を書く能力を身に付けさせるとともに、工夫をしながら書こうとする態度を育てる。 〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②書こうとするものの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。 〈「書くこと」ウ〉
- ③句読点を適切に打ち、また、段落の始めなどの必要な箇所は行を改めて書くこと。 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(エ)〉

【言語活動例】 疑問に思ったことを調べて、学級新聞などに表したりすること。 〈イ〉

### 【単元名】 学級新聞を作ろう～中心を明確にし、理由や事例を挙げて書く～

#### 【教材名・教材の特長】 「学級新聞を作ろう」(教育出版 4年上)

- ・目的に応じて、構成や使う語句、言葉の使い方などを工夫しながら書く上で適している。
- ・伝えたい内容に応じて、取り上げる内容を選択したり見出しを工夫したりする上で適している。
- ・中心となる内容を明確にし、段落相互を関係付けながら書く上で適している。

### 【言語活動】

学校生活において関心を持った出来事を、学級新聞に表す。 〈イ〉

### 【単元目標】

- ①関心を持った出来事が伝わるように、構成等を工夫しながら新聞記事を書こうとする。 〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②書こうとするものの中心を明確にし、事実が的確に伝わるよう理由や事例を挙げながら書く。 〈「書くこと」ウ〉
- ③句読点を適切に打ち、また、段落の始めについては行を改めて書く。 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(エ)〉

【授業の具体例】

時	評価規準	評価方法	学習活動
1 2			<p><b>各グループで新聞を作ることの見通しを持つ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族に知らせることを目的に、全校遠足、社会科見学、交通安全教室など、学校生活で伝えたい出来事を思い出す。</li> <li>・モデル新聞を基に、事実を客観的な立場で知らせる新聞の役割や、構成の特徴を理解する。</li> <li>・記事の内容、分担（トップ記事や編集後記等）、各記事や写真・図を載せる場所、字数などを決定する。</li> </ul>
3 4 5 6 7	<p>②書こうとすることの中心を明確にし、事実が的確に伝わるよう理由や事例を挙げながら書いている。</p> <p>〈「書く能力」ウ〉</p>	<p>取材メモ</p> <p>構想メモ</p>	<p><b>取材活動を行い、取材メモを書く</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・材料が不足している場合には、必要に応じてインタビューやアンケート調査などを行う。</li> <li>例：班の人に特に思い出に残った出来事や理由など、詳しい様子を聞く。（遠足記事）</li> </ul> <p><b>記事の構想メモを作成し、交流する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記事内容の中心を明確にし、出来事の概要、具体的な内容、理由などを、付箋を使って分けて書き、組み立てる。</li> <li>・構想メモを互いに見合い、内容や順序について吟味する。</li> </ul>
8 9 10 11	<p>③句読点を適切に打ち、また、段落の始めについては行を改めて書いている。</p> <p>〈言語についての知識・理解・技能イ(イ)〉</p> <p>①関心を持った出来事が伝わるように、構成等を工夫しながら新聞記事を書こうとしている。</p> <p>〈国語への関心・意欲・態度〉</p>	<p>下書き原稿</p> <p>清書原稿</p> <p>評価カード</p>	<p><b>構成メモを基に、記事の下書きを書く</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「いつ、どこで、誰が、何を、どのように、どうした」を、落とさずに書く。</li> <li>・一文が長くなならないよう、文脈に応じて句読点を打ったり、内容や長さに応じて段落を分けたりする。</li> <li>・中心となる内容に合わせて写真・図を選んだり見出しを付けたりする。</li> </ul> <p><b>下書きを推敲し、交流する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記事内容の中心が明確であるか、また、具体的な事例や出来事の原因等の必要な事柄を落とさずに表せたか、記事を見せ合い吟味する。</li> </ul> <p><b>記事を配置し、新聞を仕上げる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞の名前やデザインを工夫したり、記事を枠で囲んだりするなどして、見やすくする。</li> </ul> <p><b>視点に沿って説明し合い、記事について評価し合う</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記事づくりで工夫、意識したことを説明し合う。</li> <li>・評価カードに自他班の感想を書く。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事例や理由等の必要な事柄が、書かれているか。</li> <li>・伝えたいことの中心が明確であったか。</li> </ul> </div>

【Cと評価した児童への手立ての例（上記の評価規準の順）】

- ②伝えたい内容に合わせて収集した情報等を三つ程度に絞らせ、順序を考えさせる。〈ウ〉
- ③主語や並列する語の後に読点を打つなど、低学年での既習事項を思い出させる。〈イ(エ)〉
- ①家族が知りたいことと自分が伝えたいことを考えさせる。〈国語への関心・意欲・態度〉

## B書くこと〔小学校高学年〕

### 【目標】

目的や意図に応じ、考えたことなどを文章全体の構成の効果を考えて文章に書く能力を身に付けさせるとともに、適切に書こうとする態度を育てる。

### 【指導事項】

ア 考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理すること。

イ 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること。

ウ 事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。

エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くこと。

オ 表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。

カ 書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合うこと。

### 【言語活動例】

ア 経験したこと、想像したことなどを基に、詩や短歌、俳句をつくったり、物語や随筆などを書いたりすること。

イ 自分の課題について調べ、意見を記述した文章や活動を報告した文章などを書いたり編集したりすること。

ウ 事物のよさを多くの人に伝えるための文章を書くこと。

### 【「書くこと」における児童の実態】 ○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

○説明文の学習を通して、段落構成の工夫が分かりやすさにつながることを理解する。

○図・表・グラフ等を取り入れて文章を書く。

◆課題を設定したり、自分の目的に応じて必要な材料を取捨選択したりする。

### 【身に付けさせたい力】

①目的や意図に応じ、考えたことなどを文章全体の構成の効果を考えて文章に書く能力を身に付けさせるとともに、適切に書こうとする態度を育てる。 〈国語への関心・意欲・態度〉

②目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理すること。 〈「書くこと」ア〉

③文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること。〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(キ)〉

【言語活動例】自分の課題について調べ、意見を記述した文章を書くこと。〈イ〉

### 【単元名】レポートを書こう ～書きたい事柄に合わせて材料を選ぶ～

#### 【教材名・教材の特長】「分かったことを報告しよう」(学校図書 5年上)

・調べたことを読み手に分かりやすく伝えるためには、引用や図表・グラフ等を使うことも必要である。既習教材「表やグラフを使って伝えよう」の学習を活用することができる。

・レポートの書き方を学ぶことによって、他教科等に生かすことができる。

#### 【言語活動】

設定した課題について調べ、分かったことについて図表等を取り入れてレポートにまとめる。〈イ〉

### 【単元目標】

①設定した課題について調べたことや考えたことが伝わるように、文章全体の構成をを考えてレポートを書こうとする。 〈国語への関心・意欲・態度〉

②設定したレポートの課題について、集めた材料を整理したり構成を踏まえて更に必要な材料が何かを考え追加の取材をしたりする。 〈「書くこと」ア〉

③調べたことや考えたことが伝わるように構成を工夫する。 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(キ)〉

時	評価規準	評価方法	学習活動
1			<p><b>レポートを書くことの見通しを持つ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会科「食料生産」の学習を振り返り、レポートでどのようなことを伝えたいのかグループで話し合う。</li> </ul> <p>(社会科との連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書のモデル文等を基に、レポートには「調べようと思ったわけ」「調べたこと」「調べて分かったこと」を書くことや、使うとよい表現について知る。</li> <li>・図表を使うと分かりやすく、読み手を引き付けられることを、既習の教材やモデル文で確認する。</li> <li>・伝えたい内容を伝えるために適切な材料が使われているか、図表が適切な箇所に配置されているか、モデル文を分析する。</li> </ul>
2			<p><b>レポートの課題を決定する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会科の教科書や資料集の図表を基に、疑問に思ったことや考えたことを付箋に書き出す。</li> <li>・グループで付箋を紹介し合う。</li> <li>・最も関心の高いものを自分のレポートの課題に設定する。</li> <li>・課題に選んだ理由をワークシートに書く。</li> <li>・書いたレポートは、学級の友達と伝え合うことを知る。</li> <li>・どのような方法で取材をするのか見通しを持つ。</li> </ul>
3	<p>②設定したレポートの課題について、集めた材料を整理したり構成を踏まえて更に必要な材料が何かを考え追加の取材をしたりしている。</p> <p>〈「書く能力」ア〉</p> <p>③調べたことや考えたことが伝わるように構成を工夫している。</p> <p>〈言語についての知識・理解・技能イ(キ)〉</p>	取材カード	<p><b>レポートに必要な材料を収集する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・必要な材料を集め、取材カードに書く。</li> <li>・集まった取材カードを取捨選択・整理する。</li> <li>・不足している情報を学校図書館の本やインターネット等を使って調べたり取材したりして集め、取材カードに書く。</li> </ul>
4		構成表	<p><b>構成表を作る</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1時のレポートの書き方を思い出す。</li> <li>・説明文の学習で身に付けた段落構成を生かし、取材カードを書こうと思う順に並び替える。</li> <li>・どこに図・表・グラフを入れると自分の考えがよく伝わるか考える。</li> <li>・不足する情報について追加取材をする。</li> </ul>
5			<p><b>構成表を基にレポートの下書きを書く</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・接続語を効果的に使う。</li> </ul>
6	<p>①設定した課題について調べたことや考えたことが伝わるように、文章全体の構成を考えてレポートを書こうとしている。</p> <p>〈国語への関心・意欲・態度〉</p>	下書き原稿	<p><b>下書きを推敲する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・下書き原稿を読み合い、伝えたい内容に適した材料を選んで書いているか評価し合う。また、文章構成や論の進め方、表現のよさなどに気付いたり、情報源を知ったりする。</li> </ul>
7		推敲した	<p><b>レポートを清書し、読み合う</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レポートを清書する。</li> <li>・レポートを読み合い、伝えたい内容に適した材料を選んでいるかなどの観点に沿って、互いのよさを交流カードに書く。</li> </ul>
8		下書き原稿	
9		清書原稿	

【Cと評価した児童への手立ての例（上記の評価規準の順）】

- ②取材カードに書いた内容がレポートの課題に適しているか、1枚ずつ確かめさせる。〈ア〉
- ③複数の文章構成を示し、どの構成が分かりやすいか判断させる。文章を書く段階では、接続語を使って一文を短く書かせる。〈イ(キ)〉
- ①材料や構成のよいところを認め、モデル文を参考に書き出してみるよう助言する。〈国語への関心・意欲・態度〉

## B書くこと〔中学校第1学年〕

### 【目標】

目的や意図に応じ、日常生活にかかわることなどについて、構成を考えて的確に書く能力を身に付けさせるとともに、進んで文章を書いて考えをまとめようとする態度を育てる。

### 【指導事項】

- ア 日常生活の中から課題を決め、材料を集めながら自分の考えをまとめること。  
イ 集めた材料を分類するなどして整理するとともに、段落の役割を考えて文章を構成すること。  
ウ 伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くこと。  
エ 書いた文章を読み返し、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、読みやすく分かりやすい文章にすること。  
オ 書いた文章を互いに読み合い、題材のとらえ方や材料の用い方、根拠の明確さなどについて意見を述べたり、自分の表現の参考にしたりすること。

### 【言語活動例】

- ア 関心のある芸術的な作品などについて、鑑賞したことを文章に書くこと。  
イ 図表などを用いた説明や記録の文章を書くこと。  
ウ 行事等の案内や報告をする文章を書くこと。

### 【「書くこと」における生徒の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

- 日常生活の中から課題を決め、材料を集めながら自分の考えをまとめる。  
◆伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書く。  
※書いたものを基に友達と交流して、根拠の材料の用い方、根拠の明確さについて互いに意見を述べる活動を経験している。

### 【身に付けさせたい力】

- ①目的や意図に応じ、的確に書く能力を身に付け、考えをまとめようとする態度を育てる。  
〈国語への関心・意欲・態度〉  
②伝えたい事柄について、根拠を明確にして書くこと。 〈「書くこと」ウ〉  
③書いた文章を互いに読み合い、根拠の明確さなどについて意見を述べたり、自分の表現の参考にしたりすること。 〈「書くこと」オ〉  
④事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、話や文章の中の語彙について関心をもつこと。 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ウ)〉

【言語活動例】 関心のある芸術的な作品などについて、鑑賞したことを文章に書くこと。〈ア〉

### 【単元名】 鑑賞したことを文章に書こう～伝えたい事柄を根拠を明確にして書く～

#### 【教材名・教材の特長】 「根拠を明確にして書くには」（教育出版 1年）

- ・ 絵画作品を例に、例文が提示され、鑑賞文を書く上で注意すべき要点をまとめてあるので、根拠を明確にして書くことの大切さを理解することができる。
- ・ 「根拠を明確にして書く」こととそのための表現が具体的に例示されている。

#### 【言語活動】

美術作品について鑑賞したことを文章に書く。〈ア〉

### 【単元目標】

- ①美術鑑賞で感じたことを的確に文章にまとめようとする。 〈国語への関心・意欲・態度〉  
②伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く。 〈「書くこと」ウ〉  
③書いた文章を互いに読み合い、意見を述べ合って自分の表現の参考にする。〈「書くこと」オ〉  
④事象などを表す多様な語句について理解を深め、文章の中で使う。  
〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ウ)〉

【授業の具体例】

時	評価規準	評価方法	学習活動
1			<p>美術作品について鑑賞したことを文章に書くという見通しを持つ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東大寺金剛力士像，俵屋宗達「風神雷神図」を見て，興味を持った一方を選び，感じたことや心に強く残ったことをメモする。</li> <li>・教科書の例文「牛乳を注ぐ女」（フェルメール作）を読み，下の3点について確認する。</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵画作品を見て，強く印象に残ったことを文章の中心にする。</li> <li>・自分が強く心に残ったことは，鑑賞に関する用語（形・色彩・材料・光・動き・奥行き等）の，何に注目して得られたものかを明らかにする。</li> <li>・感じたことの根拠を，つなぐ言葉や文末表現（「それは～からです。」「なぜなら～からです。」等）を効果的に用いて書く。</li> </ul>
2 3	<p>②伝えたい事柄について，根拠を明確にして書いている。 〈「書く能力」ウ〉</p> <p>④事象などを表す多様な語句について理解を深め，文章の中で使っている。 〈言語についての知識・理解・技能イ(ウ)〉</p>	<p>ワークシート</p> <p>下書き用紙</p>	<p>※第1時は美術担当の教師とT.T.で行うことも考えられる。</p> <p>選んだ美術作品について，自分の印象が何に着目したものかを確認し，感じたことを記述する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・美術品の写真を載せたワークシートを使い，根拠となる部分に矢印を引きながら印象を記す。</li> <li>・記したもののから，特に文章にしたいものを選ぶ。</li> <li>・印象に残ったことが，鑑賞に関する用語の何に着目したものかワークシートに書き加える。</li> </ul> <p>根拠を明確にして，400字程度の下書きを書く</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・印象に残ったことを，着目した点とその根拠を組み合わせ，順序を考えながら書いていく。</li> <li>・感じたことを表現する語彙を探すために辞書や類語辞典，類語集などを参考にする。</li> </ul> <p>下書きをグループで読み合い助言し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・印象に残ったこととその根拠となる記述について説明をする。</li> <li>・使用した用語や表現という点について助言し合う。</li> </ul>
4 5	<p>③書いた文章を互いに読み合い，意見を述べ合って自分の表現の参考にしていく。 〈「書く能力」オ〉</p> <p>①美術鑑賞で感じた印象を的確に文章にまとめようとしている。 〈国語への関心・意欲・態度〉</p>	<p>清書用紙</p>	<p>グループでの助言を参考にして推敲し，清書する</p> <p>清書を読み合って，互いの感想から自分の文章について振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感想を述べ合い，それをもとにして自分の文章について振り返ったことを清書用紙の左隅の枠に記入する。</li> </ul>

【Cと評価した生徒への手立ての例（上記の評価規準の順）】

- ②自分が感じたことを率直に表現させ，それは作品の何によるものかを考えさせる。〈ウ〉
- ④表現したい語彙を探すための辞書の使い方について，例を挙げながら説明する。〈イ(ウ)〉
- ③友達の下書きを読んで共感できるところに注目して，感想を述べるよう助言する。〈オ〉
- ①感じたことの根拠になるのは作品のどの部分か，説明する表現を考えさせる。〈国語への関心・意欲・態度〉



## B書くこと〔中学校第2学年〕

### 【目標】

目的や意図に応じ、社会生活にかかわることなどについて、構成を工夫してわかりやすく書く能力を身に付けさせるとともに、文章を書いて考えを広げようとする態度を育てる。

### 【指導事項】

- ア 社会生活の中から課題を決め、多様な方法で材料を集めながら自分の考えをまとめること。  
イ 自分の立場及び伝えたい事実や事柄を明確にして、文書の構成を工夫すること。  
ウ 事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書くこと。  
エ 書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係などに注意して、読みやすく分かりやすい文章にすること。  
オ 書いた文章を互いに読み合い、文章の構成や材料の活用の仕方などについて意見を述べたり助言したりして、自分の考え方を広げること。

### 【言語活動例】

- ア 表現の仕方を工夫して、詩歌を作ったり物語などを書いたりすること。  
イ 多様な考え方ができる事柄について、立場を決めて意見を述べる文章を書くこと。  
ウ 社会生活に必要な手紙を書くこと。

### 【「書くこと」における生徒の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

- 書くために集めた材料を分類することができる。
- 身近な日常生活の中から課題を決めることができる。
- ◆多様な方法で書くための材料を集めながら自分の考えをまとめる。

### 【身に付けさせたい力】

- ①目的や意図に応じ、社会生活にかかわることなどについて、文章を書いて考えを広げようとする態度を育てる。〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②社会生活の中から課題を決め、多様な方法で材料を集めながら自分の考えをまとめること。〈「書くこと」ア〉
- ③相手や目的に応じて、話や文章の形態や展開に違いがあることを理解すること。〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(オ)〉

【言語活動例】多様な考え方ができる事柄について、立場を決めて意見を述べる文章を書くこと。〈イ〉

### 【単元名】レポートを書こう～多様な方法で材料を集め自分の考えをまとめる～

#### 【教材名・教材の特長】「資料を収集して自分の考えを書くには」（教育出版 2年）

- ・「書くこと」の学習過程のうち、資料を収集し自分の考えをまとめることが中心になっているので、指導事項を絞った指導をするのに適している。
- ・社会生活の中で課題を見付け、具体的な取材の方法とレポートの基本的な形式を知ることができる。

#### 【言語活動】

国語に関する世論調査をきっかけにして、関心ある事項のレポートを書く。〈イ〉

### 【単元目標】

- ①国語に関することについて、レポートを書いて考えを広げようとする。〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②国語に関する調査から自分の課題を決め、材料を集めて自分の考えをまとめる。〈「書くこと」ア〉
- ③目的に応じて、文章の形態や展開に違いがあることを理解する。〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(オ)〉

時	評価規準	評価方法	学習活動
1			<p>文化庁「国語に関する世論調査」を見て、関心のある事項についてレポートを書くという見通しを持つ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レポートの形式とレポートに適した文体を知り、自分の考えを形式に従ってまとめていくことを知る。</li> <li>・レポートの形式や書き方を学習する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 題名・日付・報告者</li> <li>2 課題と取り上げた理由</li> <li>3 調査の方法</li> <li>4 調べた内容</li> <li>5 まとめ（意見・今後の課題など）</li> <li>6 参考資料（出典を明示する）</li> </ol> </div>
2 3	<p>②国語に関する調査から自分の課題を決め、材料を集めて自分の考えをまとめている。 〈「書く能力」ア〉</p>	<p>ワークシート</p> <p>下書き用紙</p>	<p>「国語に関する世論調査の結果」の中から関心のある事項を見付け、それに関して必要な資料を集める</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世論調査の結果の記述内容やグラフ等から読み取れることを確認する。</li> <li>・「国語に関する世論調査の結果」を読んで感じたことをグループで共有し、自分が一番関心のある事項を見付ける。</li> <li>・調査結果から関心のある事項をワークシートに書き出す。</li> <li>・関心のある事項について自分の意見をまとめるために、身の回りの人のインタビューへの回答、新聞、書籍などを資料として集める。</li> </ul> <p>関心のある事項に対して自分の主張や意見、今後の課題などを文章にする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集めた資料を参考に自分の主張又は意見を文章にまとめる。</li> </ul>
4 5 6	<p>③目的に応じて、文章の形態や展開に違いがあることを理解している。 〈言語についての知識・理解・技能イ(ウ)〉</p> <p>①国語に関することについて、レポートを書いて考えを広げようとしている。 〈国語への関心・意欲・態度〉</p>	<p>清書レポート 感想用紙</p>	<p>国語について関心のある事項のレポートを書く</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レポートの項目に従ってA4用紙2枚程度で下書きする。</li> <li>・推敲後、清書する。</li> </ul> <p>グループでレポートを読み、感想を交流する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3人から4人のグループで回し読みをしてA5判程度の大きさの紙に感想を記入して本人に渡す。</li> </ul> <p>全員のレポートを一まとめにして「国語に関するレポート集」にする</p>

【Cと評価した生徒への手立ての例（上記の評価規準の順）】

- ②普段の生活の中で気になる言葉や言い回しを考えさせる。〈ア〉
- ③レポートと他の文章とは文体に違いがあることを確認させる。〈イ(ウ)〉
- ①各項目の分量は少なくとも、レポートの形式で書くようにする。〈国語への関心・意欲・態度〉

## B書くこと〔中学校第3学年〕

### 【目標】

目的や意図に応じ、社会生活にかかわることなどについて、論理の展開を工夫して書く能力を身に付けさせるとともに、文章を書いて考えを深めようとする態度を育てる。

### 【指導事項】

ア 社会生活の中から課題を決め、取材を繰り返しながら自分の考えを深めるとともに、文章の形態を選択して適切な構成を工夫すること。

イ 論理の展開を工夫し、資料を適切に引用するなどして、説得力のある文章を書くこと。

ウ 書いた文章を読み返し、文章全体を整えること。

エ 書いた文章を互いに読み合い、論理の展開の仕方や表現の仕方などについて評価して自分の表現に役立てるとともに、ものの見方や考え方を深めること。

### 【言語活動例】

ア 関心のある事柄について批評する文章を書くこと。

イ 目的に応じて様々な文章などを集め、工夫して編集すること。

### 【「書くこと」における児童の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

○書いた文章を互いに読み合い、文章の構成について助言したりして自分の考えを広げる。

◆事実や事柄、意見や心情が相手に伝わるように、具体例を加えるなどの工夫をして書く。

◆具体的事実を一般化し、自分の意見の妥当性へと結び付けて書く。

※本単元の前に「読むこと」の単元として「論語」を学習しており、孔子の言葉を実生活との関係の中で理解している。学んで時にこれを習ふー「論語」から（光村図書3年）

### 【身に付けさせたい力】

①目的や意図に応じ、文章を書いて考えを深めようとする態度を育てる。

〈国語への関心・意欲・態度〉

②論理の展開を工夫し、資料を適切に引用して、説得力のある文章を書くこと。

〈「書くこと」イ〉

③古典の一節を引用するなどして、古典に関する簡単な文章を書くこと。

〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項ア(イ)〉

### 【言語活動例】 目的に合わせてメッセージを書く。〈その他〉

### 【単元名】 下級生にメッセージを書こう～展開や引用内容を工夫して説得力のある文章を書く～

### 【教材名・教材の特長】（「論語」光村図書 3年）

・「読むこと」の授業において、全部で四節の孔子の言葉を学んでいるが、そのどれもが中学生が自分自身の生活において実感できるものである。

・古代中国の思想と現代の考え方に相違がないことを知ることができる。

### 【言語活動】

「論語」の一節を引用して下級生へのメッセージを書く。〈その他〉

### 【単元目標】

①中学校生活を振り返り、下級生に伝えたい内容をメッセージとして書こうとする。

〈国語への関心・意欲・態度〉

②下級生に向けて書くメッセージの中に、「論語」の一節を引用して、論理の展開を工夫し、説得力のある文章を書く。

〈「書くこと」イ〉

③「論語」の一節を引用して、下級生へのメッセージを400字程度で書く。

〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項ア(イ)〉

【授業の具体例】

時	評価規準	評価方法	学習活動
1			<p>既習の「論語」の内容を振り返り、それらの言葉を引用して下級生にメッセージを書く見通しを持つ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「論語」の言葉について振り返り、それぞれの言葉の意味を確認する。</li> <li>・それぞれの言葉について、自分たちの生活の中で同じように感じた経験はないか話し合い、それはどのような時だったのか発表し合う。</li> <li>・卒業を前に「論語」の言葉を使って、下級生に400字程度のメッセージを書くという課題を持つ。</li> <li>・自分が引用したいと思う一節をワークシートに書き、その一節と関連のあるエピソードや体験をクラスで出た意見を参考に複数書き出す。</li> </ul>
2 3	<p>②下級生に向けて書くメッセージの中に、「論語」の一節を引用して、論理の展開を工夫し、説得力のある文章を書いている。</p> <p>〈「書く能力」イ〉</p> <p>③「論語」の一節を引用して、下級生へのメッセージを400字程度で書いている。</p> <p>〈言語についての知識・理解・技能ア(イ)〉</p>	<p>ワークシート メッセージ原稿 文集</p>	<p><b>メッセージ原稿を書く</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に書き出したエピソードや体験の中から、「論語」の言葉の具体例として、最も合っていると思うものを一つ選ぶ。</li> <li>・言葉と具体例から、下級生に伝えたいことを一文で書く。</li> <li>・「選んだ言葉、具体例、伝えたいこと」の三つの項目をワークシートに整理し、ペアで交流する。その際、「伝えたいことの根拠として具体例が適切か」という視点で推敲し合い、適切な事例を考える。</li> <li>・伝わりやすい構成を考え、400字程度の文にまとめる。その際引用部分が分かるよう「 」で示す等の工夫をする。</li> </ul>
4	<p>①中学校生活を振り返り、下級生に伝えたい内容をメッセージとして書こうとしている。</p> <p>〈国語への関心・意欲・態度〉</p>	<p>感想カード 振り返りカード</p>	<p><b>メッセージを読み合い、評価する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4人程度のグループで交流し、評価カードを書いて、互いに交換する。</li> <li>・自分の作品を読み直し、振り返りカードを書く。</li> <li>・印刷したものを下級生に配布する。</li> </ul>

【Cと評価した生徒への手立ての例(上記の評価規準の順)】

- ②三つの項目を「引用する言葉、具体例、メッセージ」の順に並べ文章にするよう助言する。〈イ〉
- ③400字書くことが難しい生徒には、伝えたいことを箇条書きで並べても良いことを伝える。  
〈ア(イ)〉
- ①評価する際には、原稿を推敲した時の「伝えたいことの根拠として具体例が適切か」という視点で読むことを伝える。  
〈国語への関心・意欲・態度〉

## B書くこと〔高等学校 国語総合〕

### 【目標（国語総合）】

国語を適切に表現し、的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

### 【指導事項】

ア 相手や目的に応じて題材を選び、文章の形態や文体、語句などを工夫して書くこと。

イ 論理の構成や展開を工夫し、論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめること。

ウ 対象を的確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の仕方を考えて書くこと。

エ 優れた表現に接してその条件を考えたり、書いた文章について自己評価や相互評価を行ったりして、自分の表現に役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。

### 【言語活動例】

ア 情景や心情の描写を取り入れて、詩歌をつくったり随筆などを書いたりすること。

イ 出典を明示して文章や図表などを引用し、説明や意見などを書くこと。

ウ 相手や目的に応じた語句を用い、手紙や通知などを書くこと。

### 【「書くこと」における生徒の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

○対象を的確に説明したり描写したりするなど、表現の仕方を考えて書く。

◆書いた文章について自己評価や相互評価を行って自分の表現に役立てる。

### 【身に付けさせたい力】

①国語を適切に表現し、伝え合う力を高め、言語感覚を磨き、国語の向上を図る態度を育てる。

〈国語への関心・意欲・態度〉

②相手や目的に応じて題材を選び、文章の形態や文体、語句などを工夫して書くこと。 〈「書くこと」ア〉

③対象を的確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の仕方を考えて書くこと。 〈「書くこと」ウ〉

④文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにする。

〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(イ)〉

【言語活動例】 出典を明示して文章や図表などを引用し、説明や意見などを書くこと。 〈イ〉

### 【単元名】 人物を紹介する～適切な表現の仕方を考えて書く～

【教材名・教材の特長】 「表現の扉 4 体験を聞く」（筑摩書房「精選 国語総合 現代文編 改訂版」）

・人物を紹介するという表現活動について、インタビュー、形式を選択して文章にすること、インタビュー後の礼状など、話を聞くための一連の流れを知ることができる。

・インタビューで聞き取った話をまとめるための具体的な手立てと、多様な形式が紹介されている。

### 【言語活動】

インタビューを基にして身近な社会人の紹介記事を書く。 〈イ〉

### 【単元目標】

①人物の紹介をするための適切な表現を考えて、伝える力を高めようとする。 〈国語への関心・意欲・態度〉

②人物を紹介するための文章の形態や文体、語句などを工夫して書く。 〈「書くこと」ア〉

③人物を的確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の仕方を考えて書く。 〈「書くこと」ウ〉

④文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにする。

〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(イ)〉

【授業の具体例】

時	評価規準	評価方法	学習活動
1 2	④文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにしている。 〈言語についての知識・理解イ(イ)〉	ワークシート	<p><b>身近な社会人の紹介文を書くために、新聞や雑誌の人物紹介記事を読む</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な形式で書かれた新聞や雑誌の人物紹介のコラムや記事を読み、紹介記事の書き方として気付いたことをワークシートにまとめる。(人物を紹介するための効果的な表現について、見出し・小見出しなどの表現について、写真なども含めた全体のレイアウトなど)</li> <li>・紹介記事の形式を知る。             <ol style="list-style-type: none"> <li>①話し手の言葉だけでまとめる形式</li> <li>②聞き手と話し手の問い・答えでまとめる形式</li> <li>③聞き手の報告を地の文として、その中に話し手の言葉を引用して入れていく形式</li> </ol> </li> </ul> <p>自分が話を聞きたいと思う人を決め、その動機と質問したい項目をワークシートにまとめる</p> <p>仕事や趣味で魅力ある生き方をしている社会人に仕事や生き方に関する体験談を聞く</p> <p>※長期休暇などを利用してインタビュー取材を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インタビューの際の注意点を事前に確認しておく。</li> <li>・許可を得て、録音・写真撮影をする。</li> </ul>
3 4 5 6	②人物を紹介するための文章の形態や文体、語句などを工夫して書いている。 〈「書く能力」ア〉 ③人物を的確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の仕方を書いて書いている。〈「書く能力」ウ〉 ①人物の紹介をするための適切な表現を考えて、伝える力を高めようとしている。 〈国語への関心・意欲・態度〉	ワークシート    下書き 人物紹介の記事  評価用紙	<p><b>主題をまとめる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「なぜこの人の話を聞きたいのか」という自分の動機を思い出しながら取材メモを読み返す。</li> <li>・取材メモから印象深い言葉や感銘を受けたエピソードなどを拾い出し、主題を考えてワークシートにまとめる。</li> </ul> <p><b>自分の伝えたい内容について形式を選択して編集する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主題を軸に、メモや感想から文章にするものを取捨選択する。</li> </ul> <p><b>記事として文章化する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・効果的な見出しや小見出しを考える。</li> <li>・印象に残ったことを適切な表現の仕方でのちに説明する。</li> <li>・記事の形式で下書きし、推敲してから清書して仕上げる。</li> </ul> <p><b>相互評価・自己評価を行う</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・班ごとに友達の紹介記事を読んで感じたことと表現の仕方について感じたことを、互いの評価用紙に書き、それを基に自己評価を行う。</li> </ul>

【Cと評価した生徒への手立ての例（上記の評価規準の順）】

- ④文中の語の位置を変えたり省略するだけで表現効果が変わることを確認する。〈イ(イ)〉
- ③読みたくなるような文体を決めるために、第一時の記事例を振り返るよう助言する。〈ア〉
- ②話し手の言葉を引用して表記するなど、効果的な表現方法を助言する。〈ウ〉
- ①興味深く感じたことを中心に書くよう助言する。〈国語への関心・意欲・態度〉

#### (4) 「C読むこと」

##### C読むこと〔小学校低学年〕

###### 【目標】

書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。

###### 【指導事項】

- ア 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。
- イ 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。
- ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。
- エ 文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。
- オ 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。
- カ 楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。

###### 【言語活動例】

- ア 本や文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読むこと。
- イ 物語の読み聞かせを聞いたり、物語を演じたりすること。
- ウ 事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読むこと。
- エ 物語や、科学的なことについて書いた本や文章を読んで、感想を書くこと。
- オ 読んだ本について、好きなところを紹介すること。

###### 【「読むこと」における児童の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

- 短い文章の中から「問い」と「答え」を見付ける。
- ◆順序や言葉のつながりを考えながら読む。

###### 【身に付けさせたい力】

- ①書かれている事柄の順序や様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。 〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②時間的な順序を考えながら内容の大体を読むこと。 〈「読むこと」イ〉
- ③文の中における主語と述語との関係に注意すること。 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(カ)〉

###### 【言語活動例】事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読むこと。〈ウ〉

###### 【単元名】すくすく絵巻物を作ろう～時間の順序に気を付けて読む～

###### 【教材名・教材の特長】「まめ」（学校図書 1年下）

- ・豆の生育について、時間の順序を示す言葉を用いて書かれている。
- ・本文を補足する写真が掲載されているので、順序や書かれている内容を確認しながら読むことができる。
- ・生活科等で得た自分の経験や知識と結び付けて、興味を持って読むことができる。

###### 【言語活動】

植物の生育の様子が書かれた本や文章を読み、絵巻物に作り換える。〈ウ〉

###### 【単元目標】

- ①自分の経験や知識と時間的な順序に沿った記述の内容を比べたり結び付けたりしながら植物に関する本を読み、楽しんで絵巻物を作ろうとする。 〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②時間の順序を示す言葉に注意して豆の生育の様子を捉える。 〈「読むこと」イ〉
- ③豆の生育の様子について、主語と述語を対応させて読む。 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(カ)〉

時	評価規準	評価方法	学習活動
1			<p>植物が種から育つ様子について書かれた絵本や図鑑について紹介を聞き、興味を持つ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・豆について知っていることを出し合う。</li> <li>・「まめ」の範読を聞く。</li> </ul> <p>学習のめあて「〇〇の絵巻物を作ろう」を知り、絵巻物作りに興味を持つ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が作った絵巻物を見て、絵巻物が時間の順序に気を付けて作られていることを知る。</li> <li>・野菜や果物、花などの本を、生育の順序を表す言葉に気を付けて並行読書することを知る。(学校図書館や地域との連携)</li> </ul>
2			<p>「まめ」を読む</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の後に続いて読んだり、ペアやグループなど形態を変えて読んだり、様々な読み方で音読する。</li> <li>・初めて知ったことや驚いたことに線を引き、話し合う。</li> <li>・話合いを通して、更に話し合っていたいことを共通の学習課題として設定する。</li> </ul>
3 4 5	<p>②時間の順序を示す言葉に注意して豆の生育の様子を捉えている。</p> <p>〈「読む能力」イ〉</p>	ワークシート	<p>③～⑩段落を読み、豆の生育順序を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1段落ごと書かれている短冊用紙(③～⑩段落の9枚)を、順序を表す言葉や段落のつながりを考えて並べ替える。</li> </ul>
6 7	<p>③豆の生育の様子について、主語と述語を対応させて読んでいる。</p> <p>〈言語についての知識・理解・技能イ(カ)〉</p>	ワークシート	<p>8枚の写真を豆の生育順序に並べ替え、ミニ絵巻物を作る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・8枚の写真を豆の生育過程に合わせて並べ、なぜその順序になるのか考える。</li> <li>・写真と関係のある段落を対応させる。</li> <li>・「何が、どうしたのか」に気を付けて視写する。</li> <li>・文中に表現されていないが、写真から気付いたことや分かったことを書き足し、交流する。</li> </ul>
8 9 10 11 12	<p>①自分の経験や知識と時間的な順序に沿った記述の内容を比べたり結び付けたりしながら植物に関する本を読み、楽しんで絵巻物を作ろうとしている。</p> <p>〈国語への関心・意欲・態度〉</p>	<p>読書記録 作った絵巻物 感想用紙</p>	<p>「〇〇の絵巻物」を作る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読書記録を基に並行読書してきた図鑑や本を見直し、絵巻物の題材を決める。</li> <li>・題材ごとグループを作り、生育の順序を表す言葉に付箋を貼りながら図鑑や本を読む。</li> <li>・付箋を貼った言葉を使って絵巻物を作る。</li> </ul> <p>「絵巻物発表会」を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表を聞いた感想を伝え合う。</li> </ul>

## 【Cと評価した児童への手立ての例(上記の評価規準の順)】

- ②生育の順序を理解するために、写真と文章を照らし合わせるよう助言する。〈イ〉
- ③豆の生育の様子について、「〇〇が△△する。」の文型に当てはめて考えるよう助言する。〈イ(カ)〉
- ①興味を持っている植物を聞き出し、本を紹介したり一緒に探したりする。〈国語への関心・意欲・態度〉



## C読むこと〔小学校低学年〕

### 【目標】

書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。

### 【指導事項】

- ア 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。
- イ 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。
- ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。
- エ 文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。
- オ 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。
- カ 楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。

### 【言語活動例】

- ア 本や文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読むこと。
- イ 物語の読み聞かせを聞いたり、物語を演じたりすること。
- ウ 事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読むこと。
- エ 物語や、科学的なことについて書いた本や文章を読んで、感想を書くこと。
- オ 読んだ本について、好きなところを紹介すること。

### 【「読むこと」における児童の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

○詩や物語の音読に関心が高く、生き生きと読んでいる。

◆場面の様子について想像を広げて読む。

### 【身に付けさせたい力】

- ①場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。 〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 〈「読むこと」ウ〉
- ③かぎ（「 」）の使い方を理解して文章の中で使うこと。  
〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(オ)〉

【言語活動例】物語を演じること。〈イ〉

【単元名】お気に入りの場面のペープサート劇をしよう～人物の行動や場面について想像を広げて読む～

【教材名・教材の特長】「お手紙」

（光村図書2年下・学校図書2年下・東京書籍2年上・三省堂2年・教育出版1年下）

- ・会話文が多く、がまくん、かえるくんの様子を想像するときに手掛かりとなる。
- ・シリーズ作品が豊富で、シリーズ読書を通して場面の様子をより豊かに想像することができる。

### 【言語活動】

お気に入りの場面について想像を広げ、ペープサートで演じる。〈イ〉

### 【単元目標】

- ①シリーズの物語について大好きな作品、お気に入りの場面を見付け、想像を広げながらペープサートで演じようとする。 〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②お気に入りの場面について、登場人物の行動や会話に着目し、想像を広げて読む。 〈「読むこと」ウ〉
- ③会話文にはかぎ（「 」）が使われていることを理解して、お気に入りの場面を視写する。  
〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(オ)〉

時	評価規準	評価方法	学習活動
1 2			<p>「ふたりはともだち」所収の作品の読み聞かせを聞き、がまくん、かえるくんシリーズの物語に興味を持つ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・面白いところ、好きなところを述べ合う。</li> </ul> <p>学習のめあて「大好きなお話をペープサート劇にしよう」を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が作ったペープサート劇を見て、ペープサート劇が自分の想像した登場人物の動きやセリフを付け足して物語を語っていくものであることを理解する。</li> <li>・「登場人物・場面設定・事件」等のペープサート劇に必要な要素を確認する。</li> <li>・がまくん、かえるくんシリーズについて、大好きな物語やお気に入りの場面を見付けながら並行読書することを知る。<b>(学校図書館や地域との連携)</b></li> </ul>
3 4 5 6 7	<p>②お気に入りの場面について、登場人物の行動や会話に着目し、想像を広げて読んでいく。</p> <p>〈「読む能力」ウ〉</p> <p>③会話文にはかぎ（「 」）が使われていることを理解して、お気に入りの場面を視写している。</p> <p>〈言語についての知識・理解・技能イ(ウ)〉</p>	ワークシート	<p>「お手紙」のお気に入りの場面を見付けながら読む</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・役割読みなどをしながら繰り返し音読し、挿絵も参考にしながら登場人物の様子や物語の展開をつかむ。</li> <li>・お気に入りの場面を見付け、登場人物、場面設定、事件等を捉える。</li> <li>・なぜそこがお気に入りの場面なのか、場面の様子、登場人物の行動や会話、シリーズの他の作品との関わり、挿絵などを基に話し合う。</li> <li>・お気に入りの場面の中で最も好きな部分を、かぎ（「 」）の使い方に注意しながら視写する。</li> </ul> <p><b>お気に入りの場面をペープサートで演じる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・視写した部分を中心にしたペープサート劇をグループで見せ合い、どのような言葉で場面の様子や登場人物の会話を表現しているか、なぜそのような動きやセリフにしたのか交流する。</li> </ul>
8 9 10 11 12	<p>①シリーズの物語について好きな作品、お気に入りの場面を見付け、想像を広げながらペープサートで演じようとしている。</p> <p>〈国語への関心・意欲・態度〉</p>	<p>読書記録 ワークシート</p> <p>感想用紙</p>	<p><b>大好きな物語のお気に入りの場面をペープサートで演じる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・並行読書してきた物語から好きな作品を選び、好きな理由を明らかにしてお気に入りの場面を決める。</li> <li>・お気に入りの場面を中心に物語を繰り返し読み、場面の様子や登場人物のセリフなど想像したことをワークシートにまとめる。</li> </ul> <p><b>「ペープサート劇発表会」を行う</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表を聞いた感想を伝え合う。</li> </ul>

## 【Cと評価した児童への手立ての例（上記の評価規準の順）】

- ②一緒に音読をしながら、好きな登場人物の行動や会話文に線を引くよう助言する。また、好きな理由を考えさせる。〈ウ〉
- ③一文ごと音読してから視写させ、地の文と会話文を比べ、会話文はかぎ（「 」）でくくられていることに気付かせる。〈イ(ウ)〉
- ①「お手紙」で気に入った登場人物について尋ね、その登場人物の行動や会話を手掛かりに他の作品でもお気に入りの箇所を見付けさせる。セリフを一つ増やしてみるよう励ます。〈国語への関心・意欲・態度〉

## C読むこと〔小学校中学年〕

### 【目標】

目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。

### 【指導事項】

- ア 内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読すること。  
イ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。  
ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。  
エ 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。  
オ 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。  
カ 目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むこと。

### 【言語活動例】

- ア 物語や詩を読み、感想を述べ合うこと。  
イ 記録や報告の文章、図鑑や事典などを読んで利用すること。  
ウ 記録や報告の文章を読んでまとめたものを読み合うこと。  
エ 紹介したい本を取り上げて説明すること。  
オ 必要な情報を得るために、読んだ内容に関連した他の本や文章などを読むこと。

### 【「読むこと」における児童の実態】 ○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

- 「始め、中、終わり」の文章構成や「問いと答え」の構成を意識しながら読む。
- 文章の大体の意味を、小見出し等で表したり、要約したりしながら読む。
- ◆接続語の役割を意識し、事実と意見との関係を考えながら読む。

### 【身に付けさせたい力】

- ①目的に応じ、段落相互の関係を考えながら読む能力を身に付けさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。 (国語への関心・意欲・態度)
- ②目的に応じて、段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。 (「読むこと」イ)
- ③接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解すること。 (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(り))

### 【言語活動例】 記録や報告の文章を読んで、利用する。(イ)

### 【単元名】 説明するために読もう～構成や、事実と意見の関係を考えながら読む～

#### 【教材名・教材の特長】 「むささびのひみつ」「あめんぼはにん者か」(学校図書 4年上)

- ・問題を解決していく論理の展開に共通点があり、比較しながら読むことで、文章構成や表現の工夫など、「文章の書き方の工夫」を理解することができる。
- ・文章全体が「始め・中・終わり」で構成され、「始め・中」が問題解決部分、「終わり」が筆者の意見というように、意見に説得力を持たせるための構成を理解できる。
- ・接続語や文末表現が、内容を整理しながら読む上で、効果的に使われている。

### 【言語活動】

意見文を読み、構成等を参考にしながら自分の意見を説明する。(イ)

### 【単元目標】

- ①二つの意見文の文章構成を参考にしながら、自分の意見を説明しようとする。(国語への関心・意欲・態度)
- ②効果的な意見の伝え方を理解するために、段落相互の関係や、事実と筆者の意見との関係を考えながら読む。(「読むこと」イ)
- ③接続語が、文や段落相互の意味のつながりに果たす役割を理解する。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(り))

時	評価規準	評価方法	学習活動															
1			<p>学習のめあてを理解し、フリップを使って説明する見通しを持つ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>総合的な学習の時間で持った自分の意見を思い出す。</li> <li>教師の演示から、「実験」「実験結果」等のまとまりをフリップに整理し、自分の意見を効果的に伝えることを理解する。</li> </ul>															
2	<p>②効果的な意見の伝え方を理解するために、段落相互の関係や、事実と筆者の意見との関係を考えながら読んでいる。</p> <p>〈「読む能力」イ〉</p> <p>③接続語が、文や段落相互の意味のつながりに果たす役割を理解している。</p> <p>〈言語についての知識・理解・技能イ(リ)〉</p>	ワークシート1	<p>A「むささびのひみつ」を読み、効果的な文章構成について理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>接続語に着目しながら、全体を「始め・中・終わり」、「中」を意味段落に分け、文章の構成を理解する。</li> <li>意味段落ごとに内容の中心をまとめ、小見出しを付け、整理する。</li> </ul> <p>【各意味段落を整理するワークシート】</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>終わり</td> <td>中②</td> <td colspan="2">中①</td> <td>始め</td> </tr> <tr> <td>筆者の意見</td> <td>実験と意見を つなぐ説明</td> <td>実験結果</td> <td>実験方法</td> <td>課題提示</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>事実（中①）と筆者の意見（終わり）をつなぐために、つなぐ段落（中②）の役割を理解する。</li> <li>写真や図が効果的に使われていることを理解する。</li> </ul> <p>Aでの読み方を使って、B「あめんぼは忍者か」の効果的な文章構成について理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Aと比べながら、文章の構成の仕方についての共通点を見付ける。</li> <li>二つの教材文の構成の仕方のよさについて、話し合う。</li> </ul>	終わり	中②	中①		始め	筆者の意見	実験と意見を つなぐ説明	実験結果	実験方法	課題提示					
終わり		中②	中①		始め													
筆者の意見		実験と意見を つなぐ説明	実験結果	実験方法	課題提示													
3																		
4																		
5																		
6																		
7																		
8																		
9	<p>①二つの意見文の文章構成を参考にしながら、自分の意見を説明しようとしている。</p> <p>〈国語への関心・意欲・態度〉</p>	構想メモ	<p>二つの教材文の書き方に即して文章を構成し、5枚のフリップを使って自分の意見を説明する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教材文の内容や構成に即して、総合的な学習での内容を付箋に書いていく。付箋を整理しながら、構成メモを作る。</li> <li>構成メモを基にして、接続語を使いながら、説明原稿を作成する。</li> <li>説明原稿に照らし合わせて、フリップに図や言葉を書き入れる。</li> <li>互いに説明し合いながら、構成の仕方と接続後の使い方について確認する。</li> </ul> <p>※総合的な学習の時間等において説明する。（総合的な学習の時間との連携）</p> <p>フリップを使って説明したことについて振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>効果的に意見を伝える文章構成や接続語の効果について、話し合う。</li> </ul>															
10		フリップ																
11		原稿																
12		振り返りカード																

【Cと評価した児童への手立ての例（上記の評価規準の順）】

- ②文章中の写真と中心となる語句等を示しながら、段落同士の関係に気付かせる。〈イ〉
- ③接続語の意味や役割を、簡単な例文を用いて理解させる。〈イ(リ)〉
- ①意見として伝えたいことを付箋に書き出させ、ワークシート上で整理させる。〈国語への関心・意欲・態度〉

## C読むこと〔小学校高学年〕

### 【目標】

目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。

### 【指導事項】

- ア 自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をすること。  
イ 目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。  
ウ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらかんたんとすること。  
エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。  
オ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。  
カ 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。

### 【言語活動例】

- ア 伝記を読み、自分の生き方について考えること。  
イ 自分の課題を解決するために、意見を述べた文章や解説の文章などを利用すること。  
ウ 編集の仕方や記事の書き方に注意して新聞を読むこと。  
エ 本を読んで推薦の文章を書くこと。

### 【「読むこと」における児童の実態】 ○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

- 自分の思いなどが伝わるように音読や朗読をする。  
◆登場人物の関係や心情、場面についての描写に着目して読む。  
◆自分の読みの立場を明らかにしたり、自分の考えをまとめたり広げたりする。

### 【身に付けさせたい力】

- ①目的に応じ、内容をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。 〈国語への関心・意欲・態度〉  
②登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえる。 〈「読むこと」エ〉  
③<sup>ゆ</sup>比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ケ)〉

【言語活動例】自分の生き方について考えること。〈ア〉

【単元名】自分の生き方について考えたことをまとめよう～心情・場面についての描写を捉える～

【教材名・教材の特長】「海の命」（光村図書 6年）

- ・登場人物の関係や心情が捉えやすく、特に主人公の心情の変化を叙述を基に読み取ることに適している。
- ・登場人物の考え方を通して自分の生き方を見つめることに適している。

### 【言語活動】

「海の命」を読んで、自分の生き方について考えたことをまとめる。〈ア〉

### 【単元目標】

- ①主人公太一の生き方を捉えながら読むことで、自分の生き方について考えようとする。 〈国語への関心・意欲・態度〉  
②主人公太一を中心に登場人物の心情や場面についての描写を捉える。 〈「読むこと」エ〉  
③比喩表現の工夫に気付く。 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ケ)〉

【授業の具体例】

時	評価規準	評価方法	学習活動
1 2 3			<p>これまで読んだ物語の中で自分の経験と関連させて考えを持った学習を思い出す</p> <p>学習のめあて「太一的心情を読み取りながら、自分自身の生き方について考えてみよう」を知ることで見通しを持つ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>最後に太一と自分とを比べてみて思ったことや考えたことをワークシートに書いて、学級の冊子にすることを告げる。</li> <li>「海の命」を読む。</li> <li>比喩が多用されていることに気付く。</li> <li>主人公太一の言動で気になったところに線を引いたり、ワークシートにメモをしたりしておく。</li> </ul>
4 5 6 7	<p>②主人公太一を中心に登場人物の心情や場面についての描写を捉えている。</p> <p>〈「読む能力」エ〉</p> <p>③比喩表現の工夫に気付いている。</p> <p>〈言語についての知識・理解・技能イ(ハ)〉</p>	ワークシート	<p>人物像や登場人物の相互関係を読み取り、太一の成長を捉える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>登場人物の言葉・様子・行動や場面の様子を表す叙述に着目する。</li> <li>比喩表現の工夫に気付く、意味・内容を理解する。</li> <li>おとうと与吉じいさの生き方の違いを理解する。</li> <li>おとうの姿や死、与吉じいさとの出会いと別れを通して、太一はどう変わったのか、太一の生き方やものの見方、考え方についてまとめる。</li> </ul>
8 9 10	<p>①主人公太一の生き方を捉えながら読むことで、自分の生き方について考えようとしている。</p> <p>〈国語への関心・意欲・態度〉</p>	ワークシート	<p>主人公太一の生き方から、自分の生き方を見つめ、考える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>最初に線を引いたり、メモをしたりした中から、最も印象に残った箇所を書き出す。</li> <li>選んだ箇所について、分かったことや感じたこと、考えたことを書き加える。</li> <li>太一の生き方と今の自分とを比較して、感じたことをまとめる。</li> </ul>
		振り返りカード	<p>冊子（学級全員のワークシートを印刷したもの）を読み、交流する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>感想を述べたり、質問をしたりして自分の考えを深める。</li> </ul>

【Cと評価した児童への手立ての例（上記の評価規準の順）】

②太一の言動部分に線を引かせ、人物関係図に書き込ませる。〈エ〉

③比喩表現が表す様子を想像させる。〈イ(ハ)〉

①太一の生き方や考え方について意見を持った箇所について、自分ならどうするか表現させる。

〈国語への関心・意欲・態度〉

## C 読むこと [中学校第1学年]

### 【目標】

目的や意図に応じ、様々な本や文章などを読み、内容や要旨を的確にとらえる能力を身に付けさせるとともに、読書を通してものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる。

### 【指導事項】

ア 文脈の中における語句の意味を的確にとらえ、理解すること。  
イ 文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすること。  
ウ 場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること。  
エ 文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えをもつこと。  
オ 文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広げること。  
カ 本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付け、目的に応じて必要な情報を読み取ること。

### 【言語活動例】

ア 様々な種類の文章を音読したり朗読したりすること。  
イ 文章と図表などとの関連を考えながら、説明や記録の文章を読むこと。  
ウ 課題に沿って本を読み、必要に応じて引用して紹介すること。

### 【「読むこと」における生徒の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

○文章中の事実と意見などを読み分ける。

◆文章に書かれているものの見方や考え方をとらえたり、自分と照らし合わせたりする。

### 【身に付けさせたい力】

①目的や意図に応じ、様々な本や文章などを読み、ものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる。  
〈国語への関心・意欲・態度〉

②文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広げること。  
〈「読むこと」オ〉

③語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意し、語感を磨くこと。  
〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(イ)〉

### 【言語活動例】課題に沿って本を読み、必要に応じて引用して紹介すること。〈ウ〉

### 【単元名】職人の心に響く言葉や参考となる生き方をブックカード風に紹介しよう ～自分のものの見方や考え方を広げる～

#### 【教材名・教材の特長】「ものづくりに生きる」(学校図書 1年)

- ・仕事が違う二人の職人の生き方や考え方に触れることができる。
- ・キャリア教育の視点としての読み物として適切である。

#### 【言語活動】

様々な本や資料から自分の心に響く職人の言葉や参考となる考え方を見付け、ブックカード風に書く。〈ウ〉

### 【単元目標】

①自分の生き方に参考になる職人のものの見方や考え方を見付け、ブックカード風に書こうとする。  
〈国語への関心・意欲・態度〉

②文章に書かれている職人としてのものの見方や考え方を捉え、自分のものの見方や考え方を広げる。  
〈「読むこと」オ〉

③「ピシッと」「ユニーク」など語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意する。  
〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(イ)〉

時	評価規準	評価方法	学習活動
1			職人の心に響く言葉や参考となる生き方をブックカード風に紹介することへの見通しを持つ <ul style="list-style-type: none"> <li>ルポルタージュであることを理解し、二人の職人としての生き方について読むことを確認する。</li> <li>職人について書かれた本や雑誌などを紹介し、並行読書をしていくことを確認する。 (並行読書用の本や雑誌については、学校図書館のものだけでなく、公立図書館と連携し、学校貸し出しの本等を利用しながら準備しておく。)</li> <li>興味を持った職人のものの見方や考え方を皆にブックカードで紹介することを知る。</li> <li>ブックカードの特徴等を資料を参考に理解する。</li> </ul>
2 3	③「ピシッと」「ユニーク」など語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意している。 (言語についての知識・理解・技能イ(イ)) ②文章に書かれている職人としてのものの見方や考え方を捉え、自分のものの見方や考え方を広げている。 (「読む能力」オ)	ワークシート (ブックカード)	<b>小林英夫さんと鈴木良二さんのどちらかを選び、心に響く生き方を紹介する</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>二人のうち一人の職人のものの見方や考え方を紹介することを知り、「ものづくりで生きる」を通読する。</li> <li>捉えにくい語などを確認する。</li> <li>選んだ職人についてワークシートに書かれたブックカードの枠にブックカードの参考資料を活用し、紹介文を書く。</li> <li>引用部分は、かぎ(「 」)でくくることを理解する。</li> <li>グループで見せ合い、仕事に対する考え方や職人としての生き方における共通点や仕事内容の相違点、疑問点などを見付け、ワークシートにメモしておく。</li> </ul>
4 5 6	②文章に書かれている職人としてのものの見方や考え方を捉え、自分のものの見方や考え方を広げている。 (「読む能力」オ) ①自分の生き方に参考になる職人のものの見方や考え方を見付け、ブックカード風に書こうとしている。 (国語への関心・意欲・態度)	ブックカード	<b>自分が興味・関心を抱いた職人について、仕事に対する考え方や職人としての生き方などを盛り込み、ブックカード風に紹介をする</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>並行読書してきた本や雑誌などから興味・関心を抱いた職人についてブックカード風に紹介する。その際、リード文やキャッチコピーを入れることや引用は、かぎ(「 」)でくくることを確認する。</li> <li>グループで交流をする。</li> <li>読んだカードの裏に一言感想を書く。</li> <li>カードの裏の自己評価欄に様々な職人の生き方を通して、自分のものの見方や考え方がどのように広がったかなどを記入する。</li> </ul>

## 【Cと評価した生徒への手立ての例(上記の評価規準の順)】

- ③「私はピシッと面を一本とられた思いだった。」について、一緒に辞書を引き「ピシッと」の意味を確認し、本文ではどのような意味になるのか説明をする。(イ(イ))
- ②職人について読みやすく書かれた文章を取り上げ、読み聞かせをし、「いいな」と感じたところなどを挙げてみようと言助する。(オ)
- ①「いいな」と感じたところなどを、かぎ(「 」)を使いながら取り上げてみようと言助する。また、ブックカードの参考資料を見せることで、カードの書き方をイメージさせる。

(国語への関心・意欲・態度)



**C読むこと〔中学校第1学年〕**

※後頁（「読書感想文を書こう」）の単元に引き続く

**【目標】**

目的や意図に応じ、様々な本や文章などを読み、内容や要旨を的確にとらえる能力を身に付けさせるとともに、読書を通してものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる。

**【指導事項】**

- ア 文脈の中における語句の意味を的確にとらえ、理解すること。  
 イ 文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすること。  
 ウ 場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること。  
 エ 文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えをもつこと。  
 オ 文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広げること。  
 カ 本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付け、目的に応じて必要な情報を読みとること。

**【言語活動例】※(中)第2学年を使用**

- ア 詩歌や物語などを読み、内容や表現の仕方について感想を交流すること。  
 イ 説明や評論などの文章を読み、内容や表現の仕方について自分の考えを述べること。  
 ウ 新聞やインターネット、学校図書館等の施設などを活用して得た情報を比較すること。

**【「読むこと」における生徒の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力**

- 登場人物の言動や情景などの描写を捉えながら、心情を想像する。  
 ◆登場人物の言動等が意味することについて、自分の考えをまとめる。

**【身に付けさせたい力】**

- ①目的や意図に応じ、文章を読み、内容を的確にとらえる能力を身に付けさせるとともに、読書を通してものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる。 〈国語への関心・意欲・態度〉  
 ②場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること。 〈「読むこと」ウ〉  
 ③比喩などの表現の技法について理解すること。 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(オ)〉

**【言語活動例】**物語を読み、内容や表現の仕方について感想を交流すること。〈中学2年 ア〉**【単元名】**考えたことを交流しよう～登場人物の描写や場面の展開に注意して読む～**【教材名・教材の特長】**「少年の日の思い出」（光村図書・学校図書・教育出版・三省堂 1年）

- ・登場人物の言動、語り手の言葉、情景描写などの様々な描写から、登場人物の心情やものの見方を想像することができる。
- ・前半と後半の場面を関連させて読むことで、登場人物の心情や場面の様子を想像することができる。
- ・登場人物の言動について、読み手が様々な疑問を持つことができる。

**【言語活動】**

物語を読み、内容や表現の仕方について考えたことを交流する。〈中学2年 ア〉

**【単元目標】**

- ①作品を読み、疑問に思ったり考えたりしたことを交流しようとする。〈国語への関心・意欲・態度〉  
 ②登場人物の言動や場面の展開に注意しながら、人物の心情やものの見方を想像する。 〈「読むこと」ウ〉  
 ③比喩などの表現技法や情景描写が表す意味や効果について理解する。  
 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(オ)〉

【授業の具体例】

時	評価規準	評価方法	学習活動
1			<p>「少年の日の思い出」を読んで考えたことを交流する見通しを持つ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでに読んだ作品についての感想を話したり，教師が読んだ作品について考えたことを聞いたりして，学習のめあて「疑問に思ったり考えたりしたことを交流しよう」を理解する。</li> <li>・これまでの文学作品の読み方を振り返り，場面の展開や登場人物の言動，<sup>ゆ</sup>比喩等の表現技法や情景描写等を視点にしながらか本作品を読んでいくことを理解する。</li> <li>・「少年の日の思い出」を音読する。</li> </ul>
2 3 4	<p>②登場人物の言動や場面の展開に注意しながら，人物の心情やものの見方を想像している。</p> <p>〈「読む能力」ウ〉</p> <p>③<sup>ゆ</sup>比喩などの表現技法や情景描写などの表す意味や効果について理解している。</p> <p>〈言語についてへの知識・理解・技能イ(ウ)〉</p>	<p>ノート</p> <p>考えカード</p>	<p>『ぼく(客)』について疑問に思ったことや考えたことを見付けよう」という課題を持ちながら作品を読む</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前後半の場面展開，語り手や登場人物，表現技法，情景描写等について，全体で確認する。</li> <li>・各自が，第1時で確認した視点に着目しながら「ぼく(客)」の言動について疑問に思ったことや考えたことを書く。</li> <li>・理由を付けながら各自の疑問を出し合い，作品の内容理解につながるものを明確にしていく。</li> <li>・全体での話し合いを基に，自分が解決していく疑問と，疑問を解決するために重点的に読む箇所を決定する。</li> </ul> <p>自分の疑問に即して作品全体を繰り返し読み，考えたことを「考えカード」(A5用紙の半分程度)にまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重点的に読んだ箇所について考えたことを，本文の表現を引用しながら「考えカード」に書いていく。</li> <li>・同じ疑問を持つ生徒同士や，別の疑問を持つ者同士でグループを組み，考えたことを交流する。</li> <li>・グループで話題になったことの中から，共通に話し合える内容について，全体の場で考えを深める。</li> <li>・話し合いを基に，各自が「考えカード」の修正や補足をする。</li> </ul>
5 6	<p>①作品を読み，疑問に思ったり考えたりしたことを交流しようとしている。</p> <p>〈国語への関心・意欲・態度〉</p>	<p>ワークシート</p> <p>振り返りカード</p>	<p>交流する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交流に向けて，ワークシートに「考えカード」を並べながら，自分の考えを整理する。</li> <li>・疑問について考えたことを，グループや全体の場で紹介し合う。</li> </ul> <p>自分の読みについて振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・視点に基づいた読み方であったか，確認する。</li> </ul>

【Cと評価した生徒への手立ての例(上記の評価規準の順)】

- ②例をいくつか示したり友達と対話をさせたりすることで，自分と共通する疑問を選ばせる〈ウ〉
- ③これまでに学習した教材と比較させながら，表現の工夫や効果について想起させる。〈イ(ウ)〉
- ①書いた文章を読んだり，見せたりすることで交流させる。〈国語への関心・意欲・態度〉

**B書くこと〔中学校第1学年〕** ※前頁（「考えたことを交流しよう」）の単元を引き継ぐ

**【目標】**

目的や意図に応じ、日常生活にかかわることなどについて、構成を考えた**的確に書く能力を身に付けさせるとともに、進んで文章を書いて考えをまとめようとする態度を育てる。**〈「書くこと」〉

**【指導事項】**

- ア 日常生活の中から課題を決め、材料を集めながら自分の考えをまとめること。
- イ 集めた材料を分類するなどして整理するとともに、段落の役割を考えて文章を構成すること。
- ウ 伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くこと。
- エ 書いた文章を読み返し、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、読みやすく分かりやすい文章にすること。
- オ 書いた文章を互いに読み合い、題材のとらえ方や材料の用い方、根拠の明確さなどについて意見を述べたり、自分の表現の参考にしたりすること。

**【言語活動例】**

- ア 関心のある芸術的な作品などについて、鑑賞したことを文章に書くこと。
- イ 図表などを用いた説明や記録の文章を書くこと。
- ウ 行事等の案内や報告をする文章を書くこと。

**【「書くこと」における生徒の実態】** ○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

- 自分の考えが明確になるように、段落相互の関係を考えながら文章を構成する。
- ◆集めた材料を取捨選択するなどして整理し、段落の役割を考えながら文章を構成する。

**【身に付けさせたい力】**

- ①目的や意図に応じ、的確に書く能力を身に付けさせるとともに、進んで文章を書いて考えをまとめようとする態度を育てる。 〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②集めた材料を分類するなどして整理するとともに、段落の役割を考えて文章を構成すること。 〈「書くこと」イ〉
- ③指示語や接続詞及びこれらと同じような働きをもつ語句などに注意すること。 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(エ)〉

**【言語活動例】** 関心のある作品について、鑑賞したことを文章に書くこと。〈ア〉

**【単元名】** 読書感想文を書こう～考えを整理し、段落の役割を考えて構成する～

**【教材名・教材の特長】** 「少年の日の思い出」（光村図書・学校図書・教育出版・三省堂 1年）

- ・「読むこと」の学習で持った感想を材料にして、「書くこと」の学習を続けて行うことができる。

**【言語活動】**

作品から考えたことを基に、読書感想文を書く。〈ア〉

**【単元目標】**

- ①作品を読み、疑問に感じたり考えたりしたことを基に、読書感想文を書こうとする。 〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②考えたことを分類するなどして整理するとともに、段落の役割を考えて文章を構成する。 〈「書くこと」イ〉
- ③指示語や接続詞及びこれらと同じような働きを持つ語句などを使う。 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(エ)〉

【授業の具体例】

時	評価規準	評価方法	学習活動
1 2 3	<p>②考えたことを分類するなどして整理するとともに、段落の役割を考えて文章を構成している。 〈「書く能力」イ〉</p> <p>③指示語や接続詞及びこれらと同じような働きを持つ語句などを使っている。 〈言語についての知識・理解・技能イ(エ)〉</p>	構成ワークシート	<p><b>自分の好きな本の読書感想文を書くことへの見通しを持つ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「少年の日の思い出」の読書感想文を書き、その書き方や手順を参考にしながら好きな本の読書感想文を書くことを理解する。</li> <li>・これまで読んだ本の中から、読書感想文を書くものを選ぶ。</li> </ul> <p><b>「少年の日の思い出」の読書感想文を書く</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを読み返し、自分のものの見方や経験からの感想を「感想カード」に書く。</li> <li>・関連性のある内容ごとにまとまりを作り、段落を構成する。</li> </ul> <p>※効果的な段落の順序を考え、構成ワークシート（「始め・中・終わり」）上で「考えカード」「感想カード」を並び替える。</p> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>構成の例</p> <p>「 始め 」自分の疑問と、その結論や解釈</p> <p>「 中 」結論に導くための理由や解釈</p> <p>「 終わり 」自分のものの見方や経験からの感想</p> <p>※必要に応じて、作品の表現を引用する</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不足している内容があれば書き加え、補足する。</li> <li>・構成ワークシートを基に交流し、構成の仕方について助言し合う。</li> <li>・600～800字程度の文章にまとめる。</li> </ul> <p>※段落相互の関係等を意識し、「語句リスト」を参考にして、効果的な指示語や接続詞等を選んで使う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・書いた文章を推敲し、清書する。</li> </ul>
4 5	<p>①作品を読み、疑問に感じたり考えたりしたことを基に、読書感想文を書こうとしている。 〈国語への関心・意欲・態度〉</p>	読書感想文付箋          振り返りカード	<p><b>「少年の日の思い出」の読書感想文の書き方や手順を基に、自分が選んだ本の読書感想文を書く</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・その本を選んだ理由を確認し、考えたことや感想を「考えカード」「感想カード」に書く。</li> <li>・構成ワークシート上でカードを整理し、選んだ本の読書感想文を書く。</li> <li>・書いた文章を推敲し、清書する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読書感想文を互いに読み合い、構成や接続詞等の使い方についての意見を付箋に書き、評価し合う。</li> </ul> <p><b>読書感想文の書き方について振り返る</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・段落構成の仕方、接続詞等の使い方を視点にして、成果と課題を明確にする。</li> </ul>

【Cと評価した生徒への手立ての例（上記の評価規準の順）】

- ②中心となる考えを決めさせ、考えを説明する理由を三つ程度に絞らせる。〈イ〉
- ③それぞれの接続詞の役割が書かれている一覧を示し、適したものを選択させる。〈イ(エ)〉
- ①教師が作成したモデル文書を見せ、参考にさせながら書かせる。〈国語への関心・意欲・態度〉

## C読むこと〔中学校第2学年〕

### 【目標】

目的や意図に応じ、文章の内容や表現の仕方に注意して読む能力、広い範囲から情報を集め効果的に活用する能力を身に付けさせるとともに、読書を生活に役立てようとする態度を育てる。

### 【指導事項】

- ア 抽象的な概念を表す語句や心情を表す語句などに注意して読むこと。
- イ 文章全体と部分との関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てること。
- ウ 文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめること。
- エ 文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつこと。
- オ 多様な方法で選んだ本や文章などから適切な情報を得て、自分の考えをまとめること。

### 【言語活動例】

- ア 詩歌や物語などを読み、内容や表現の仕方について感想を交流すること。
- イ 説明や評論などの文章を読み、内容や表現について自分の考えを述べること。
- ウ 新聞やインターネット、学校図書館等の施設などを活用して得た情報を比較すること。

### 【「読むこと」における生徒の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

- 場面の展開に即して登場人物の心情を読む。
- 「話すこと・聞くこと」の学習において討論を経験している。
- ◆表現の仕方や登場人物の言動を物語全体と関連付けて読む。

### 【身に付けさせたい力】

- ①目的や意図に応じ、文章の内容や表現の仕方に注意して読む能力を身に付けさせるとともに、読書を生活に役立てようとする態度を育てる。〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめること。〈「読むこと」ウ〉
- ③抽象的な概念を表す語句などについて理解し、語感を磨き語彙を豊かにすること。〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(イ)〉

### 【言語活動例】物語を読み、内容や表現の仕方について感想を交流すること。〈ア〉

### 【単元名】「走れメロス」で討論をしよう～表現の仕方や登場人物の言動に着目して自分の考えを持つ～

### 【教材名・教材の特長】「走れメロス」(光村図書・学校図書・教育出版・三省堂・東京書籍 2年)

- ・物語の展開が分かりやすい。また、王とメロスのように人物像が対比的にしかも極端に描かれているため、生徒はその言動に賛否を述べやすい。
- ・漢語や比喻表現など特徴的な表現が多く用いられており、登場人物の言動について自分の考えを持つときの手掛かりとすることができる。

### 【言語活動】

表現の仕方や登場人物の言動などについて関心を持ったことをテーマに討論をする。〈ア〉

### 【単元目標】

- ①物語について自分の考えを持ち、討論を通して考えを深めようとする。〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②物語の展開を踏まえた上で、登場人物の言動の意味や表現の仕方について、根拠となる部分を挙げて自分の考えを持つ。〈「読むこと」ウ〉
- ③漢語や比喻表現などの多様な語句に注意して読む。〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(イ)〉

【授業の具体例】

時	評価規準	評価方法	学習活動
1 2			<p>学習のめあて『『走れメロス』で討論をしよう』を知り、学習の見通しを持つ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「少年の日の思い出」「トロッコ」など、前学年も含めこれまでに学習した物語の読み方を振り返り、表現の仕方と登場人物の言動の両面に注意して読んでいくことを確かめる。</li> <li>・「走れメロス」の範読を聞き、物語の展開を踏まえた上で、表現の仕方や最も興味を抱いた登場人物の言動など印象に残ったところを挙げる。それらを基に、感想や疑問、話し合ってみたいことなどを書き、共有する。</li> <li>・場所やメロスの心情に着目して、全体を六つの場面（町・王城・故郷の村・山の中・山から町・刑場）に分け、主な出来事や時間の流れをワークシートにまとめる。</li> <li>・王城までの場面で、メロスと王の人物像の違いを捉える。</li> </ul>
3 4 5 6	<p>③漢語や比喻表現などの多様な語句に注意して読んでいる。 〈言語についての知識・理解・技能イ(4)〉</p> <p>②物語の展開を踏まえた上で、登場人物の言動の意味や表現の仕方について、根拠となる部分を挙げて自分の考えを持っている。 〈「読む能力」ウ〉</p> <p>①物語について自分の考えを持ち、討論を通して考えを深めようとしている。 〈国語への関心・意欲・態度〉</p>	<p>ワークシート (学習の流れが分かるようなもの)</p>	<p><b>話し合いのテーマを設定する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「信実」「希望」「信頼」「正義」「悪心」「孤独」などキーワードを取り上げ、そのように考えた理由と併せて共有する。</li> <li>・同じキーワードを選んだ人とグループを組む。「信実の物語」のように、キーワードを基に物語を言い表すテーマを仮に設定し、その根拠となる表現を探していくことを理解する。</li> </ul> <p><b>テーマについてグループで意見を交流し合う</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・根拠となる表現に線を引き、関係する段落を線で結ぶなどしながら、仮に設定したテーマは妥当かどうか立場をはっきりさせて自分の考えをまとめる。</li> <li>・根拠となる表現を示し、設定したテーマが妥当であるかメモを取りながらグループで話し合う。</li> </ul> <p>※必要に応じて話し合いの中途段階を学級全体で共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いを通して、グループとしてテーマを修正・再考する。</li> </ul> <p><b>学級全体で討論する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループの話し合いの過程を学級全体に報告する。</li> <li>・報告を聞き、自分のグループと共通する点や違う考えを持った点などについて討論する。</li> <li>・話し合いや討論を基にして、テーマを各自修正・再考するとともに考えをまとめる。</li> </ul> <p>(ワークシートを掲示したり印刷して冊子にまとめたりし、授業後にも交流できるようにする。)</p>

【Cと評価した生徒への手立ての例（上記の評価規準の順）】

- ③繰り返し出てくる言葉を挙げさせ、それらの中から一番印象に残ったものについて文脈上の意味や印象に残った理由を明らかにする。〈イ(4)〉
- ②描写や登場人物の言動を具体的に示し、どう感じたか考えを述べさせる。また、他の場面に同じように感じられる表現はないか一緒に探す。そして、それらが設定した仮のテーマにつながるかどうか考えさせる。  
〈ウ〉
- ①話し合いや討論を通して自分の考えが変わったことについて書かせる。〈国語への関心・意欲・態度〉

## C読むこと [中学校第3学年]

### 【目標】

目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを評価しながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して自己を向上させようとする態度を育てる。

### 【指導事項】

- ア 文脈の中における語句の効果的な使い方など、表現上の工夫に注意して読むこと。
- イ 文章の論理の展開の仕方、場面や登場人物の設定の仕方をとらえ、内容の理解に役立てること。
- ウ 文章を読み比べるなどして、構成や展開、表現の仕方について評価すること。
- エ 文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつこと。
- オ 目的に応じて本や文章などを読み、知識を広げたり、自分の考えを深めたりすること。

### 【言語活動例】

- ア 物語や小説などを読んで批評すること。
- イ 論説や報道などに盛り込まれた情報を比較して読むこと。
- ウ 自分の読書生活を振り返り、本の選び方や読み方について考えること。

### 【「読むこと」における生徒の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

- 文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめる。
- ◆文章に表れているものの見方や考え方について知識や体験と関連付けて自分の考えを持つ。

### 【身に付けさせたい力】

- ①目的や意図に応じて読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して自己を向上させようとする態度を育てる。 〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつこと。 〈「読むこと」エ〉
- ③四字熟語・漢語に関する知識を広げ、語感を磨き語彙を豊かにすること。 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(イ)〉

### 【言語活動例】論説などに盛り込まれた情報を比較して読むこと。〈イ〉

### 【単元名】論説の内容を比較しよう～自然について考え、自分の意見を持つ～

#### 【教材名・教材の特長】「武蔵野の風景」(学校図書 3年)

- ・自然に対する固定観念を破ることから人間と自然の関係の本質に迫ろうとする優れた文章である。
- ・随想と評論の中間に位置する文体で、四字熟語や漢語が多用される本格的な評論文への移行期の教材として好適である。

#### 【言語活動】

既習の説明文と内容を比較し、自分の自然に対する考えを深める。〈イ〉

### 【単元目標】

- ①目的や意図に応じて読む能力を身に付け、読書を通して自己を向上させようとする。 〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見を持つ。 〈「読むこと」エ〉
- ③四字熟語や漢語の意味に注意して読む。 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(イ)〉

【授業の具体例】

時	評価規準	評価方法	学習活動
1			<p>「武蔵野の風景」を通読し、既習の説明文と内容を比較することについての見通しを持つ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次に学習した「変わる動物園」を再読し、内容を想起する。</li> <li>・「武蔵野の風景」を音読し、「変わる動物園」との違いについて感想を述べ合う。</li> <li>・筆者の意見を理解しながら、自分の考えを深めることができるという可能性に気付く。</li> <li>・自分にとっての難意語を拾い出し、辞書で意味・用法を調べる。</li> <li>・全体を五つの意味段落に分ける。</li> </ul>
2	③四字熟語や漢語の意味に	ノート	<p>筆者の原風景である武蔵野の自然について理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「大変な驚き」の内容を読み取り、発表し合う。</li> <li>・「水稻ができないということに終わらない」に示されたもう一つの問題を読み取り、発表し合う。</li> </ul> <p>原生的な自然、二次的な自然、自然破壊の違いを読み取る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「新しい問題提起」の内容を読み取り、発表し合う。</li> <li>・「原生的な自然」と「二次的な自然(改良された自然)」の違いを読み取り、発表し合う。</li> <li>・「二次的な自然」と「自然破壊」の違いについて読み取り、発表し合う。</li> </ul> <p>河川改修の歴史と改修主体について考える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「それは単に改修主体が変わったことに終わらなかった」の内容を読み深め、明治以前と以後の河川改修について、共通点と相違点をまとめ、発表し合う。</li> <li>・「労働の系、労働の形に合わせた川」の意味を読み取り、発表し合う。</li> </ul> <p>武蔵野の二次的な自然環境について理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「自然の循環と農民の暮らしや労働の循環との調和」の内容を読み取り、発表し合う。</li> </ul> <p>二次的な自然の成立条件について理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「この二つの要素」の内容を読み取り、発表し合う。</li> </ul>
3	注意して読んでいます。		
4	〈言語についての知識・理解・技能イ(イ)〉		
5	②文章を読んで人間、社会、		
6	自然などについて考え、自分の意見を持っている。		
	〈「読む能力」エ〉		
7	①目的や意図に応じて読む能力を身に付け、読書を通して自己を向上させようとしている。	ワークシート ワークシート	<p>筆者の考えを踏まえて、自然に対する自分の考えをまとめる</p> <p>既習の説明文と内容を比較し、内容の共通点と違いについて考え、自分の自然観を深める</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4人程度のグループを作り、「新しい動物園」と「武蔵野の風景」における自然の捉え方の共通点と違いについて話し合う。</li> <li>・話し合いから気付いたことなどをワークシートに書き加える。</li> <li>・ワークシートを冊子にして回覧し、内容を全体で共有する。</li> </ul>

【Cと評価した生徒への手立ての例（上記の評価規準の順）】

- ③机間指導で、辞書の活用について個別にアドバイスする。〈イ(イ)〉
- ②キーセンテンスとそれを補強する材料について、傍線を引く、四角で囲む、結び付ける等の視覚的な板書、指示により、内容の理解に導く。〈エ〉
- ①二つの文章の共通点と違いをキーワードで示し、読み深めを促す。〈国語への関心・意欲・態度〉



## C読むこと〔高等学校 国語総合〕

### 【目標（国語総合）】

国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

### 【指導事項】

- ア 文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読むこと。
- イ 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や叙述をしたりすること。
- ウ 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと。
- エ 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりすること。
- オ 幅広く本や文章を読み、情報を得て用いたり、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしたりすること。

### 【言語活動例】

- ア 文章を読んで脚本にしたり、古典を現代の物語に書き換えたりすること。
- イ 文字、音声、画像などのメディアによって表現された情報を、課題に応じて読み取り、取捨選択してまとめること。
- ウ 現代の社会生活で必要とされている実用的な文章を読んで内容を理解し、自分の考えを持って話し合うこと。
- エ 様々な文章を読み比べ、内容や表現の仕方について、感想を述べたり批評したりする文章を書いたりすること。

### 【「読むこと」における生徒の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

○文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読む。

◆文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう。

### 【身に付けさせたい力】

①国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

〈国語への関心・意欲・態度〉

②文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと。 〈「読むこと」ウ〉

③国語における表現の特色及び言語の役割などを理解すること。

〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ア)〉

【言語活動例】内容や表現の仕方について、感想を述べたり批評したりする文章を書いたりすること。〈エ〉

### 【単元名】物語の結末を批評しよう～表現に即して読み味わう～

#### 【教材名・教材の特長】「羅生門」芥川龍之介

- ・小説「羅生門」は、国語総合教科書のほとんどに採録されている。
- ・起承転結の構成が明確で、極限状況下で揺れ動く主人公の心理が巧みに描写されている。

#### 【言語活動】

「下人の行方は、だれも知らない」とされた結末部分について、表現上の効果を批評し、「下人」の行く末について、自分なりの考えを文章で表現する。〈エ〉

### 【単元目標】

①文学的な文章を的確に読み深め、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深めようとする。 〈国語への関心・意欲・態度〉

②「羅生門」に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう。 〈「読むこと」ウ〉

③「羅生門」における表現の特色や効果を理解する。〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ア)〉

【授業の具体例】

時	評価規準	評価方法	学習活動
1			<p>作品全体のイメージを把握し、初発の感想を述べ合い、読み深めの方向を見通す</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語便覧等を参照しながら、教師の説明を聞き、芥川龍之介と小説「羅生門」について、文学史的背景を知る。</li> <li>・CD等により優れた朗読を鑑賞した後、グループによる音読、ペアによる音読を繰り返し、作品全体のイメージを把握する。</li> <li>・グループを作り、結末に留意して初発の感想、疑問点等を話し合う。</li> </ul>
2 3 4 5 6	<p>②「羅生門」に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わっている。〈「読む能力」ウ〉</p> <p>③「羅生門」における表現の特色や効果を理解している。 〈言語についての知識・理解イ(ア)〉</p>	ノート	<p>フィクションを読む前提としての作品設定を読み取る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品を、内容により4段落に分ける。</li> <li>・作品の背景(時代背景、社会情勢、都と人心の状況)を叙述に即して読み取り、発表し合い、ノートに記録する。</li> <li>・場面の状況(場所、時刻、羅生門の実態、下人の境遇)を叙述に即して読み取り、発表し合い、ノートに記録する。</li> </ul> <p>下人・老婆の心情の変化、論理の展開を読み取る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・老婆の行為を目撃した下人の心理の動き(恐怖と好奇心→激しい憎悪→悪に対する反感・悪を憎む心)を、叙述に即して読み取り、発表し合い、ノートに記録する。</li> <li>・老婆と対峙し、圧倒した下人の心理の動き(憎悪→得意と満足)を叙述に即して読み取り、発表し合い、ノートに記録する。</li> <li>・老婆の論理の展開(極限状況における悪の正当化・価値の相対化)について、叙述に即して読み取り、発表し合い、ノートに記録する。</li> <li>・老婆の論理に対する下人の評価について、「ある勇氣」の内容を推量しながら、叙述に即して読み取り、発表し合い、ノートに記録する。</li> <li>・引剥<small>ひはぎ</small>を実行するに至る下人の決断について、叙述に即して読み取り、発表し合い、ノートに記録する。</li> </ul>
7	<p>①文学的な文章を的確に読み深め、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深めようとしている。 〈国語への関心・意欲・態度〉</p>	ワークシート	<p>結末の表現について批評する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初出時は、結末が「下人は、既に、雨を冒して、京都の町へ強盗を働きに急ぎつゝあつた」であったことを教師から聞き、書き換えの効果について、下人の行く末を想像しながらワークシートにまとめる。</li> <li>・各自が作成したワークシートは、冊子にして回覧する旨、説明する。</li> </ul>

【Cと評価した生徒への手立ての例(上記の評価規準の順)】

- ②ノートの内容と本文を照らしながら振り返り、人物、心情、情景等を再確認させる。〈ウ〉
- ③ノートの内容と本文を照らしながら振り返り、表現の特色や効果を再確認させる。〈イ(ア)〉
- ①書き出せない生徒には、箇条書きのメモ作成から始めるよう指示する。〈国語への関心・意欲・態度〉

## (5) 伝統的な言語文化に関する事項

中央教育審議会答申（平成20年1月17日）での国語科における「改善の基本方針」の中で、「我が国の言語文化を享受し継承・発展させる態度を育てること」が示されている。

小学校では「言語文化としての古典に親しむ態度を育成する指導については、易しい古文や漢詩・漢文について音読や暗唱を重視する」こと、中学校では「言語の歴史や、作品の時代的・文化的背景とも関連付けながら、古典に一層親しむ態度を育成することを重視する」ことに留意する必要があるなど、具体的な改善事項が挙げられている。

### ア 語句解説及び留意点（学習指導要領解説国語編より）

#### 小学校低学年

(7) 昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり、発表し合ったりすること。

**昔話** 「むかしむかし、あるところに」などの言葉で語り始められる空想的な物語であり、特定または不特定の人物について描かれている。

**神話・伝承** 一般的には特定の人や場所、自然、出来事などと結び付けられ、伝説的に語られている物語。古事記、日本書紀、風土記などに描かれたものや、地域に伝わる伝説などが教材として考えられる。

※児童の発達の段階や初めて古典を学習することを考慮し、易しく書き換えたものを取り上げることが必要である。

#### 小学校中学年

(7) 易しい文語調の短歌や俳句について、情景を思い浮かべたり、リズムを感じ取りながら音読や暗唱をしたりすること。

**易しい** 意味内容が容易に理解できるということ。

**文語調** 日常の話言葉とは異なった特色をもつ言語体系で書かれた文章の調子のこと。

**文語調の短歌や俳句** 歴史的仮名遣いや古典の語句などが用いられている。

※教材としては、親しみやすい作者の句を選んだり、代表的な歌集などから内容の理解しやすい歌を選んだりすることになる。各地域に縁のある歌人や俳人、地域の景色を詠んだ歌や句を教材にすることも考えられる。

(4) 長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと。

**ことわざ** 生活経験などにおいてありがちなことを述べたり、教訓を述べたりするもの。「住めば都」、「犬も歩けば棒に当たる」、「急がば回れ」、「石の上にも三年」等。

**慣用句** 「道草を食う」、「油を売る」などのように、二つ以上の語が結び付いて元の意味とは違った特定の意味を表すもの。

**故事成語** 「推敲」、「矛盾」、「五十歩百歩」などのように中国の故事に由来する熟語。

※言語生活を豊かにするために、これらの言葉の意味を知り、実際の言語生活で用いるようにさせることが大切である。

#### 小学校高学年

(7) 親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章について、内容の大体を知り、音読すること。

**親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章** 児童が、言葉のリズムを実感しながら読めるもの、音読することによって内容を知ることができるような親しみやすい範囲のもの。

※教材に合わせて暗唱や群読を取り入れるなど読み方を工夫することが必要である。

※古文や漢文は、読んで楽しいものであること、自分を豊かにするものであることを実感させる。

(4) 古典について解説した文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。

※昔の人々の生活や文化など、古典の背景をできる限り易しく理解させ、昔の人のものの見方や感じ方に関心をもたせたり、現代人のものの見方や感じ方と比べたりして、古典への興味・関心を深めるよ

うにすることが重要である。

※言語文化への興味・関心を深めるために、能、狂言、人形浄瑠璃、歌舞伎、落語などを鑑賞することも考えられる。

### 中学校第1学年

(7) 文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読して、古典特有のリズムを味わいながら、古典の世界に触れること。

文語のきまり 歴史的仮名遣いなど現代の口語と異なる古文特有のきまり。

訓読の仕方 返り点、送り仮名など漢文の訓読に必要な基礎的な事項。

※生徒の興味・関心を大切にしながら、教材に即して指導したり、必要があれば取り立てて指導したりする。

※古典の文章を繰り返し音読して、その独特のリズムに気付かせることが重要である。

(4) 古典には様々な種類の作品があることを知ること。

様々な種類 和歌、俳諧、物語、随筆、漢文、漢詩など。また、能、狂言、歌舞伎、古典落語などの古典芸能。

※小学校から親しんできた様々な古典と結び付けることで、古典の世界についての新たな興味・関心を喚起することが大切である。

### 中学校第2学年

(7) 作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界を楽しむこと。

※朗読するに当たっては、現代語訳や語注などを手掛かりにして作品の内容を理解するとともに、そこに描かれている情景や登場人物の心情などを想像しながら読むように留意する。

(4) 古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像すること。

※長い年月を隔ててもなお現代と共通するものもあれば、現代とは大きく異なるものもある。

※例えば、古典の易しい現代語訳や古典について解説した文章を用いたり、関連する本や文章等を紹介したり、音声や映像メディアを活用したりするなど指導上の様々な工夫が考えられる。

### 中学校第3学年

(7) 歴史的背景などに注意して古典を読み、その世界に親しむこと。

※作品の理解に役立つ事柄を精選して取り上げる。

※作品の歴史的背景などを扱うのは、教材として取り上げた古典への興味・関心を高めたり、内容の理解を助けたりするためであることに留意する。

(4) 古典の一節を引用するなどして、古典に関する簡単な文章を書くこと。

古典の一節を引用するなどした古典に関する簡単な文章 例えば、古典の一節を引用した感想文や手紙、作品を紹介する文章など。

※書く活動を通して、生徒が自分の考えを述べる文脈の中に古典の世界を取り入れるようにすることが重要である。

## イ 「指導計画の作成と内容の取扱い」について（学習指導要領解説国語編より）

### 小学校

伝統的な言語文化に関する指導については、特にそれだけを取り上げて学習させるよう配慮すること。

### 中学校

古典に関する教材については、古典の原文に加え、古典の現代語訳、古典について解説した文章を取り上げること。

## ウ 指導計画例

### 小学校

「伝統的な言語文化に関する事項」は、「各領域の指導を通して行う」ことを基本とするが、「伝統的

な言語文化に低学年から触れ、生涯にわたって親しむ態度の育成を重視している」（学習指導要領解説国語編 p.24）ことを踏まえ、効果的に関心・意欲・態度を育てることに焦点を当て、ここでは「伝統的な言語文化に関する事項」を取り立てて指導する例を示した。

**中学校**

これまで古典の指導は、「指導計画の作成と内容の取扱い」の中で「C読むこと」に関する指導として示されていた。今回の学習指導要領では、「伝統的な言語文化に関する指導事項」で示されたことにより、「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」でも古典を扱うことが可能になった。そこで、中学校「B書くこと」の指導計画例（p.60～61）において、古典教材を扱った例を示した。

**伝統的な言語文化に関する事項〔小学校中学年〕**

【〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕における児童の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力  
○詩を読むことを楽しんだり、季節の行事に関わる言葉集めを楽しんだりしている。

◆語彙を広げる。

**【身に付けさせたい力】**

- ①易しい文語調に親しみ、声に出して読もうとする。 〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②長い間使われてきたことわざの意味を知ること。 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項ア(イ)〉

**【単元名】**「オリジナルいろはかるた」を作ろう～ことわざを知る～

**【教材名】**〈開発教材〉

**【単元目標】**

- ①リズムを感じ取りながら、いろはかるたを声に出して読もうとする。 〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②ことわざなどを基に、オリジナルのいろはかるたを作る。 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項ア(イ)〉

**【授業の具体例】**

時	評価規準	評価方法	学習活動
1 2			ことわざについて知る ・「猿も木から落ちる」「急がば回れ」などの例から、昔から伝わる知恵や教えを短い言葉で表したものをことわざということを知る。
	②ことわざなどを基に、オリジナルのいろはかるたを作っている。 〈言語についての知識・理解・技能ア(イ)〉	作成したかるた	<b>いろはかるたに親しむ</b> ・いろはかるたがことわざを集めて作られたかると知る。 ・私たちの学級だけのいろはかるたを作成することを知る。 ・一人ずつ数枚分担を決め、読み札と取り札を作る。 ・ことわざの本などから、分担した文字で始まることわざを抜き書きする。 ・取り札にはことわざの内容を表す絵を描く。
3	①リズムを感じ取りながら、いろはかるたを声に出して読もうとしている。 〈国語への関心・意欲・態度〉	音読の様子	<b>いろはかるたを使って遊び、ことわざに親しむ</b> ・前時に作成したいろはかるたを既存のいろはかるたと適宜混ぜ、かるた取りをする。 ・全員が読み手を経験し、いろはかるたのリズムに慣れる。 ・いろはかるたを並べ、「いろはにほへと」を読む。暗唱できそうなら挑戦してみる。

**【Cと評価した児童への手立ての例（上記の評価規準の順）】**

- ②ことわざの本や国語辞典などから気に入った言葉を選ばせ、教師と共に1枚作る。〈ア(イ)〉
- ①音読することが苦手な児童には、範読後に復唱させたり手拍子に合わせて読ませたりすることで、音読への抵抗を減らす。〈国語への関心・意欲・態度〉

**伝統的な言語文化に関する事項〔小学校高学年〕**

【〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕における児童の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力  
○歴史的仮名遣いに気を付けて簡単な文語調の文章などを読もうとする。

◆言葉の響きやリズムをつかんで音読する。

**【身に付けさせたい力】**

①文語の調子を楽しみ、言葉の響きやリズムをつかんで声に出して読もうとする。

〈国語への関心・意欲・態度〉

②親しみやすい古文について、内容の大体を知り、音読すること。

〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項ア(ア)〉

**【単元名】竹取物語を音読しよう～親しみやすい古文を音読する～**

**【教材名】「竹取物語」〈開発教材〉(資料p.128～129)**

**【単元目標】**

①「竹取物語」を声に出して読み、古文の響きやリズムを味わおうとする。 〈国語への関心・意欲・態度〉

②作品を読んだ感想を交流する。

〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項ア(ア)〉

**【授業の具体例】**

時	評価規準	評価方法	学習活動
1			<b>「竹取物語」について知る</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の解説を聞き、「竹取物語」の概要を理解する。</li> <li>・静岡県の中の場所について書かれた文章かを静岡県の地図を使って確認する。</li> <li>・「竹取物語」を声に出して読む。</li> <li>・個人読み、グループ読み等、読み方を工夫する。</li> </ul>
2	②作品を読んだ感想を交流している。 〈言語についての知識・理解・技能ア(ア)〉	ノート	<b>「竹取物語」の本文をノートに視写する</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「竹取物語」の冒頭または終末のどちらかを選択する。</li> <li>・分からない言葉については、教師に質問したり挑戦できそうなら古語辞典を使って調べたりする。</li> <li>・イメージした情景を簡単な絵で表現する。</li> <li>・絵を見せながら、文章の内容や言葉のリズム、響きなどについて感想を交流する。</li> </ul>
3	①「竹取物語」を声に出して読み、古文の響きやリズムを味わおうとしている。 〈国語への関心・意欲・態度〉	音読の様子	<b>「竹取物語」を音読する</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・繰り返し音読し、古典のリズムに慣れる。</li> </ul>

**【Cと評価した児童への手立ての例(上記の評価規準の順)】**

②イメージできない児童には、口語訳を示しながら登場人物がどこでどのようなことをしているかを尋ね、イメージさせる。〈ア(ア)〉

①教師と一緒に読ませたり、一文ずつ交代で読ませたりして、読み慣れさせる。〈国語への関心・意欲・態度〉

## (6) 言葉の特徴やきまりに関する事項

従来〔言語事項〕で示されていた内容の大部分は〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の「イ言葉の特徴やきまりに関する事項」に引き継がれている。

今回の改訂では、「イ言葉の特徴やきまりに関する事項」の中に、言葉が果たす多様な働きや特徴を理解させるために「言葉の働きや特徴に関する事項」（小学校）、「言葉の働きや特徴、言葉遣いに関する事項」（中学校）が新設された。

### ア 語句解説及び留意点（学習指導要領解説国語編より）

#### ○「言葉の働きや特徴に関する事項」（小学校）

##### 小学校低学年

(7) 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。

※事物の内容や自分が経験したことを表現したり伝達したりする働きが、日常的に使用している言葉にあることに自ら気付くような指導を行うことが大切である。

(4) 音節と文字との関係や、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くこと。

アクセントによる語の意味の違い 「橋」と「箸」、<sup>はし</sup>「雨」と「飴」<sup>あめ</sup>など、同音の語でもアクセントによって意味が異なる場合があること。

※平仮名や片仮名は、拗音の表記などを除けば、一文字が一音節（拍）に対応する文字である。漢字はそのような表音文字ではなく、個々の文字が音と意味とを備えている。この段階では、平仮名、片仮名、漢字のそれぞれの文字体系の特徴に気付かせるように指導することが重要である。

(7) 言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。

意味による語句のまとまり ある語句を中心として、同義語や類義語、対義語など、その語句と様々な意味関係にある語句が集まって構成している集合のこと。例えば、果物の名前を表す語句、気持ちを表す語句などは、相互に関係のある語句として一つのまとまりを構成している。

※使用する語句の量や範囲を広げながら、語句相互の意味関係を理解するようにして、同義語、上位・下位語、同音異義語、多義語などの学習に発展させる指導が求められる。

##### 小学校中学年

(7) 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。

※人間は、意味を持った言葉を組み合わせることによって、考えを深めたり高めたりすることができる。また、思ったことや考えたことを、物語や詩歌、説明や報告などの文章にまとめ、他の人に伝えることができるのも、言葉の働きによるものである。感想や意見を伝えたり共有したりするためには、適切な言葉によって表すことが大切であることにも気付かせる。

(4) 漢字と仮名を用いた表記などに関心をもつこと。

※漢字と仮名とでは、音節との関係や書き表す語の種類など、文字としての性質や役割が異なっている。そのような性質や役割の異なる漢字や仮名を交ぜて書く「漢字仮名交じり文」という日本語の表記の仕方に関心をもつように指導し、交ぜて書くことの利点に気付いたり、句読点を含め読みやすい表記を考えながら書いたりする言語感覚の基礎を養う。

##### 小学校高学年

(7) 話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。

※音声は、発せられた途端に消えていくので、話し言葉は<sup>さかのぼ</sup>遡って内容を確認することができない。このことによって、複雑な構文や誤解されやすい同音異義語を避けるなど、様々な表現上の特質が生まれる。聞き手や場面の状況の影響を強く受けながら表現及び理解が進められるという特質もある。

※書き言葉は、読み手が文や文章を繰り返し確認することができる。使用される語彙や、文や文章の構造なども話し言葉と違いがある。また、「器官」と「機関」、「機械」と「機会」など、意味の違いを漢字の使い分けで表すことができる。こうした両者の違いについて気付かせることは、それぞれの特質

に配慮した使い分けを身に付けるための基礎を養うことになる。

(4) 時代の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くこと。

世代による言葉の違い 年配者と、年少者や若者には、それぞれの世代に特有の言葉遣いがあることを指す。

※時間の経過による言葉の変化の指導においては、古典に見られる過去の言葉は、現代の言葉と連続したものであること、したがって現代の言葉に置き換えなくてもそのまま理解できる部分が少なからずあることにも自然に気付かせるように配慮することが大切である。

○「言葉の働きや特徴、言葉遣いに関する事項」（中学校）

中学校第1学年

(7) 音声の働きや仕組みについて関心を持ち、理解を深めること。

※アクセント、イントネーション、プロミネンス（文中のある語を強調して発音すること）などの音声的特質が実際の多様な声を作り出し、話すことや聞くことの活動に影響していることを理解させ、生徒自身が日常の活動を振り返る契機にすることが重要である。

中学校第2学年

(7) 話し言葉と書き言葉との違い、共通語と方言の果たす役割、敬語の働きなどについて理解すること。

※共通語は地域を越えて通じる言葉であり、方言はある地域に限って使用される言葉である。共通語を適切に使うことは、人々が相互の理解を進めるために不可欠な能力である。一方、方言は、生まれ育った地域の風土や文化とともに歴史的・社会的な伝統に裏付けられた言語である。その表現の豊かさと魅力など、方言が担っている役割を十分理解させ、方言を尊重する気持ちをもたせるようにしながら、共通語と方言とを時と場合などに応じて使い分けられるように指導することが大切である。

※敬語については、個別的・体験的な知識を整理して体系付けるとともに、人間関係の形成や維持における敬語のもつ働きを十分に理解させる。指導に当たっては、基本となる尊敬語、謙譲語、丁寧語について理解させる。

中学校第3学年

(7) 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いを理解するとともに、敬語を社会生活の中で適切に使うこと。

※言葉は、時間の経過により語形や語意などが変化していくという側面をもっている。ここでは、言葉のもつこのような性質に気付かせることで、自分たちが使っている言葉に対する興味・関心を喚起するとともに、理解や認識を深めるようにすることが大切である。

※言葉はそれを使用する世代によっても、語形や語意が異なったり使用する語彙などに差異があったりする場合がある。（例えば、若者又は年配者など、特定の年代に限って使われる言葉の存在、一人の人間でも、年代が変わることによる使用する言葉の変化、最初は限られた範囲で使用されていた言葉が、広く一般に用いられるようになる等）このような点に着目して指導することを通して、言葉が生活と密接に関連していることを実感させるとともに、実生活に生きる言葉の力を身に付けることの大切さに気付かせる。

○表記に関する事項（小学校）

小学校低学年

(イ) 長音、拗音、促音、撥音などの表記ができ、助詞の「は」、「へ」、及び「を」を文の中で正しく使うこと。

長音 「おかあさん」のように「のばす音」のこと。

拗音 「きゃ」、「きゅ」のように「ねじれる音」のこと。

促音 「らっぱ」のように「つまる音」のこと。



**撥音** 「ん」の字に当たる「はねる音」のこと。

※発音に関する指導と関連させるとともに、各領域における学習の積み重ねの中で、次第にその規則性に気付き、身に付けていくことができるようにする。

※助詞の「は」、「へ」及び「を」については、視写や聴写の指導などを繰り返し行うことによって、文の中で使えるようにすることが必要である。

(オ) 句読点の打ち方や、かぎ（「 」）の使い方を理解して文章の中で使うこと。

※句点については、入門期から、文を書く際には、文末に必ず句点を打つように指導し、文意識を育てていくようにする。読点については、文頭の接続詞などの後、主語の後、従属節の後、並列する語の後など必要な箇所につくことを理解させる。

※かぎ（「 」）については、会話文におけるかぎ（「 」）の使い方を中心にし、その他の箇所でもかぎ（「 」）が使われていることに目を向けさせていく。

### 小学校中学年

(ウ) 送り仮名に注意して書き、また、活用についての意識をもつこと。

※例えば、「泳いだ」の「泳」という漢字を学習する際には、「泳がない」、「泳ぎます」、「泳ぐ」のように活用させながら、送り仮名についても学習できるようにする。また、一つ一つの具体的な語の送り仮名の指導をするだけでなく、その学習を通して、活用語尾を送るという送り仮名の原則的な付け方についても理解を促して、活用についての意識をもつようにする。

(エ) 句読点を適切に打ち、また、段落の始め、会話の部分などの必要な箇所は行を改めて書くこと。

※読点は、低学年で取り上げたことに加え、文を読みやすくまた分かりやすくするために、文脈に合わせて適切に打つことができるように指導する。

※「段落の始め」で改行することは、「B書くこと」(1)の「イ 文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成すること。」と併せて指導するようにする。

※会話の部分などを改行して書くことが習慣となるように指導することも大切である。

### 小学校高学年

(ウ) 送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。

※送り仮名については、(エ)の「語句の構成」などの学習と関連付けて指導すると効果的である。

※仮名遣いについては、例えば、「鼻血（はなぢ）」と「地面（じめん）」、「みずうみ（湖）」と「みかづき（三日月）」などの区別を付けて、正しく表記できるようにする。

## ○語句に関する事項（小学校）

### 小学校中学年

(オ) 表現したり理解したりするために必要な語句を増し、また、語句には性質や役割の上で類別があることを理解すること。

**表現したり理解したりするために必要な語句を増す** 語句の量を増やし使える範囲を広げていくこと。

**語句には性質や役割の上で類別があることを理解する** 語句の文法的な働きを、文法そのものとしてではなく、語句の使い方として類別できることを理解するということ。

**性質の上での類別** 物の名前を表す語句や、動きを表す語句、様子を表す語句のように類別すること。

**役割の上での類別** 文の主語になる語句、述語になる語句、修飾する語句のように類別すること。

※学年別漢字配当表に示された漢字は、それぞれの学年の児童の発達の段階と関連をもたせて配当しているので、当該学年に配当されている漢字と関連付けながら語句の指導をすることが大切である。

(カ) 表現したり理解したりするために必要な文字や語句について、辞書を利用して調べる方法を理解し、調べる習慣を付けること。

※国語辞典や漢字辞典などの使い方を理解するとともに、必要なときにはいつでも辞書が手元にあり使えるような言語環境をつくっておくことが重要である。

## 小学校高学年

### (イ) 語句の構成、変化などについての理解を深め、また、語句の由来などに関心をもつこと。

※語句の構成については、お米の「お」のような接頭語、お父さんの「さん」のような接尾語のほか、複合語、略語、慣用語なども含んでいる。語句の変化については、例えば、「花+畑」で「ハナバタケ」というような音の変化、「帰る+道」で「帰り道」というような語形の変化、また「物」と「物物しい」のような意味の変化などがある。このような語句の構成や変化を、意味とのかかわりを大切にしながら理解することにより、語句の使用が一層豊かになるよう指導することが大切である。

※語句の由来に関しては、ウの「(イ)仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。」に関する事項とも関連させて、語源を調べたり、和語、漢語、外来語などの区別について関心をもったりできるようにすることが効果的である。

### (オ) 文章の中での語句と語句との関係を理解すること。

※実際の文章は、類義語や対義語、上位語・下位語、派生語など、語句と語句との関係に基づきながら記述されており、そのような語句相互の関係を理解することによって内容の把握を的確にすることを理解させる。また、説明的な文章、文学的な文章には、それぞれの文章を特徴付ける結び付きの強い語句同士が相互に関連し合っていることも理解させるようにする。

### (カ) 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。

※語感には、言葉の正しさや美しさだけでなく、文や文章を含めて、実際にその言葉が使われる際に、適切であるかどうかを感じ取る感覚も含んでいる。多くの文章を繰り返して読んだり、優れた表現を抜き出したりする活動を取り入れるとともに、日常生活の中での話すこと・聞くこと、書くことの中で、語感や言葉の使い方を意識するようにさせることが大切である。

## ○語句・語彙に関する事項（中学校）

### 中学校第1学年

#### (イ) 語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意し、語感を磨くこと。

※辞書的な意味を踏まえ、思考力や想像力を働かせて文脈において具体的かつ個別的にとらえる。また、語句が文章の中で果たしている役割を考えることも大切である。

※多くの本などを読んで新しく出合った言葉を取り立て、辞書にある様々な意味から文脈上の意味を考えることを習慣化させることが大切である。例えば、語句の意味について調べたことを記録させたり、その語句を使った短文を作らせたりすることなどが有効である。

#### (ウ) 事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、話や文章の中の語彙について関心をもつこと。

※日常使用している語句は、多様なレベルで語彙を形成する。使用範囲の側面から考えると、まず事象や行為など、具体的で比較的身近な事柄を表す語句が多く存在していることに気付く。さらに、それらが、実際の言語活動において、話や文章の中でどのように関連付けて使用されているか、自分が理解したり表現したりするときどのように活用すればよいかについて考えさせていくことが重要である。

### 中学校第2学年

#### (イ) 抽象的な概念を表す語句、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、語感を磨き語彙を豊かにすること。

**抽象的な概念を表す語句** 「事象や行為などを表す多様な語句」よりも、一般的で抽象性の高い語句。

**類義語** 別の語でありながら、その表す意味が似ていたり、ほとんど同一であったりする語。

**対義語** 意味の上で互いに反対の関係にある語。

**同音異義語** 音が同一であって意味の異なる語。

**多義的な意味を表す語句** 一つの語句が多くの意味をもつもの。

※このような語句について理解させ、話や文章の中で適切に使用させることが、語彙を豊かにし語感を

磨かせることになる。

### 中学校第3学年

(イ) 慣用句・四字熟語などに関する知識を広げ、和語・漢語・外来語などの使い分けに注意し、語感を磨き語彙を豊かにすること。

和語 古くから日本で使われてきた語。

漢語 漢字の音を使った語。

外来語 中国語以外の外国語から日本語に入ってきた語。

※語彙が豊かになるにつれて、語句と語句との意味の違いが微妙なところまでつかめるようになる。こうして語感が磨かれると、一つ一つの語句について、他の語句に置き換えたり置き換えられなかったりすることに気付くようになる。そのことを、書くときや話すときに役立てられるようにしていくことが大切である。

### ○文及び文章の構成に関する事項（小学校）

#### 小学校低学年

(カ) 文の中における主語と述語との関係に注意すること。

主語と述語との関係 主語と述語との照応関係。

※文の意味を明確に伝えるためには、主語と述語とが照応することが大切であるということについて、文章を読んだり表現したりするとき強く意識できるように指導をすることが必要である。

#### 小学校中学年

(キ) 修飾と被修飾との関係など、文の構成について初歩的な理解をもつこと。

※主語と述語に加え、修飾と被修飾との関係をはっきりさせるとともに、「だれが」、「いつ」、「どこで」、「なにを」、「どのように」、「なぜ」などという文の構成について、初歩的な理解ができるようにする。

(ク) 指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うこと。

※指示語や接続語は、文や文章の構成にかかわる語で、文章の論理的な関係を構築する上で大切な役割を果たしている。読みの指導の中では、文相互の関係とともに段落相互の関係を端的に示す手掛かりとなるものとして指導する。また、文章を書く様々な機会をとらえて、文脈に沿って指示語や接続語の役割を理解し、使うことの指導を工夫するようにすることが大切である。

#### 小学校高学年

(キ) 文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること。

※構造からみて、単文・重文・複文に分けたり、性質や機能からみて、平叙文、呼びかけや疑問、応答を表す文、命令や承諾を表す文、推定や伝聞を表す文、感動や感嘆を表す文に分けたりすることなどが考えられる。

※文章の構成が目的に応じて決定されており、それらに合わせた構成を理解するようにする。

### ○単語、文及び文章に関する事項（中学校）

#### 中学校第1学年

(イ) 単語の類別について理解し、指示語や接続詞及びこれらと同じような働きをもつ語句などに注意すること。

単語の類別について理解する 単語がその性質から自立語と付属語とに大別されること、更に幾つかの品詞に分類されることなどについて理解すること。

指示語 物事を指し示す働きをもつ語で、いわゆる「こ・そ・あ・ど言葉」と言われるもの。代名詞、連体詞、副詞、形容動詞などの品詞にわたる。

**接続詞** 前後の文節や文などをつなぐ働きをもつ語で、いわゆる「つなぎ言葉」と言われるもの。

**指示語と同じような働きをもつ語句** 代名詞や連体詞などを伴って全体として指示語の機能をもつ語句のこと。また、「以上(は)」、「右(の)」などの名詞。

**接続語と同じような働きをもつ語句** 一部の副詞や名詞、連語など。

※指導に当たっては、実際の話や文章の中でとらえさせることが重要である。

## 中学校第2学年

### (f) 文の中の文の成分の順序や照応、文の構成などについて考えること。

**文の成分の順序** 文を組み立てている主語、述語、修飾語、接続語、独立語などの並ぶ順序、語順のこと。

**照応** 主語と述語の照応や修飾語と被修飾語の照応などのこと。

**文の構成などについて考えること** 語順や語の照応によって表現がどのように変わってくるかを、様々な文型について考えさせること。

### (g) 単語の活用について理解し、助詞や助動詞などの働きに注意すること。

※単語の類別と関連付けながら、自立語で活用があり単独で述語になる単語、自立語で活用がなく主語になる単語、自立語で活用がなく主語になれない単語、付属語で活用がある単語、付属語で活用がない単語などについて理解させる。

※助詞や助動詞を使うことによって、言語生活の上で互いの伝え合いたい微妙なニュアンスを、相手によりよく伝えることができることに気付かせる。また、日常の言語活動を具体的に取り上げ、助詞や助動詞が文脈の中でどのような働きをしているかに注意させ、話すこと・聞くこと、書くこと及び読むことに役立たせるようにすることも大切である。

### (h) 相手や目的に応じて、話や文章の形態や展開に違いがあることを理解すること。

**相手や目的に応じて、話や文章の形態や展開に違いがある** 話や文章は、誰に向けて、どのような目的で話すのか、書くのかということに応じて、それにふさわしい形態や展開があるということ。

※話や文章の形態としては、例えば、事実や事柄を伝える説明や記録、手紙などの通信、感想や意見などが挙げられる。

## ○言葉遣いに関する事項（小学校）

### 小学校低学年

#### (4) 敬体で書かれた文章に慣れること。

**敬体** 文末が「です」、「ます」又は「でした」、「ました」などのようになる文体。

**常体** 文末が「である」、「であった」などのようになる文体。

※入学して初めて出会う教科書の敬体の文章に読み慣れるようにすることが必要である。最初は、文末の表現に注意させて読み慣れるようにし、漸次自分でも使い慣れるようにしていく。次第に常体の文章も出てくるので、敬体と常体との違いについての初歩的な理解ができるように指導することも必要である。

### 小学校高学年

#### (f) 日常よく使われる敬語の使い方に慣れること。

※相手と自分との関係を意識させながら、尊敬語や謙譲語をはじめ、丁寧な言い方などについて理解することが大切である。

※敬語の役割や必要性を自覚してくる時期であるので、相手や場面に応じて適切に敬語を使うことに慣れるよう、児童の日常の言語生活につながる指導方法を工夫することが大切である。

## ○表現の工夫に関する事項（小学校）

### 小学校高学年

(ク) 比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。

※具体的な表現の工夫には、比喩や反復をはじめとして様々なものが考えられる。擬声語・擬態語、語句の反復、誇張などは低学年の児童が読んだり書いたりする文章中にも頻繁に見られる。学年が進行するにつれて直喩、隠喩などの比喩やユーモア、また、省略、倒置、対句など構成上の工夫も多くなる。そこで、多様な文章に表れる様々な表現の工夫に気付いたり、自分の表現に活用したりするように指導することが大切である。

## ○表現の技法に関する事項（中学校）

### 中学校第1学年

(カ) 比喩や反復などの表現の技法について理解すること。

※比喩や反復に加えて、省略、倒置、対句などが挙げられる。「比喩」や「反復」などの名称と結び付けて表現の技法の意味や用法を改めてまとめて指導する。

## イ 指導計画例

「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」に「特定の事項をまとめて指導したり、繰り返して指導したりすることが必要な場合については、特にそれだけを取り上げて学習させるよう配慮すること。」とある。

ここでは、新設された「言葉の働きや特徴に関する事項」を扱う例として小学校低学年の例を示した。また、「言葉の働きや特徴、言葉遣いに関する事項」を扱う例として中学校第2学年の例を示した。

### 言葉の働きや特徴に関する事項 【小学校低学年】

【〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕に関する児童の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

○日頃から詩や物語に親しんでおり、知らない言葉に出会うと意味を知ろうとしている。

◆言葉には意味によるまとまりがあることに気付く。

#### 【身に付けさせたい力】

①言葉の意味を考えて、同じ仲間の言葉を集める。

〈国語への関心・意欲・態度〉

②言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。

〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ウ)〉

【単元名】「○○のことば図かん」を作ろう～仲間の言葉を集める～

【教材名】〈開発教材〉

#### 【単元目標】

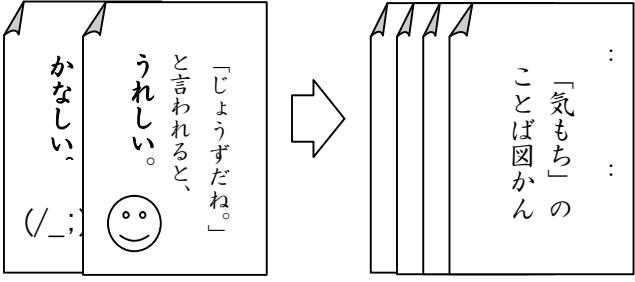
①言葉集めや言葉の分類に興味を持ち、「なかまのことば図かん」を作ろうとする。

〈国語への関心・意欲・態度〉

②言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付く。

〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ウ)〉

【授業の具体例】

時	評価規準	評価方法	学習活動
1 2	②言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付いている。 (言語についての知識・理解・技能イ(ウ))	ワークシート	<p>言葉を仲間分けすることに興味を持つ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「えんぴつ」「りんご」「ねこ」「バス」「お母さん」「おはよう」「楽しい」など、身近なもの名前や日常的に使われる言葉が書かれたカード(30語程度)を分類する。</li> <li>・分類に沿って、カードになかった言葉を考えてワークシートに付け足す。</li> <li>・分類に見出しを付け、意味の広い言葉、狭い言葉(上位語・下位語)があることを知る。</li> </ul> <p>『「気持ち」のことは図かん』をみんなで作る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・五味太郎著「言葉図鑑」等の紹介を聞き、「ことは図かん」のイメージを持つ。</li> <li>・気持ちを表す言葉にはどんなものがあるか話し合う。</li> <li>・「うれしい」「かなしい」などの気持ちを表す言葉をどんなときに使うか、具体的な場面を話し合う。</li> <li>・図鑑に書く言葉を分担し、用紙1枚(A5サイズ程度)に気持ちを表す言葉を使った一文と、それに合った簡単な挿絵をかく。</li> <li>・用紙を重ねて冊子にする。</li> </ul> 
3 4	①言葉集めや言葉の分類に興味を持ち、「なかまのことは図かん」を作ろうとしている。 (国語への関心・意欲・態度)	ワークシート ことば図鑑 振り返りカード	<p>「〇〇のことは図かん」を作る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1時で使ったカードを参考にしながら「ことは図かん」のテーマを決め、テーマに関連する言葉を選んだり新たに見付けたりしてワークシートに書き出す。</li> <li>・同じテーマを選んだ友達と、ワークシートを示しながら言葉を紹介し合う。</li> <li>・「ことは図かん」に載せる言葉を決め、ワークシートに印を付ける。</li> <li>・「ことは図かん」の題名としてテーマを表紙に書く。用紙1枚(A5サイズ程度)に、一つの言葉(その言葉を使った主述の整った一文)と簡単な挿絵をかく。</li> <li>・言葉と挿絵をかいた用紙を重ねて冊子にする。</li> <li>・様々なテーマの「ことは図かん」を読み合い、分かったことを伝え合う。</li> </ul>

【Cと評価した児童への手立ての例(上記の評価規準の順)】

②言葉カードの中から好きなものを一つ選ばせ、教師が仲間の言葉を提示する。同様に仲間の言葉を挙げさせた後、それらに共通することは何かを考えさせる。(イ(ウ))

①日頃の生活から関心のある事柄を教師が示唆し、それに関連する言葉を考えさせる。

(国語への関心・意欲・態度)

**言葉の働きや特徴に関する事項 [中学校第2学年]**

【〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕に関する生徒の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力  
 ○世代や年齢，地方や地域による言葉の違いや，話し言葉と書き言葉の違いを理解している。  
 ◆時と場に応じて言葉を使い分ける意味を理解して言葉を使う。

**【身に付けさせたい力】**

- ①共通語と方言についてそれぞれの特徴を理解する。 〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②共通語と方言の果たす役割について理解すること。 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ア)〉

**【単元名】** 地域の昔話から方言を見付けよう～共通語と方言の役割について考える～

**【教材名】** 〈開発教材〉

**【単元目標】**

- ①共通語と方言についてそれぞれの特徴を理解し，書き換えようとする。 〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②共通語と方言の果たしている役割について理解する。 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ア)〉

**【授業の具体例】**

時	評価規準	評価方法	学習活動
1	②共通語と方言が果たしている役割について理解している。 〈言語についての知識・理解・技能イ(ア)〉	ワークシート	<p><b>方言の使われている昔話を聞き，方言に興味を持つ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に残る昔話の読み聞かせ（又はCD）を聞き，受けた感じを話し合う。</li> <li>・昔話の中から方言をいくつか取り出し，言葉の意味を確かめる。また，方言が使われている意味を考える。</li> </ul> <p><b>方言の使われている昔話を共通語に書き換える</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に残る昔話をグループで一つ選んで数行ずつ担当し，他の地域の人が読んでも分かるように共通語に書き換える。</li> <li>・方言で書かれたものと共通語に書き換えたものを読み比べる。他のグループが担当した昔話も交換して読む。</li> <li>・読み比べたことを基に，方言でないと伝わりにくいもの，共通語だからこそ伝わるものなど，それぞれの特性について話し合う。</li> <li>・共通語と方言との違いについて考えたことをまとめる。</li> </ul>
2	①共通語と方言についてそれぞれの特徴を理解し，書き換えようとしている。 〈国語への関心・意欲・態度〉	書き換えた昔話  振り返り用紙	

**【Cと評価した生徒への手立ての例（上記の評価規準の順）】**

- ②方言で書かれた部分を共通語に書き換えたものを提示し，感じ方がどのように異なるか考えさせる。〈イ(ア)〉
- ①方言の使われたものと共通語に書き換えたもののどちらが好きか選ばせ，その理由を考えさせる。  
 〈国語への関心・意欲・態度〉

## (7) 文字（小学校）・漢字（中学校）に関する事項

漢字の指導については、日常生活（中学校では社会生活）や他教科等の学習における使用や、読書活動の充実に資することを重視して改善を図っている。

ローマ字の指導については、情報機器の活用や他の学習活動等との関連を考慮し、従前の第4学年から第3学年に移行している。

### ア 語句解説及び留意点（学習指導要領解説国語編より）

#### 小学校低学年

(7) 平仮名及び片仮名を読み、書くこと。また、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。

片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと 擬声語や擬態語、外国の地名や人名、外来語など片仮名で書く語がどのような種類の語であるかを知り、実際に文や文章の中で片仮名を使うこと。

(イ) 第1学年においては、別表の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。

漸次書き、文や文章の中で使うこと 学習した漢字を習得できるように少しずつ練習を重ねるとともに、実際の文や文章で使うようにすること。

※第1学年の配当漢字には、象形文字や指事文字が多く含まれているので、漢字の字形と具体的な事物（実物や絵など）とを結び付けるなどの指導を工夫し、漢字が表意文字であることを意識しながら、漢字に対する興味や関心を高められるようにする。

※漢字単独の読みだけではなく、文や文章の中で漢字を読むことも大切にして、文脈の中での意味と結び付けていくようにする。

(ウ) 第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。

#### 小学校中学年

(7) 第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、また、ローマ字で書くこと。

日常使われている簡単な単語 地名や人名などの固有名詞を含めた、児童が日常目にする簡単な単語のこと。

(イ) 第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。

※「(ウ)漢字のへん、つくりなどの構成について知識をもつこと。」と関係付けながら、漢字の読み書きに関する指導を進める。

※漢字辞典の使い方に慣れてきたら、自分で新出漢字の読みや意味などを調べる活動も取り入れるようにする。

※中学年は、漢字による熟語などの語句が増加する時期でもある。文や文章を書く際には、漢字のもつ意味を考えながら正しく使ったり、当該学年の前の学年までに学習した漢字を意識して使ったりする習慣を付けるように指導することが大切である。

(ウ) 漢字のへん、つくりなどの構成についての知識をもつこと。

#### 小学校高学年

(7) 第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。

※高学年は、漢字による熟語などの語句の使用が増加する時期でもある。文や文章を書く際には、漢



字のもつ意味を考えながら正しく使ったり、「収める」、「納める」、「治める」などの同音異義語に注意して使ったりする習慣を付けるように指導する。

(イ) 仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。

※仮名や漢字がどのように形成され、継承されてきたのかなどについて基本的な知識をもつこと、また、表音文字としての平仮名や片仮名、表意文字としての漢字の特質を理解すること、文章が漢字仮名交じりで表記されていることや、漢字には原則として音と訓の読み方があることなどをまとめた知識として整理することなどである。

### 中学校第1学年

(ア) 小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）

に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むこと。

※漢字を読む能力としては、漢字一字一字の音訓を理解し、語句として、話や文章の中において文脈に即して意味や用法を理解しながら読むことができるようにすることが求められる。そのため、教科書を読むことや読書を通して、漢字の読みの習熟と応用を図ることが大切である。

※字形と音訓、意味と用法、語の成り立ち、熟語の構成などについて必要に応じて指導し、例えば、漢字の構成要素である「へん」や「つくり」などに注目して、読みを類推することができるように指導することが大切である。

※書くこと、読むことの中だけではなく、話すこと・聞くことの指導においても、例えば、同音の語句の意味に誤って理解されそうなどときには、漢字を例示することでこれを避けるといったような活動を取り入れるなど、機会あるごとに漢字を意識させるように配慮することが大切である。

(イ) 学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うこと。

※字体、字形、音訓、意味や用法などの知識を得させ、文脈に即して漢字を書くように常に注意しながら学習させることが大切である。

※文章の中ばかりではなく、話すこと・聞くことの学習の中や、他教科の学習や日常の会話の中でも漢字の書きについて意識させるようにする。

※漢字を書く力を養うためには、実際に書く活動を通して、漢字を正しく用いる態度と習慣とを養う。そのためには、必要に応じて辞書を引くことを習慣付けることが有効である。

※漢字を書く指導では、書写との関連を図ることが大切である。

### 中学校第2学年

(ア) 第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むこと。

(イ) 学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うこと。

### 中学校第3学年

(ア) 第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むこと。

(イ) 学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れること。

※学年別漢字配当表に示している1,006字の漢字は、他教科の学習や社会生活において使用することの多い漢字であり、第3学年が終了するまでに、多様な語句の形で使ったり、様々な文脈の中で使ったりすることができるよう指導する。

## イ 「指導計画の作成と内容の取扱い」について（小学校学習指導要領解説国語編からの抜粋）

(ア) 学年ごとに配当されている漢字は、児童の学習負担に配慮しつつ、必要に応じて、当該学年以前の学年又は当該学年以降の学年において指導することもできる。

※第2学年の漢字の指導の際、「昔話」や「自転車」のように、「話・自」は第2学年、「昔・転」は第3学年の配当漢字であり（「車」は第1学年）、配当学年が異なる漢字で構成されている熟語が出てくる場合がある。そのとき、第2学年であっても、必要に応じて「昔話」、「自転車」などのように漢字の熟語として提示してよい。その際、(イ)の事項と関連して、児童の学習負担が過重にならない

よう配慮が必要であり、後の学年の配当漢字である「昔・転」については、振り仮名を付けて「昔話」「自てん転車」のように提示することになる。

- (イ) 当該学年より後の学年に配当されている漢字及びそれ以外の漢字については、振り仮名を付けるなど、児童の学習負担に配慮しつつ提示することができる。

### ウ 指導計画例

「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」に「特定の事項をまとめて指導したり、繰り返して指導したりすることが必要な場合については、特にそれだけを取り上げて学習させるよう配慮すること。」とある。ここでは、実際指導する場面の多い、「文字に関する事項」のみを扱う例として小学校中学年と中学校第1学年の2例を示した。

#### 文字に関する事項 [小学校中学年]

【〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕に関する児童の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力

- 提示された漢字は積極的に使おうとする。
- 部首について、いくつかの種類があることを理解している。
- ◆漢字に興味を持ち、文章の中で適切に漢字を使う。
- ◆部首に意味があることを知らないで漢字を使っている。

#### 【身に付けさせたい力】

- ①部首に興味・関心を抱き、部首や漢字の成り立ちの物語を作ろうとする。〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②漢字のへん、つくりなどの構成についての理解をすること。

〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項ウ(ウ)〉

【単元名】 部首や漢字の成り立ちの物語を作ろう～漢字の構成について理解する～

【教材名】 〈開発教材〉

#### 【単元目標】

- ①選んだ部首や漢字の成り立ちの物語を作ろうとする。 〈国語への関心・意欲・態度〉
- ②漢字のへん、つくりなどの構成について理解をすること。 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項ウ(ウ)〉

#### 【授業の具体例】

時	評価規準	評価方法	学習活動
1	②漢字のへん、つくりなどの構成について理解している。 〈言語についての知識・理解・技能ウ(ウ)〉	ワークシート	<b>部首や漢字の成り立ちに興味を持つ</b> ・漢字の成り立ちについて説明した文章を読む。 ・漢字辞典で成り立ちを確認する。 ・他の部首や漢字の成り立ちを漢字辞典などを使って調べる。
2	①選んだ部首や漢字の成り立ちを物語にしようとしている。 〈国語への関心・意欲・態度〉	ワークシート	<b>漢字の成り立ちを物語にする</b> ・見本を参考にしながら、自分の選んだ部首や漢字の成り立ちを前時に調べた内容を基に物語にする。 ・グループで交流し、自分が調べたもの以外の漢字の成り立ちを知る。

#### 【Cと評価した児童への手立ての例（上記の評価規準の順）】

- ②分かりやすい漢字と一緒に漢字辞典を引き、成り立ちが書いてあるところを確認する。〈ウ(ウ)〉
- ①「辞書に書いてあることそのままでもよいから書き出そう」と声掛けをする。〈国語への関心・意欲・態度〉

**文字に関する事項 [中学校第1学年]**

- 【〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〉に関する生徒の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力  
 ○国語の授業では、分からない漢字などは国語辞典を使って調べる。  
 ◆小学校で学習してきた漢字を、各教科でのノートや班日誌等、日常生活で使う。

**【身に付けさせたい力】**

- ①できるだけ多くの漢字を使って文章を書けるよう、普段使わない漢字への興味・関心を高める。  
 〈国語への関心・意欲・態度〉  
 ②学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れること。  
 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項ウ(イ)〉

**【単元名】 お気に入りの物語の写本を作ろう～文や文章の中で漢字を使い慣れる～**

**【教材名】 〈開発教材〉**

**【単元目標】**

- ①漢字への興味・関心を高め、できるだけ多くの漢字を使って物語を表記しようとする。  
 〈国語への関心・意欲・態度〉  
 ②学年別漢字配当表を活用し、既習の物語文をできるだけ多くの漢字を使って表記する。  
 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項ウ(イ)〉

**【授業の具体例】**

時	評価規準	評価方法	学習活動
1	②学年別漢字配当表を活用し、既習の物語文をできるだけ多くの漢字を使って表記している。 〈言語についての知識・理解・技能ウ(イ)〉	ワークシート	平仮名を漢字に書き直すことに興味を持つ ・「うらにわにはにわにわにはにわにわとりがいる。」 （裏庭に埴輪，庭には二羽鶏がいる。）などの早口言葉を、どこで区切って読むか考える。 ・漢字を使って書き直した早口言葉を読む。 <b>書き直す物語を選ぶ</b> ・既習の小学校低・中学年の物語から、写本を作りたいものを選ぶ。 ・漢字に直せそうな部分に印を付ける。 ・友達とワークシートを交換し、更に漢字に直せるところがないか助言し合う。
2	①漢字への興味・関心を高め、できるだけ多くの漢字を使って物語を表記しようとしている。 〈国語への関心・意欲・態度〉	写本	<b>漢字を使って写本を作る</b> ・辞書や教科書掲載の常用漢字表を使い、確かめながら漢字を使って物語を表記する。 ・どれくらい漢字が使われているか写本を読み合い、感想を伝え合う。

**【Cと評価した生徒への手立ての例（上記の評価規準の順）】**

- ②漢字に直す部分を見付けられない生徒には、一つの段落を使って見付け方を示す。〈ウ(イ)〉  
 ①印を付けた部分から、数や段落などどこを直すか選択させて漢字に直させる。  
 〈国語への関心・意欲・態度〉

文字・漢字に関する事項の参考例として、HP「あすなる学習室」(国語の部屋「文字の部屋」)がある。これを授業や家庭学習等で活用していくことも、児童に漢字に興味を持たせるのに有効である。内容は、次のとおりである。



小学校低学年	かんじでかいてみよう おなじぶぶんのあるかんじ ましがえやすいひらがな ましがえやすいカタカナ かきじゅん
小学校中学年	へんとつくり かんむりとあし かまえ たれ によろ 書き順 ローマ字のたつ人になろう 漢和辞典(じてん)を引いてみよう 読みが同じで意味がちがうことば 漢字名人になろう とくべつな読み方
小学校高学年	漢字の成り立ちを知ろう これでバッチリ仮名づかい これでキミも漢字博士 特別な読み方 日本語の文字 漢和辞典を使おう 書き順
中学校第1学年	漢字の基礎知識 漢字の部首 漢和辞典に親しもう 漢字の練習
中学校第2, 3学年	特別な読み方 同音異字と同訓異字 漢字の練習

## (8) 書写に関する事項

小学校では、文字を書く基礎となる「姿勢」、「筆記具の持ち方」、「点画や一文字の書き方」、「筆順」などの事項から、「文字の集まり(文字群)の書き方」に関する事項へ、さらに、「目的に応じた書き方」に関する事項へと系統的に指導し、日常生活や学習活動に生かすことのできる書写の能力を育成することが重要である。

中学校では、小学校の指導を踏まえ、文字を書くことに関する知識・技能の育成が、国語科をはじめとする各教科等の学習場面や社会生活における、話す、聞く、書く、読むといった言語活動に役立つようにすることが大切である。また、我が国の伝統的な文字文化やこれからの社会に役立つ様々な文字文化に関する認識及びそれらに親しむ態度の育成も大切である。

### ア 語句解説及び留意点(学習指導要領解説国語編より)

#### 小学校低学年

#### ア 姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書くこと。

**姿勢** 文字を書くときの構えのこと。

※正しい姿勢になるには、背筋を伸ばした状態で体を安定させたり、書く位置と目の距離を適度にとったり、筆記具を持ったときに筆先が見えるようにすることが重要である。

**筆記具** 低学年では、鉛筆やフェルトペン

**持ち方を正しく** 人差し指と親指と中指の位置、手首の状態や鉛筆の軸の角度などを適切にすること。

**文字の形** 主として文字の概形のこと。概形とは、「○、□、◇、△」などの形に類型化される文字のおおよその形のこと。

**丁寧に書く** 始筆から送筆、さらに終筆(とめ、はね、はらい)までを確実に書き、その積み重ねで文字の形を整えていくこと。

#### イ 点画の長短や方向、接し方や交わり方などに注意して、筆順に従って文字を正しく書くこと。

**点画** 文字を構成する「横画、縦画、左払い、右払い、折れ、曲がり、そり、点」などのこと。

**長短や方向、接し方や交わり方** 文字を構成する点画の形状や点画相互の位置関係のこと。

**長短や方向** 点画の形状のこと。

※例えば、「三」の場合、仮に一画目が他の二画に比べて長すぎたり、その方向が横方向ではなくて縦方向を向いていたりすると、その文字は「三」という文字としては認識されにくいし、正しく整っているとは言えない。

**接し方や交わり方** 点画相互の位置関係のこと。

**筆順** 書き進む際の合理的な順序が習慣化したもののこと。

※学校教育で指導する筆順は、「上から下へ」、「左から右へ」、「横から縦へ」といった原則として一般に通用している常識的なもの。

## 小学校中学年

### ア 文字の組立て方を理解し、形を整えて書くこと。

**文字の組立て方** 点画の組立て方から部首や部分相互の組立て方までを指す。

※中学年では部首と他の部分の組立て方、すなわち左と右、上と下、内と外などの関係において一つの文字が組立てられるという仕組みを理解することを重視する。

**形を整えて書く** 低学年で指導した全体の概形を意識するとともに、一つの文字の構成要素となる部分相互が等間隔であること、左右対称であること、同一方向であることなどを考えて書くこと。

### イ 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。

**漢字や仮名の大きさ** 漢字と漢字、漢字と仮名、仮名と仮名との相互のつり合いから生じる相対的な大きさのこと。

※画数の多い文字ほど大きく書き、画数の少ない文字ほど小さく書くと、並べたときに読みやすい文字列になる。

**配列に注意する** 行の中心や行と行との間、文字と文字との間がそろっているかなど文字列及び複数の文字列に注意するということ。

※読みやすい文や文章を書くには、一文字一文字を整えることに加え、文字の集まりという面から整えることが重要。字数を多く書くことや、毛筆に慣れるということから小筆の活用にも配慮する。

### ウ 点画の種類を理解するとともに、毛筆を使用して筆圧などに注意して書くこと。

**筆圧** 筆記具から用紙に加わる力のこと。

※点画には、左右の払いのように筆圧を変化させて書くものや、横画のようにほぼ等しい筆圧で書くものもある。

## 小学校高学年

### ア 用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを決めるとともに、書く速さを意識して書くこと。

**用紙** 原稿用紙や便箋<sup>せん</sup>などの書式に対応した用紙、半紙、画用紙や模造紙などの白紙に始まり、それらに準ずる布や金属、ガラスなどといった用材全般のこと。

**文字の大きさ** 高学年では、主に用紙全体との関係から判断される文字の大きさのこと。

※例えば、用紙全体からはみださずに書く、逆に余白をつくり過ぎずに書く、また、用紙の中で見出しの文字を目立たせる、地の文章の文字は控えめに見せるといったようなことである。

**配列** 高学年では、用紙全体との関係から考えられる文字の位置、字間、行間などの効果的な在り方に重点を置いている。

**書く速さを意識する** 書く場面の状況によって速さが決まってくることを意識すること。速く書くことが求められるだけでなく、ゆっくりと丁寧に書くことが求められる場面もある。

### イ 目的に応じて使用する筆記具を選び、その特徴を生かして書くこと。

**目的** 生活や学習活動において文字を書く様々な場面における目的のこと。

**筆記具** 鉛筆、フェルトペン、毛筆、ボールペン、筆ペンなどから選択する。

**特徴** 筆記具全体の形状、書く部分の材質や形状、色など。

### ウ 毛筆を使用して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書くこと。

※点画の中での穂先の動きだけでなく、点画から点画へ、更には、文字から文字へと移動していく過程に重点を置く。したがって、「穂先の動き」と「点画のつながり」とは一体化した事項と言える。

## 中学校第1学年

### ア 字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書<sup>かい</sup>で書くこと。

**字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解する** 書こうとする文字の字形を整えること、紙面全体に対してそれぞれの文字の大きさや書くべき位置を考えて調和的に割り当てること、文字と文字との間の空け方や行の中心の取り方に注意すること、行と行の間の空け方に注意することなど。

### イ 漢字の行書の基礎的な書き方を理解して書くこと。

**漢字の行書の基礎的な書き方** 直線的な点画で構成されている漢字を、点や画の形が丸みを帯びる場合があること、点や画の方向及び止めや払いの形が変わる場合があること、点や画が連続したり省略されたりする場合があること、筆順が変わる場合があることなどといった行書の特徴を伝統的な文字文化として理解して書くこと。

※字形の整え方、運筆の際の筆圧のかけ方、点画のつながりなどを身に付けさせるために、毛筆の活用に配慮する必要がある。

### 中学校第2学年

ア **漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くこと。**

**読みやすく** 読み手への伝達を意識すること。

※「読みやすく速く書くこと」は、漢字の行書とそれらに調和した仮名の書き方に慣れさせ、国語科をはじめとする各教科等の学習場面や社会生活における話す、聞く、書く、読むといった言語活動に役立たせるための重要な指導である。

イ **目的や必要に応じて、楷書又は行書を選んで書くこと。**

**目的や必要に応じて** 国語科をはじめとする各教科等の学習や社会生活における文字を書く目的や必要に応じて、その書体や筆記具を選択しつつ効果的な文字の書き方を工夫すること。

※メモやノート、届け出の書類、願書、会議録、ポスターや掲示物、はがきや封書といった様々な書式に合わせて、適切な字形や書体、筆記具で書く。

**楷書又は行書を選んで書くこと** 学習や生活における様々な場面において、楷書で書いた方がよい場合と行書で書いた方がよい場合とがあることを踏まえ、習得した書体に関する知識や技能を目的や必要に応じて主体的に選択し、書くこと。

### 中学校第3学年

ア **身の回りの多様な文字に関心をもち、効果的に文字を書くこと。**

**身の回りの多様な文字に関心をもつ** 手書き文字だけでなく、活字やイラスト文字などの社会生活で使用されている多様な書体や字形の文字や、それらの文字の使われ方などに関心をもつこと。

**効果的に文字を書く** 文字の伝達性や表現性などを考えながら目的や必要に応じて書くこと。

※身の回りの多様な文字に関心をもちながら、字形を正しく整える能力、配列などを整える能力、速く書く能力、楷書や行書を使い分ける能力、筆記具の選択について工夫する能力など、小学校からこれまでに身に付けてきた書写の能力を総合的に発揮させるように指導する。

イ 「指導計画の作成と内容の取扱い」について（学習指導要領解説国語編より）

#### 小学校

硬筆を使用する書写の指導は各学年で行い、毛筆を使用する書写の指導は第3学年以上の各学年で行うこと。また、毛筆を使用する書写の指導は硬筆による書写の能力の基礎を養うよう指導し、文字を正しく整えて書くことができるようにするとともに、各学年年間30単位時間程度を配当すること。

#### 中学校

ア 文字を正しく整えて速く書くことができるようにするとともに、書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てるよう配慮すること。

イ 硬筆及び毛筆を使用する書写の指導は各学年で行い、毛筆を使用する書写の指導は硬筆による書写の能力の基礎を養うようにすること。

ウ 書写の指導に配当する授業時数は、第1学年及び第2学年では年間20単位時間程度、第3学年では年間10単位時間程度とすること。

ウ 指導計画例

「日常生活や学習活動に生かす」ことに関連させた「書写に関する事項」の指導計画例として、小学校高学年と中学校第3学年の2例を示した。

**書写に関する事項〔小学校高学年〕**

- 【〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕に関する児童の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力  
 ○半紙に合わせた字の大きさで作品となる字を書いたり、小筆で名前を書いたりする。  
 ○毛筆の穂先の動きと点画のつながりを意識して書く。  
 ◆半紙以外の用紙において、用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを決める。  
 ◆日常生活の中で毛筆に触れる。

**【身に付けさせたい力】**

- ①言葉に合った文字の大きさや配列を考えて書こうとする態度を育てる。〈国語への関心・意欲・態度〉  
 ②用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを決めるとともに、書く速さを意識して書くこと。  
 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 書写ア〉

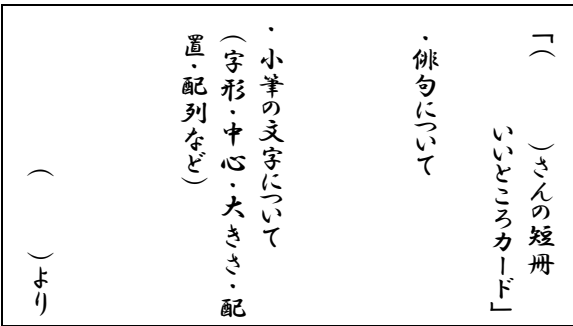
**【単元名】俳句を書こう～文字の大きさや配列を考えて書く～**

**【教材名】〈開発教材〉**

**【単元目標】**

- ①俳句の言葉に合った文字の大きさや配置、配列を考え、字形を整えて書こうとする。  
 〈国語への関心・意欲・態度〉  
 ②短冊用紙との関係に注意し、文字の大きさや配置、配列を考え、字形を整えて自作の俳句を短冊用紙に書く。  
 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 書写ア〉

**【授業の具体例】**

時	評価規準	評価方法	学習活動
1			前時の単元「短歌と俳句」で自作した俳句を、小筆で短冊用紙に書いて、校内に掲示するという学習の見通しを持つ ・自作の俳句を半紙に毛筆で試書し、字形の確認をする。 ・短冊大の用紙で、文字の大きさ、配置、配列を考える。(硬筆で書いて検討してもよい。) ・次時に向けて字形、文字の大きさ、配置、配列を意識した自己課題を明確にし、ワークシートに書き込む。
2	②短冊用紙との関係に注意し、文字の大きさや配置、配列を考え、字形を整えて自作の俳句を短冊用紙に書いている。 (言語についての知識・理解・技能 書写ア) ①俳句の言葉に合った文字の大きさや配置、配列を考え、字形を整えて書こうとしている。 (国語への関心・意欲・態度)	短冊用紙に書かれた文字 ワークシート	短冊用紙に清書をする ・前時に設定した課題に気を付けながら書く。 ・自己課題を基に自己評価する。 ・余裕がある場合は、色鉛筆などで絵を添える。 短冊用紙を友達と交換し、「〇〇さんの短冊 いいところカード」を書き交流する 

**【Cと評価した児童への手立ての例 (上記の評価規準の順)】**

- ②整った字が書けない児童には、短冊用紙(練習用紙)に、文字を書く位置に鉛筆で印を付けて書くように指示する。〈書写ア〉  
 ①自分が考えたように文字の大きさや配列を決められるよさを伝える。〈国語への関心・意欲・態度〉

**書写に関する事項〔中学校第3学年〕**

- 【〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕に関する生徒の実態】○身に付けてきた力 ◆課題が見られる力  
 ○楷書、行書の手本に忠実に書く。  
 ◆日常生活の中で毛筆を使い、目的や場面に合った効果的な文字を書く。

**【身に付けさせたい力】**

- ①書く目的や必要に応じて効果的に書こうとする態度を育てる。 〈国語への関心・意欲・態度〉  
 ②身の回りの多様な文字に関心を持ち、効果的に文字を書くこと。  
 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 書写ア〉

**【単元名】「日めくりカレンダー」を作ろう～効果的な文字や配列で書く～**

**【教材名】〈開発教材〉**

**【単元目標】**

- ①自分の選んだ言葉にふさわしい書体や配列などを考えて書こうとする。 〈国語への関心・意欲・態度〉  
 ②文字の伝達性や表現性などを考えて、自分の選んだ言葉を効果的な書体や配列で書く。  
 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 書写ア〉

**【授業の具体例】**

	評価規準	評価方法	学習活動
国語 1			<p>国語の時間を利用し、卒業までの「日めくりカレンダー」を作成していく活動の見通しを持つ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>見本を提示し、書き込む項目を確認する。 (例)</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p style="text-align: center;">氏名 ○ ○</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">克己復礼</p> <p>3月4日(金)公立入試の日 卒業まであと14日 言葉の意味:私欲に打ち勝ち、礼儀に～ みんなへのメッセージ:試験頑張れ!</p> </div> <p>言葉を選ぶ。(国語便覧などを活用する。意味調べを含む。)</p> <p>書体や配列を考える。(自分が選んだ言葉を大きく画用紙の上段に書く。)</p> <p>太筆、小筆のよさを考え、文字により効果的に選択する。</p> <p>下段は、使用したい筆記具で仕上げる。毛筆で仕上げたい場合は書写の時間に書く。</p>
書写 1	<p>②文字の伝達性や表現性などを考えて、自分の選んだ言葉を効果的な書体や配列で書いている。                      (言語についての知識・理解・技能 書写ア)</p> <p>①自分の選んだ言葉にふさわしい書体や配列などを考えて書こうとしている。                      (国語への関心・意欲・態度)</p>	<p>カレンダー (画用紙)</p> <p>振り返りカード</p>	<p>試書で字形の確認をした後、半紙で練習をし、画用紙に書く</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>行書で書く場合は、「行書の特徴」について教科書等で確認をする。</li> <li>教室(前後の黒板や廊下など)に作品を掲示し、友達の作品を鑑賞する。</li> <li>鑑賞カードを使用し、自分の割当ての日の前後3～4人の作品に対し、書体や配列等の評価やコメントを記入する。</li> <li>カードを渡しながら交流し、もらったカードは画用紙の裏に貼る。</li> <li>自己評価を振り返りカードに記入する。 (・カードを貼り終えたら回収し、学級の日めくりカレンダーを完成させる。)</li> </ul>

**【Cと評価した生徒への手立ての例(上記の評価規準の順)】**

- ②選んだ文字を実際の画用紙を用いて一緒に配列し、鉛筆で下書きを済ませておく。(書写ア)  
 ①便覧のことわざ、故事成語、四字熟語などが載っているページを見せて、言葉を選んでみようとして投げ掛け、まずは言葉選びへの興味・関心を高めさせる。(国語への関心・意欲・態度)